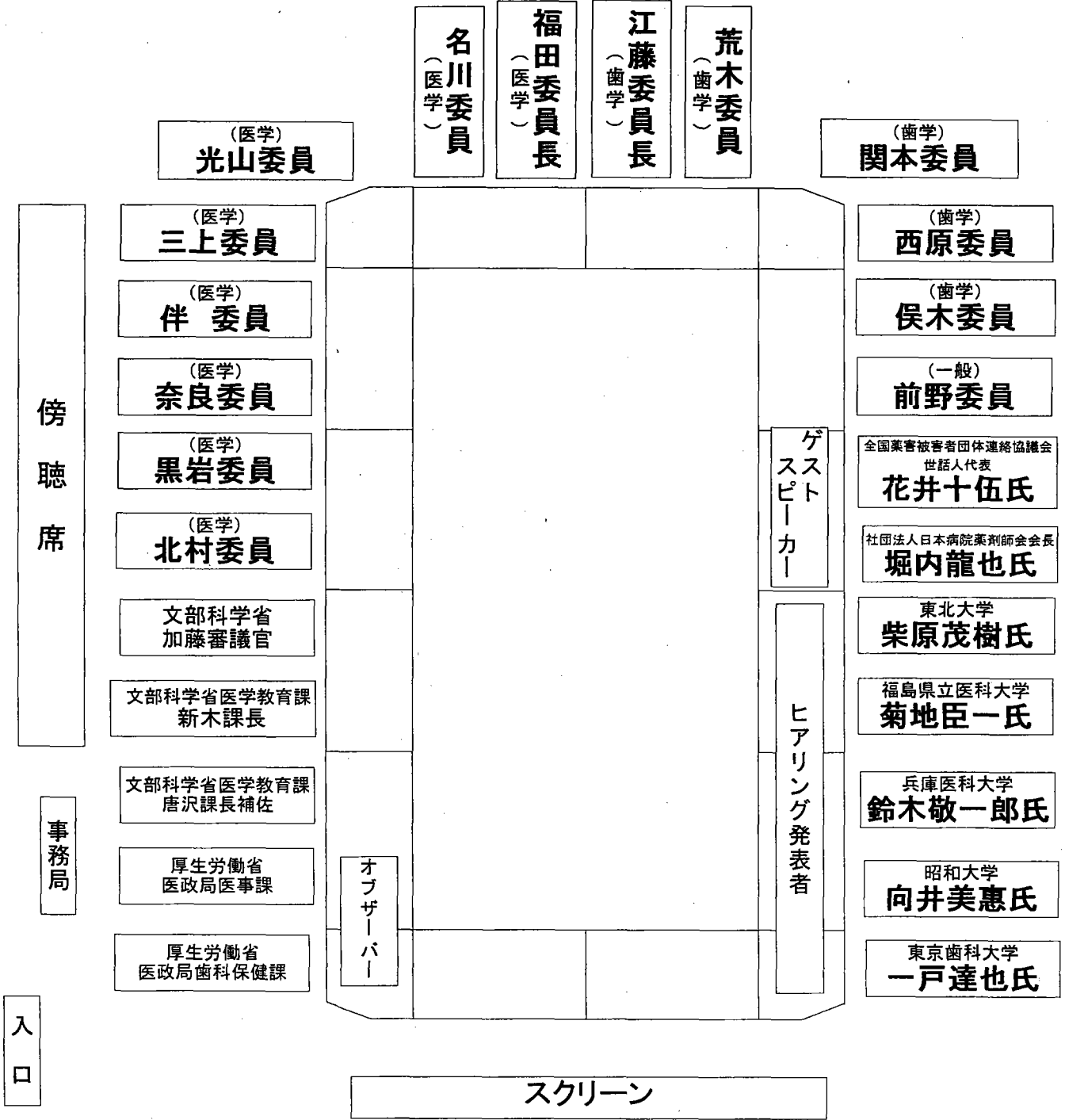


○モデル・コア・カリキュラム改訂に関する「専門研究委員会」(第7回)  
 <医学・歯学合同>  
 【座席表】



名川委員  
(医学)

福田委員長  
(医学)

江藤委員長  
(歯学)

荒木委員  
(歯学)

(医学)  
光山委員

(歯学)  
関本委員

(医学)  
三上委員

(歯学)  
西原委員

(医学)  
伴委員

(歯学)  
俣木委員

(医学)  
奈良委員

(一般)  
前野委員

(医学)  
黒岩委員

全国薬害被害者団体連絡協議会  
世話人代表  
花井十伍氏

(医学)  
北村委員

社団法人日本病院薬剤師会会長  
堀内龍也氏

文部科学省  
加藤審議官

東北大学  
柴原茂樹氏

文部科学省医学教育課  
新木課長

福島県立医科大学  
菊地臣一氏

文部科学省医学教育課  
唐沢課長補佐

兵庫医科大学  
鈴木敬一郎氏

厚生労働省  
医政局医事課

昭和大学  
向井美恵氏

厚生労働省  
医政局歯科保健課

東京歯科大学  
一戸達也氏

オブザーバー

ゲスト  
スピーカー

ヒアリング発表者

傍聴席

事務局

入口

スクリーン

「横浜市立大学医学部における医学教育カリキュラム改革の取り組み」

医学部長 黒岩義之

文部科学省におけるモデル・コアカリキュラム見直し検討会議（「連絡調整委員会」「専門研究委員会」、全国 80 大学ワークショップのグループ別全体報告会）では、3 本柱（診療技能教育充実、地域医療マインド涵養、研究マインド涵養）を中心に、

1. 臨床実習の充実
2. 地域保健医療教育の充実
3. 研究マインド教育の充実（モデルコアカリ A の主項目とする）
4. 医学基礎教育の充実（準備教育モデルコアカリの中にある生物学や物理学の教育をモデルコアカリ B にも含める）
5. 項目の整理の観点から学生が学びやすいように再編成する（「人の死」をモデルコアカリ F に含める、E と G の項目重複の整理）などについて合意が得られました。

横浜市立大学医学部においても、これらを踏まえ、何度も会議を重ねたうえで（医学科カリキュラム運営会議、医学科教授会）、医学教育カリキュラム改革に取り掛かっていましたが、ここに改革案を完成しました。この案は去る 2011. 1. 5. 医学科カリキュラム運営会議で承認され、2011. 1. 12. の医学科教授会に提案され、その後、各方面の意見を踏まえ、さらに修正したものであります。

1. 臨床実習の充実を図る。臨床実習を 1 年 10 か月実施し、6 年次教育の空洞化を排除する。具体的には内科・外科などのコアになる各科は 3 週、それ以外の各科は 1～2 週とする。ステューデント・ドクター認定式を行う。
2. 地域保健医療のマインドを涵養する教育を活性化する目的で社会医学を充実させる。
3. リサーチマインド教育プログラムを充実させる。具体的には基礎・臨床両方の教室配属期間（4 年次 1 学期）を設け優秀な成果をあげた学生に医学部長賞を授与する。
4. 医学科基礎教育科目（準備教育モデルコアカリ[教養教育]と医学専門教育の橋渡し科目）を充実させる。具体的には医科学演習（短期間の教室配属）、生物学、物理学、化学、臨床心理学の教育を充実させ、基礎学力を養う。語学教育を充実させる。具体的には、1 年次に Advanced Practical English を活用、医学英語を 5 年で学ばせる。
5. 問題基盤型教育のスリム化を図る。現行の PBL を純粋な PBL と症候学講義に分離させる。学生が学びやすいように臨床系統講義の再編を行う。

# 医学教育モデル・コア・カリキュラム (H13.3策定、H19.12一部改訂) (概要)

- 全ての医学部学生が卒業時まで共通して修得すべき必須の基本となる教育内容(一般目標)と到達目標を明記
- 学生の履修時間数(単位数)の3分の2程度を目安としたもの(残り3分の1程度は各大学が特色ある選択制カリキュラムを実施)
- 冒頭に「医師として求められる基本的な資質」を明記し、全体は「基本事項」(A)、「臨床前教育」(B~F)、「臨床実習」(G)で構成
- 生物学をはじめとする基礎科学については、別途「準備教育モデル・コア・カリキュラム」として、基本となる内容を明記
- 一部の学習項目(C~F)には、臨床開始前に修得すべき内容に加え、卒業時まで修得すべき到達目標を明記(「△」印を付与)
- 臨床実習(G)には、一般目標と到達目標に加えて、「実習形態」と「症例」を明記

教養教育

選択制カリキュラム (学生の履修時間数(単位数)の3分の1程度)

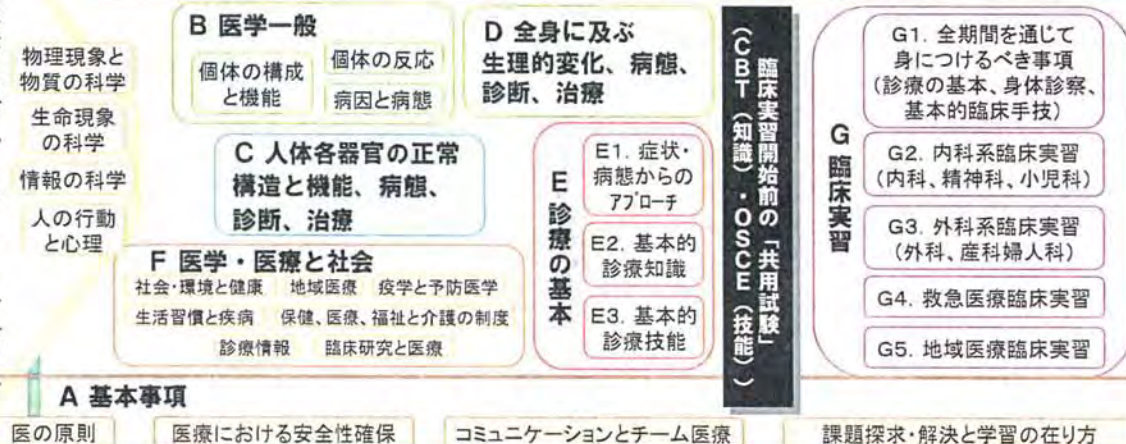
数学・生物学・化学・物理学・語学教育など

準備教育モデル・コア・カリキュラム

## 医学教育モデル・コア・カリキュラム

(学生の履修時間数(単位数)の3分の2程度)

医師として求められる基本的な資質



医師国家試験

# 歯学教育モデル・コア・カリキュラム (H13.3策定、H19.12一部改訂) (概要)

- 全ての歯学部学生が卒業時まで共通して修得すべき必須の基本となる教育内容(一般目標)と到達目標を明記
- 学生の履修時間数(単位数)の概ね6割程度を目安としたもの(残り4割程度には各大学が特色ある選択制カリキュラムを実施)
- 冒頭に「歯科医師として求められる基本的な資質」を明記し、全体は「基本事項」(A・B)、「臨床前教育」(C~F)、「臨床実習」で構成
- 生物学をはじめとする基礎科学については、別途「準備教育モデル・コア・カリキュラム」として、基本となる内容を明記
- 学習項目(A~F)には臨床開始前に修得すべき内容を「\*」印で明記(「\*」印以外は、卒業時まで修得することが適当なもの)
- 臨床実習には、一般目標と到達目標に加えて、別表にて「臨床実習内容」(コア実習:水準1、選択実習:水準2~4)を明記

教養教育

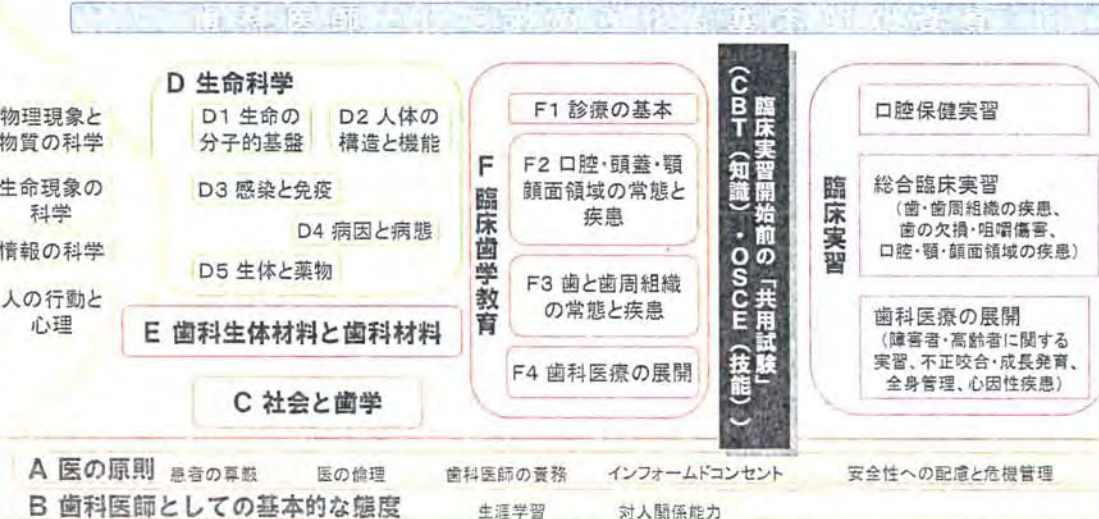
選択制カリキュラム (学生の履修時間数(単位数)の概ね4割程度)

数学・生物学・化学・物理学・語学教育など

準備教育モデル・コア・カリキュラム

## 歯学教育モデル・コア・カリキュラム

(学生の履修時間数(単位数)の概ね6割程度)



歯科医師国家試験

医学教育モデル・コア・カリキュラムの  
改訂に向けて（中間とりまとめ案）

平成23年1月

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

## 目 次

1. 基本的診療能力の確実な習得	
(1) 「医師として求められる基本的な資質」について	2
(2) 「E 診療の基本」及び「G 臨床実習」について	3
2. 地域の医療を担う意欲・使命感の向上	
(1) 「医師として求められる基本的な資質」について	19
(2) 「F 医学・医療と社会」について	20
(3) 「G5 地域医療臨床実習」について	20
3. 基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養	
(1) 「医師として求められる基本的な資質」について	21
(2) 「A 基本事項」について	21
(3) 「B 医学一般」について	23
4. その他	
(1) 様々な社会的ニーズへの対応	27
(2) モデル・コア・カリキュラムの利便性向上等に係る対応	27
別紙1：「医師として求められる基本的な資質」について（全体版）	38
別紙2：「E 診療の基本」と「G 臨床実習」について（改訂版）	39
参考1：これまでの検討経過等について	57
参考2：今回のモデル・コア・カリキュラム改訂に係る基本方針	59
参考3：委員名簿等について	60

## 1. 基本的診療能力の確実な習得

### (改訂趣旨)

臨床実習を系統的・体系的に充実させ、大学はもとより、地域の様々な医療機関等における体験学習や臨床実習等の多様な経験を通じて、診療チームの一員として患者に接し、診察・診断・治療の総合的な判断ができる基本的能力や医療人としての基本的姿勢の確実な習得に資するよう、必要な改訂を行う。

### (改訂方針)

基本的な診療能力の確実な習得を目指して、各大学における主体的で実効性ある教育が展開されるよう、「医師として求められる基本的な資質」の記載内容を修正するとともに、以下の改訂を行い、臨床研修との一貫性にも留意し、臨床実習終了時（卒業時）までに到達すべき総合的な診療能力の基礎としての知識・技能・態度に関する目標を明確にする。

○ 総合的な診療能力の基礎としての知識・技能・態度の習得に向けては、大学や地域の医療機関等における体験学習や臨床実習等の多様な経験を通じて、入学後早期から段階的・有機的に各種取組を推進することが有効であるが、現行の医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、「E（診療の基本）の3(1)～(6)」と「G（臨床実習）の1,2,3,4」との表記の違い等のため、臨床実習終了時（卒業時）の到達目標が、臨床実習前後で一貫性を持ったものとして明確になっていないため、以下のとおり、これらを整理・統合する。

- ・ 臨床実習終了時（卒業時）までの到達目標をGにまとめて示すこととし、「E3(1)～(6)」（基本的診療技能）では、見出しのみを記載し、該当する部分の詳細については「G（〇〇ページ）を参照」と記載する。
- ・ 現行の「G2,3,4」における「実習形態」と「症例」に関する内容は、各大学の裁量に委ねることとし、記載を削除する。

### (具体的な改訂内容)

#### (1) 「医師として求められる基本的な資質」について

○ 現行の「医師として求められる基本的な資質」の③、⑤、⑥について、上記「改訂趣旨」を踏まえ、診療情報の守秘や医療の安全性確保の観点にも留意し、全体的視点から重要性を強調するため、以下のとおり改訂する。

現行	改訂案
医師として求められる基本的な資質	医師として求められる基本的な資質
③ 医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践的能力（統合された知	③ 大学および地域の医療機関等における体験学習や臨床実習等の多様な経験を通

<p>識、技能、態度・行動に基づく総合的診療能力)を有する。</p> <p>⑤ 患者及びその家族の秘密を守る。</p> <p>⑥ 医師として、地域における医療・保健・福祉等の連携および医療の経済的側面等の医療を巡る動向に関心・理解を有する。</p>	<p>して、全身を総合的に診るための実践的能力(統合された知識、技能、態度に基づく総合的診療能力)を具有する。</p> <p>⑤ 診療上知り得た患者及びその家族の情報を守秘し、医療の安全性を確保する。</p> <p>⑥ 地域医療の現場での保健・医療・福祉・介護等の現状と問題点を把握し、その連携強化等の改善・充実に貢献するとともに常に医療の経済的側面等を巡る動向を理解する。</p>
--	---

## (2) 「E 診療の基本」及び「G 臨床実習」について

- 上記「改訂方針」を踏まえ、以下のとおり改訂する。
- また、モデル・コア・カリキュラム本体の前文ならびに E3 と G の冒頭部分において、「注意書き」として、以下の内容を記載する。
  - ・ G1～4 と E3(1)～(6)の学習目標は同一である。一般に、G では、病棟における臨床実習において、実際に患者に接しながら指導医の指導・監督のもとに習得すべき目標となる。一方、E3 では、臨床実習開始前に、学生が卒業時の目標をめざして診察や実技等に関する基本知識を習得し、シミュレータ、模擬患者、学生同士の相互実習等により学ぶべき内容となり、病棟で習得する技能等については、E3 の学習目標とはならない。
- さらに、現行 G の冒頭部分の記載について、以下のとおり「臨床実習全体を」の表記を加え、G と G4 の冒頭部分に記載する。
  - ・ 臨床実習を行うに当たっては、個々の臨床実習を独立して行うのではなく、臨床実習全体を体系的に遂行させる統轄責任者が必要である。
- なお、上記の整理と併せて、G に係る臨床実習終了時(卒業時)の技能・態度等の中で、E に係る臨床実習開始前までに必要最小限身に付けておく必要のある項目を明示することは、臨床実習開始前の共用試験 OSCE の学習・評価項目内容とも密接に関連する。しかし、モデル・コア・カリキュラムは、臨床実習開始前 OSCE 等の出題基準を示すものではないため、その基準作成等については、今後、共用試験の実施主体である社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構等で検討を行うことが適当である。

### <1. 診療の基本>

#### 一般目標

現行	改訂案
G1 全期間を通じて身につけるべき事項 (1) 診療の基本	G1 診療の基本

<p>一般目標： 受持ち患者の情報を収集し、診断して治療計画を立てることを学ぶ。</p>	<p>一般目標： 患者情報の収集、記録、診断、治療計画について学ぶ。</p>
--	--

**【問題志向型システムと臨床診断推論】と【科学的根拠にもとづいた医療】**

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (1) 問題志向型システム 一般目標： 模擬症例について基本的診療計画を立てる。 到達目標： 1) 基本的診療知識にもとづき、症例に関する情報を収集・分析できる。 2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる。 3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。 4) 主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立てられる。</p> <p>(4) 臨床判断 一般目標： 臨床的な判断に関する基本的な考え方を学ぶ。 到達目標： 1) 臨床判断の概念を説明し、考慮すべき要素（病態生理学的・臨床疫学的事実、患者の意向、社会的要因）を列挙できる。 2) 科学的根拠にもとづいた医療（EBM）を概説できる。</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (1) 問題志向型システム (学習項目についてはG 1 を参照)</p> <p>(4) 臨床判断 (学習項目についてはG 1 を参照)</p>
<p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (1) 診療の基本 【問題志向型システム・科学的根拠にもとづいた医療】 到達目標： 1) 基本的診療知識にもとづき、情報を収集・分析できる。</p>	<p>G 1 診療の基本 【問題志向型システムと臨床診断推論】 到達目標： 1) 基本的診療知識にもとづき、症例に関する情報を収集・分析できる。</p>



<p>2) 得られた情報をもとに、問題点を抽出できる。</p> <p>3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。</p> <p>4) 診断・治療計画を立てられる。</p> <p>5) 科学的根拠にもとづいた医療 (EBM) を実践できる。</p>	<p>2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる。</p> <p>3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。</p> <p>4) 主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。</p> <p><b>【科学的根拠にもとづいた医療】</b></p> <p>到達目標：</p> <p>1) 感度・特異度を考慮して、必要十分な検査を挙げることができる</p> <p>2) 科学的根拠にもとづいた治療法を述べるることができる。</p>
---	--

**【診療記録とプレゼンテーション】**

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能</p> <p>(3) 診療記録</p> <p>一般目標：</p> <p>問題指向型診療録 (POMR) と各種診療記録の書き方を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 診療録を POMR 形式で記載する方法を説明できる。</p> <p>2) 診療経過を SOAP で記載する方法を説明できる。</p>	<p>E 3 基本的診療技能</p> <p>(3) 診療記録</p> <p>(学習項目については G 1 を参照)</p>
<p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項</p> <p>(1) 診療の基本</p> <p><b>【診療記録とプレゼンテーション】</b></p> <p>到達目標：</p> <p>1) 診療録を POMR 形式で記載できる。</p> <p>2) 毎日の所見と治療方針を SOAP 形式で記載できる。</p> <p>3) 受け持ち患者の情報を診療チームに簡潔に説明できる。</p>	<p>G 1 診療の基本</p> <p><b>【診療記録とプレゼンテーション】</b></p> <p>到達目標：</p> <p>1) 適切に患者の情報を収集し、POMR を作成できる。</p> <p>2) 診療経過を SOAP で記載できる。</p> <p>3) 症例を適切に要約する習慣を身につけ、状況に応じて提示できる。</p>

## < 2. 診察法 >

### 一般目標

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察 一般目標： シミュレーションなどを通じて基本的な身体診察を学ぶ。</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察 (学習項目についてはG 2を参照)</p>
<p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (2) 身体診察 一般目標： 受持ち患者の基本的な身体診察ができる。</p>	<p>G 2 診察法 (生殖器診察は【産婦人科実習】参照、小児診察は【小児科実習】参照) 一般目標： 患者との信頼関係に基づいた医療面接と診察法を学ぶ。</p>

### 【基本事項】

現行	改訂案
(新設)	<p>G 2 診察法 【基本事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。</li> <li>2) 患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。</li> <li>3) 患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。</li> <li>4) 感染を予防するため、診察前の手洗いや器具等の消毒ができる。</li> <li>5) 挨拶、身だしなみ、言葉遣い等に気を配ることができる。</li> <li>6) 患者の状態から診察が可能かを判断できる。患者の状態に応じた診察ができる。</li> </ol>

### 【医療面接】

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (2) 医療面接</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (2) 医療面接</p>

<p>一般目標： 医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践できる。</li> <li>2) 医療面接の目的・意義（情報収集、良好な医師-患者関係、治療・教育的効果）を説明できる。</li> <li>3) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を実践できる。</li> <li>4) 病歴情報の種類（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）とそれを聴取する際の手順を説明できる。</li> </ol> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (1) 診療の基本 【医療面接】 一般目標：なし 到達目標： 1) 礼儀正しく患者（家族）に接することができる。 2) プライバシーに配慮し、患者（家族）との信頼関係を築くことができる。 3) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を実践できる。 4) 病歴聴取（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を実施できる。</p>	<p>(学習項目についてはG 2を参照)</p> <p>G 2 診察法</p> <p>【医療面接】 到達目標： 1) 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者に接することができる。 2) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。 3) 病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。 4) 診察で得た所見、診断、必要な検査を説明、報告できる。</p>
--	--

**【全身状態とバイタルサイン】**

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察 【全身状態とバイタルサイン】 到達目標： 1) バイタルサインを説明できる。</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察 【全身状態とバイタルサイン】 (学習項目についてはG 2を参照)</p>

<p>2) 血圧測定の方法を説明し、正しく血圧を測定できる。</p> <p>3) 脈拍のチェックポイントを説明し、正しく脈拍をとれる。</p> <p>4) 呼吸数を測定し、呼吸パターンを観察できる。</p> <p>5) 体温測定の方法と注意点を説明し、測定できる。</p> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項</p> <p>(2) 身体診察</p> <p><b>【全身状態とバイタルサイン】</b></p> <p>到達目標：</p> <p>1) 身長・体重を測定し、栄養状態を評価できる。</p> <p>2) 血圧・脈拍を測定できる。</p> <p>3) 呼吸数を測定し、呼吸パターンを観察できる。</p> <p>4) 体温を測定できる。</p>	<p>G 2 診察法</p> <p><b>【全身状態とバイタルサイン】</b></p> <p>到達目標：</p> <p>1) 身長・体重を測定し、BMI の算出、栄養状態を評価できる。</p> <p>2) 上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。</p> <p>3) 両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。</p> <p>4) 呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。</p> <p>5) 腋窩で体温の測定ができる。</p> <p>6) 大腿動脈の触診、下腿の血圧測定(触診法)、大腿の血圧測定(聴診法)を実施できる。</p> <p>・意識レベルについては神経診察を参照。</p>
---	--

**【頭頸部】**

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能</p> <p>(5) 身体診察</p> <p><b>【頭頸部】</b></p> <p>到達目標：</p> <p>1) 頭部の診察ができる。</p> <p>2) 眼(視野、瞳孔、眼球運動、結膜、眼底)の診察ができる。</p> <p>3) 耳(外耳道、鼓膜、聴力)の診察ができる。</p> <p>4) 口腔・鼻腔の診察ができる。</p> <p>5) 甲状腺を含めた頸部の診察ができる。</p>	<p>E 3 基本的診療技能</p> <p>(5) 身体診察</p> <p><b>【頭頸部】</b></p> <p>(学習項目についてはG 2を参照)</p>

<p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項</p> <p>(2) 身体診察</p> <p><b>【頭頸部】</b></p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 頭部の診察ができる。</li> <li>2) 眼（視野、瞳孔、眼球運動、結膜、眼底）の診察ができる。</li> <li>3) 耳（外耳道、鼓膜、聴力）の診察ができる。</li> <li>4) 口腔・鼻腔の診察ができる。</li> <li>5) 甲状腺を含めた頸部の診察ができる。</li> </ol>	<p>G 2 診察法</p> <p><b>【頭頸部】</b></p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 頭部（顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋）の診察ができる。</li> <li>2) 眼（視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜）の診察ができる。</li> <li>3) 耳（耳介、聴力）の診察ができる。</li> <li>4) 耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。</li> <li>5) 音叉を用いて聴力試験を実施できる。</li> <li>6) 口唇、口腔、咽頭の診察ができる。</li> <li>7) 鼻腔、副鼻腔の診察ができる。</li> <li>8) 鼻鏡を用いて前鼻腔を観察できる。</li> <li>9) 甲状腺、頸部血管、気管を診察できる。</li> <li>10) 唾液腺、頭頸部リンパ節の診察ができる。</li> </ol> <p>・眼底検査については神経診察を参照。</p>
---	--

**【胸部】**

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能</p> <p>(5) 身体診察</p> <p><b>【胸部】</b></p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 胸部診察で確認すべき項目を列挙し、視診、触診、打診と聴診ができる。</li> <li>2) 乳房の診察の要点と診察の手順を説明できる。</li> </ol>	<p>E 3 基本的診療技能</p> <p>(5) 身体診察</p> <p><b>【胸部】</b></p> <p>(学習項目についてはG 2を参照)</p>
<p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項</p> <p>(2) 身体診察</p> <p><b>【胸部】</b></p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 胸部の視診、触診、打診、聴診ができる。</li> <li>2) 呼吸音を正しく聴診できる。</li> <li>3) 心音と心雑音を正しく聴診できる。</li> <li>4) 乳房を診察できる。</li> </ol>	<p>G 2 診察法</p> <p><b>【胸部】</b></p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 胸部の視診、触診、打診ができる。</li> <li>2) 呼吸音の聴診ができる。</li> <li>3) 心音と心雑音の聴診ができる。</li> <li>4) 背部の叩打痛を確認できる。</li> <li>5) 乳房の診察をシミュレータで実施できる</li> </ol>

**【腹部】**

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察</p> <p><b>【腹部】</b> 到達目標： 1) 腹部の区分を説明できる。 2) 腹部診察で確認すべき項目を列挙し、視診、聴診、打診と触診ができる。</p> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (2) 身体診察</p> <p><b>【腹部と泌尿生殖器】</b> 到達目標： 1) 腹部の視診、聴診、打診と触診ができる。 2) 反跳痛と筋性防御の有無を判断できる。 3) 直腸（前立腺を含む）指診ができる。</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察</p> <p><b>【腹部】</b> (学習項目についてはG 2を参照)</p> <p>G 2 診察法</p> <p><b>【腹部】</b> 到達目標： 1) 腹部の視診・聴診ができる。 2) 区分に応じて腹部の打診・触診ができる。 3) 腹膜刺激徴候の有無を判断できる。 4) 腹水の有無を判断できる。 5) 直腸（前立腺を含む）指診をシミュレータで実施できる。</p>

**【神経】**

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察</p> <p><b>【神経】</b> 到達目標： 1) 意識状態が判定できる。 2) 脳神経の診察ができる。 3) 深部腱反射の診察ができる。 4) 小脳・運動機能の診察ができる。 5) 感覚系の診察ができる。 6) 髄膜刺激所見を説明できる。</p> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (2) 身体診察</p> <p><b>【神経】</b> 到達目標：</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察</p> <p><b>【神経】</b> (学習項目についてはG 2を参照)</p> <p>G 2 診察法</p> <p><b>【神経】</b> 到達目標：</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 意識状態が判定できる。</li> <li>2) 脳神経を診察できる。</li> <li>3) 腱反射、病的反射、筋トーンスを診察できる。</li> <li>4) 小脳・運動機能を診察できる。</li> <li>5) 感覚系の診察ができる。</li> <li>6) 髄膜刺激所見がとれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 意識状態を判定できる。</li> <li>2) 脳神経系の診察ができる（眼底検査を含む）。</li> <li>3) 腱反射の診察ができる。</li> <li>4) 小脳機能・運動系の診察ができる。</li> <li>5) 感覚系の診察ができる。</li> <li>6) 髄膜刺激所見を確認できる</li> </ul>
--	--

### 【四肢と脊柱】

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察 【四肢と脊柱】 到達目標： 1) 四肢・脊柱の診察の要点と手順を説明できる。</p> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (2) 身体診察 【四肢と脊柱】 到達目標： 1) 四肢と脊柱を診察できる。 2) 関節(関節可動域を含む)を診察できる。 3) 筋骨格系の診察ができる。</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (5) 身体診察 【四肢と脊柱】 (学習項目についてはG 2を参照)</p> <p>G 2 診察法 【四肢と脊柱】 到達目標： 1) 四肢と脊柱を診察できる。 2) 関節(関節可動域を含む)を診察できる。 3) 筋骨格系の診察ができる。</p>

### 【高齢者の診察】

現行	改訂案
<p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (2) 身体診察 【小児と高齢者の診察】 到達目標： 2) 高齢者を診察でき、総合機能評価(CGA)ができる。</p>	<p>G 2 診察法 【高齢者の診察】 到達目標： 1) 高齢者特有の身体・精神の変化をふまえて高齢者を診察できる。 2) 高齢者の総合機能評価(CGA)ができる。</p>

### < 3. 基本的臨床手技 >

#### 一般目標

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (6) 基本的臨床手技 一般目標： 基本的臨床手技の目的、方法、適応、禁忌と合併症を学ぶ。</p> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (3) 基本的臨床手技 一般目標： 基本的臨床手技を学ぶ。</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (6) 基本的臨床手技 (学習項目についてはG 3を参照)</p> <p>G 3 基本的臨床手技 一般目標： 基本的臨床手技の目的、適応、禁忌、合併症と実施法を学ぶ。</p>

#### 【一般手技】

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (6) 基本的臨床手技 【一般手技】 到達目標： 1) 静脈採血の手順、部位と合併症を列挙し、正しく採血できる。 2) 血液型判定と交差適合試験の手順を説明し、実施できる。</p> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (3) 基本的臨床手技 【一般手技】 到達目標： 1) 静脈採血の手順、部位と合併症を列挙し、正しく採血できる。 2) 末梢静脈の血管確保を見学し、介助ができる。 3) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助ができる。 4) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助ができる。 5) 腰椎穿刺を見学し、介助できる。</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (6) 基本的臨床手技 (学習項目についてはG 3を参照)</p> <p>G 3 基本的臨床手技 【一般手技】 到達目標 1) 体位交換、おむつ交換、移送ができる。 2) 皮膚消毒、包帯交換ができる。 3) 外用薬の貼付・塗布ができる 4) 気道内吸引、ネブライザーを実施できる。 5) ギプス巻きができる。 6) 静脈採血を実施できる。 7) 末梢静脈の血管確保をシミュレーターで実施できる。</p>



<p>6) 胃管の挿入と抜去ができる。</p> <p>7) 尿道カテーテルの挿入と抜去ができる。</p> <p>8) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助ができる。</p> <p>9) 注射の種類、各々の特徴と刺入部位を説明できる。</p>	<p>8) 中心静脈カテーテル挿入を見学・介助してシミュレータで実施できる。</p> <p>9) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学・介助してシミュレータで実施できる。</p> <p>10) 腰椎穿刺を見学・介助してシミュレータで実施できる。</p> <p>11) 胃管の挿入と抜去ができる。</p> <p>12) 尿道カテーテルの挿入と抜去をシミュレータで実施できる。</p> <p>13) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助ができる。</p> <p>14) 注射（皮下、皮内、筋肉、静脈内）をシミュレータで実施できる。</p>
---	---

**【外科手技】**

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (6) 基本的臨床手技 <b>【外科手技】</b> 到達目標： 1) 清潔と不潔の区別を説明できる。 2) 器具の清潔操作の注意点を説明できる。 3) 創の一次的閉鎖、遅延一次閉鎖、二次的癒合とデブリドマンを説明できる。</p> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (3) 基本的臨床手技 <b>【外科手技】</b> 到達目標： 1) 手術や手技のための手洗いができる。 2) 手術室におけるガウンテクニックができる。 3) 基本的な縫合ができる。 4) 創の消毒やガーゼ交換ができる。 5) 骨折時の良肢位と外固定を見学し、介助できる。</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (6) 基本的臨床手技 <b>【外科手技】</b> (学習項目についてはG 3を参照)</p> <p>G 3 基本的臨床手技 <b>【外科手技】</b> 到達目標： 1) 清潔操作を実施できる。 2) 手術や手技のための手洗いができる。 3) 手術室におけるガウンテクニックができる。 4) 基本的な縫合ができる。 5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。 6) 手術に参加し、介助ができる。</p>

**【検査手技】**

現行	改訂案
<p>E 2 基本的診療知識 (2) 臨床検査  (略)</p> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項 (3) 基本的臨床手技 <b>【検査手技】</b> 到達目標： 1) 12誘導心電図を適切に記録できる。 2) 尿検査(尿沈渣を含む)を施行し、観察できる。 3) 末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。 4) 微生物学検査の検体の採取と保存ができ、グラム染色を行い、観察できる。 5) 妊娠反応検査を施行できる。</p>	<p>E 2 基本的診療知識 (2) 臨床検査 (検査手技に関する学習項目についてはG 3を参照) (略)</p> <p>E 3 基本的診療技能 (6) 基本的臨床手技 <b>【検査手技】</b> (学習項目についてはG 3を参照)</p> <p>G 3 基本的臨床手技 <b>【検査手技】</b> 到達目標： 1) 尿検査(尿沈渣を含む)を実施できる。 2) 末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。 3) 微生物学検査(グラム染色を含む)を実施できる。 4) 妊娠反応検査を実施できる。 5) 血液型判定を実施できる。 6) 視力、視野、聴力、平衡検査を実施できる。 7) 1 2誘導心電図を記録できる。 8) 脳波検査を介助できる。 9) 心臓、腹部の超音波検査を介助できる。 10) X線撮影、CT、MRI、RI検査、内視鏡検査を見学・介助できる。</p>

< 4. 診療科臨床実習 >

(1) 内科系臨床実習

【内科】

現行	改訂案
<p>G 臨床実習</p> <p>臨床実習を行うに当たっては、個々の臨床実習を独立して行うのではなく、体系的に遂行させる統轄責任者が必要である。</p> <p>G 2 内科系臨床実習</p> <p>(1) 内科</p> <p>一般目標：</p> <p>基本的内科疾患を受け持ち、病態、症候、診断、治療と予後を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 主要な疾患、症候や病態を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。</p> <p>2) 他科へのコンサルテーションが必要かどうか判断できる。</p> <p>3) 複数の疾患をかかえる患者を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。</p> <p>実習形態：(略)</p> <p>症例：(略)</p>	<p>G 4 診療科臨床実習</p> <p>臨床実習を行うに当たっては、個々の臨床実習を独立して行うのではなく、臨床実習全体を体系的に遂行させる統轄責任者が必要である。</p> <p>G 4 (1) 内科系臨床実習</p> <p>【内科】</p> <p>一般目標：</p> <p>基本的内科疾患を受け持ち、症候・病態、診断、治療と予後を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 主要な内科疾患を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。</p> <p>2) 他科へのコンサルテーションの必要性について説明できる。</p> <p>3) 複数の疾患をかかえる患者を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p>

【精神科】

現行	改訂案
<p>G 2 内科系臨床実習</p> <p>(2) 精神科</p> <p>一般目標：</p> <p>基本的な精神症状の評価の仕方、面接法を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 精神科以外の一般診療科においても診療機会が多い精神障害に対する診断と治療の初期対応ができる。</p>	<p>G 4 (1) 内科系臨床実習</p> <p>【精神科】</p> <p>一般目標：</p> <p>基本的な精神症状の評価の仕方、面接法、治療を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 精神科疾患の診察に立ち会い、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。</p>

<p>2) 精神症状をもつ患者の診療を行う上での、法と倫理の必須項目を列挙できる。</p> <p>3) 精神症状・精神障害の初期症状と、どのような場合に専門医へのコンサルテーションが必要か判断できる。</p> <p>実習形態：(略)</p> <p>症例：(略)</p>	<p>2) 精神症状をもつ患者の診療を行う上での、法と倫理の必須項目を列挙できる。</p> <p>3) 精神症状・精神障害の初期症状と、どのような場合に専門医へのコンサルテーションが必要か説明できる。</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p>
--	--

### 【小児科】

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能</p> <p>(5) 身体診察</p> <p>【小児の診察】</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 新生児・小児の全身診察の手順を説明できる。</p> <p>G 1 全期間を通じて身につけるべき事項</p> <p>(2) 身体診察</p> <p>【小児と高齢者の診察】</p> <p>到達目標</p> <p>1) 新生児と小児の全身診察ができる(発達状況の評価も含む)。</p> <p>G 2 内科系臨床実習</p> <p>(3) 小児科</p> <p>一般目標：</p> <p>基本的小児科疾患を受け持ち、症候、診断、初期治療を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 新生児、乳・幼児期、学童期、思春期の患者およびその家族と良好な関係を築いて、漏れのない正確な情報を取ることができる。</p> <p>2) 小児の身体診察を適切に実施できる。</p> <p>実習形態：(略)</p> <p>症例：(略)</p>	<p>E 3 基本的診療技能</p> <p>(5) 身体診察</p> <p>【小児の診察】</p> <p>(学習項目についてはG 4を参照)</p> <p>G 4 (1) 内科系臨床実習</p> <p>【小児科】</p> <p>一般目標：</p> <p>基本的小児科疾患を受け持ち、症候・病態、診断、治療と予後を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 小児の診断・治療に必要な情報を保護者から聴き取ることができる。</p> <p>2) 主要な小児疾患の全身の診察ができ、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。</p> <p>3) 正常新生児の診察ができる。</p> <p>4) 乳幼児健診に立ち会い、小児の成長・発達と異常の評価に参加できる。</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p>

## (2) 外科系臨床実習

### 【外科】

現行	改訂案
<p>G 3 外科系臨床実習</p> <p>(1) 外科</p> <p>一般目標： 基本的な外科疾患を受け持ち、病態と、治療としての外科処置を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 外科的処置の適応を判断し、リスク評価ができる。</li> <li>2) 外科の基本的診療手技を実施できる。</li> <li>3) 基本的な術前術後管理ができる。</li> </ol> <p>実習形態：(略)</p> <p>症例：(略)</p>	<p>G 4 (2) 外科系臨床実習</p> <p>【外科】</p> <p>一般目標： 基本的な外科疾患を受け持ち、外科的治療を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 外科的処置の適応を判断し、リスク評価を説明できる。</li> <li>2) 基本的な術前術後管理に立ち会う。</li> </ol> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p>

### 【産婦人科】

現行	改訂案
<p>G 3 外科系臨床実習</p> <p>(2) 産科婦人科</p> <p>一般目標： 基本的な産婦人科疾患を受け持ち、女性の健康問題、疫学、予防、病態、診断、治療と予後を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 正常の妊娠、出産と産褥の基本的な管理ができる。</li> <li>2) 主な疾患、症候や病態を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。</li> </ol> <p>実習形態：(略)</p> <p>症例：(略)</p>	<p>G 4 (2) 外科系臨床実習</p> <p>【産婦人科】</p> <p>一般目標： 基本的な産婦人科疾患を受け持ち、女性の健康問題、症候、診断、治療と予後を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基本的な婦人科診察をシミュレーターで実施できる。</li> <li>2) 主要な婦人科疾患の診察に立ち会い、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。</li> <li>3) 妊婦の診察と出産に立ち会う。</li> </ol> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p>

(3) 救急医療臨床実習

現行	改訂案
<p>E 3 基本的診療技能 (6) 基本的臨床手技 【救命処置】 到達目標： 1) 一次救命処置（脳心肺蘇生）の基本的な手技について説明し、モデルを用いて正しく実施できる。</p> <p>G 4 救急医療臨床実習 一般目標： 緊急に対応すべき疾患の病態、診断と治療を学ぶ。 到達目標： 1) 救急病態の救命治療を介助できる。 2) 初期救急病態を鑑別し、初期治療を介助できる。 3) 外傷の処置を介助できる。 4) 救急医療体制を説明できる。</p> <p>実習形態：(略) 症例：(略)</p>	<p>E 3 基本的診療技能 (6) 基本的臨床手技 【救命処置】 到達目標： (学習項目についてはG 4を参照)</p> <p>G 4 (3) 救急医療臨床実習 一般目標： 診療チームの一員として救急医療に参加する。 到達目標： 1) 救急病態の救命治療に参加できる。 2) 初期救急病態を鑑別し、初期治療に参加できる。 3) 外傷の処置に参加できる。 4) 一次救命処置（脳心肺蘇生）をシミュレータを用いて実施できる。</p> <p>(削除) (削除)</p>

## 2. 地域の医療を担う意欲・使命感の向上

### (改訂趣旨)

地域の医療を担う関連機関等と連携し、学生生活全般を通じて、学生に多様な現場で患者や地域の人々に接し体験・実感させる機会を系統的に設け、信頼されるコミュニケーション能力や、地域の医療を担う意欲・使命感の向上に資するよう、必要な改訂を行う。

### (改訂方針)

地域医療の現状を踏まえた、各大学における主体的で実効性ある教育の展開に向けて、平成19年度改訂において大幅に改善・充実した「地域医療」に関する記載内容が更に有効に機能するよう、「医師として求められる基本的な資質」の記載内容を修正するとともに、以下の観点から、関連項目について必要な改訂を行う。

- 地域医療臨床実習に関しては、
  - ・ 学部入学後の早期の段階から実施されている地域の保健・医療・福祉・介護等の機関における「早期体験学習」
  - ・ 主として3～4学年時に実施されている「衛生・公衆衛生学」
  - ・ 臨床実習時における「地域医療臨床実習」について、これらを個別に実施するのではなく、入学後から段階的・有機的に実施することにより、一層効果的に体験・認識を蓄積していくことが必要である。

### (具体的な改訂内容)

#### (1) 「医師として求められる基本的な資質」について

- 現行の「医師として求められる基本的な資質」の④と⑥について、上記「改訂趣旨」を踏まえ、地域におけるチーム医療の観点にも留意し、全体的視点から重要性を強調するため、以下のとおり改訂する。

現行	改訂案
医師として求められる基本的な資質 ④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームの一員としての行動や後輩等に対する指導を適切に行える。 ⑥ 医師として、地域における医療・保健・福祉等の連携および医療の経済的側面等の医療を巡る動向に関心・理解を有する。	医師として求められる基本的な資質 ④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームのメンバーを相互に尊重し、その一員としての適切な行動をとり、後輩等に対する指導を行える。 ⑥ 地域医療の現場での保健・医療・福祉・介護等の現状と問題点を把握し、その連携強化等の改善・充実に貢献するとともに常に医療の経済的側面等を巡る動向を理解する。

**(2) 「F 医学・医療と社会」について**

- 「F (2) 地域医療」の到達目標において、「1)」と「2)」の内容は近いため、以下のとおり統合・整理し、その趣旨が明確になるようにする。

現行	改訂案
<p>F 医学・医療と社会</p> <p>(2) 地域医療</p> <p>一般目標：(略)</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。</p> <p>2) へき地および離島における地域医療の現状と課題について説明できる。</p> <p>3) ～△8) (略)</p>	<p>F 医学・医療と社会</p> <p>(2) 地域医療</p> <p>一般目標：(略)</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 地域社会（へき地・離島を含む）における医療の状況、機能および体制等を含めた地域医療について概説できる。</p> <p>2) ～△7) (略)</p>

**(3) 「G5 地域医療臨床実習」について、**

- 「G5 地域医療臨床実習」の「一般目標」及び「実習形態」について、上記「改訂方針」を踏まえ、以下のとおり改訂する。

現行	改訂案
<p>G 臨床実習</p> <p>5 地域医療臨床実習</p> <p>一般目標：</p> <p>地域社会（へき地・離島を含む）で求められる医療・保健・福祉・介護の活動について学ぶ。</p> <p>到達目標：(略)</p> <p>実習形態：</p> <p>学外の地域病院、診療所、社会福祉施設など</p> <p>症 例：(略)</p>	<p>G 臨床実習</p> <p>5 地域医療臨床実習</p> <p>一般目標：</p> <p>地域社会（へき地・離島を含む）で求められる保健・医療・福祉・介護等の実態を学ぶ。</p> <p>到達目標：(略)</p> <p>学習形態等：</p> <p>学外の地域病院（臨床研修病院を含む）、診療所、保健所、社会福祉施設等の協力を得て、「地域医療臨床実習」について、入学後早期からの「早期体験学習」、「衛生学・公衆衛生学実習」等も含めた段階的・体系的な位置付けとすることが望まれる。また、必要に応じて「臨床教授制度」等を利用する。</p> <p>症 例：(略)</p>



### 3. 基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養

#### (改訂趣旨)

基礎と臨床の有機的連携により、進展著しい生命科学や医療技術の成果を生涯を通じて学び、常に自らの診断・治療技術等を検証し磨き続けるとともに、日々の診療の中で患者の状態や疾患の分析から病因や病態、その背景となる基礎的課題を解明するなどの研究マインドの涵養に資するよう、必要な改訂を行う。

#### (改訂方針)

基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養に向けて、各大学における主体的で実効性ある教育が展開されるよう、「医師として求められる基本的な資質」の記載内容を修正するとともに、「研究マインドの涵養」に係る項目を新設するなど、関連項目について必要な改訂を行う。

#### (具体的な改訂内容)

##### (1) 「医師として求められる基本的な資質」について

- 現行の「医師として求められる基本的な資質」の⑦について、上記「改訂趣旨」を踏まえ、全体的視点から重要性を強調するため、以下のとおり改訂する。

現行	改訂案
医師として求められる基本的な資質  ⑦ 医学・医療の進歩における医学研究の必要性を理解し、研究に参加するとともに、絶えず医療の質の向上に生涯にわたり学習する意欲と態度を有する。	医師として求められる基本的な資質  ⑦ 医学・医療の進歩と改善のためには、研究マインドの涵養が不可欠あることを理解し、基礎と臨床の有機的連携等による研究を行うための意欲と基礎的素養を有する。

※ 現行⑦の後半部分については、社会的ニーズ等（生涯学習等）への対応を含めて、今後記載内容を検討予定。（この部分は別紙1（38ページ）でも同様）

##### (2) 「A 基本事項」について

- 上記「改訂趣旨」を踏まえ、「A 基本事項」について、以下のとおり改訂する。

現行	改訂案
A 基本事項 4 課題探求・解決と学習の在り方 (1) 課題探求・解決能力（略）	A 基本事項 4 課題探求・解決と学習の在り方 (1) 課題探求・解決能力（略）



(3) 「B 医学一般」について

- 「B 1 (1) 【細胞の構造】」について、内容を明確にするため、該当する「準備教育モデル・コア・カリキュラム」の「2 生命現象の科学」の内容を明記する。

現行	改訂案
<p>B 医学一般</p> <p>1 個体の構成と機能</p> <p>(1) 細胞の基本構造と機能 一般目標：(略) 【細胞の構造】 (準備教育モデル・コア・カリキュラム参照) 【細胞膜】(略) 【細胞骨格と細胞運動】(略) 【細胞の増殖】(略)</p> <p>(2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係 (略)</p> <p>(3) 個体の調節機構とホメオスタシス (略)</p> <p>(4) 個体の発生 (略)</p> <p>(5) 生体物質の代謝 (略)</p> <p>(6) 遺伝と遺伝子 (略)</p> <p>2 個体の反応 (略)</p> <p>3 病因と病態 (略)</p>	<p>B 医学一般</p> <p>1 生命現象の科学 &lt;24 頁以降参照&gt;</p> <p>(1) 生命現象の物質的基礎</p> <p>(2) 生命の最小単位－細胞</p> <p>(3) 生物の進化と多様性</p> <p>(4) 生体と行動</p> <p>2 個体の構成と機能</p> <p>(1) 細胞の構成と機能 一般目標：(略) (削除)</p> <p>【細胞膜】(略)</p> <p>【細胞骨格と細胞運動】(略)</p> <p>【細胞の増殖】(略)</p> <p>(2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係 (略)</p> <p>(3) 個体の調節機構とホメオスタシス (略)</p> <p>(4) 個体の発生 (略)</p> <p>(5) 生体物質の代謝 (略)</p> <p>(6) 遺伝と遺伝子 (略)</p> <p>3 個体の反応 (略)</p> <p>4 病因と病態 (略)</p>

## ○「B 医学一般 1 生命現象の科学」について（改訂版）

### （1）生命現象の物質的基礎

一般目標：

生体内の有機化合物の構造、性質および反応について学ぶ。

#### 【有機化合物と共有結合】

到達目標

- 1) 単結合、二重結合と三重結合を説明できる。
- 2) 炭素原子を例にとり、混成軌道を説明できる。
- 3) 環状構造とその性質を説明できる。
- 4) 主な官能基を列挙し、その性質を説明できる。
- 5) 有機化合物の命名法を説明できる。

#### 【立体化学】

到達目標

- 1) 光学異性体、立体異性体と幾何異性体の性質と特徴を説明できる。
- 2) 高分子の立体構造を説明できる。

#### 【有機化合物の反応】

到達目標

- 1) 電気陰性度と電子の動きによる官能基の反応性を説明できる。
- 2) 置換反応、脱離反応と付加反応を説明できる。

#### 【生体内の低分子物質】

到達目標

- 1) アミノ酸の種類と性質を説明できる。
- 2) 塩基、ヌクレオシド、ヌクレオチドの種類と性質を説明できる。
- 3) 単糖類、二糖類、グリセロールと脂肪酸の種類と性質を説明できる。

#### 【生体高分子の構造と機能】

到達目標

- 1) 炭水化物の基本的な構造と機能を説明できる。
- 2) 脂質の基本的な構造と機能を説明できる。
- 3) タンパク質の基本的な構造と機能を説明できる。
- 4) 核酸の構造と機能を説明できる。

#### 【反応速度論・酵素反応速度論】

到達目標

- 1) 一次反応、二次反応などの反応速度や速度式を説明できる。
- 2) ミカエリス・メンテンの式が説明できる。

## (2) 生命の最小単位—細胞

一般目標：

細胞の構造とそのさまざまなはたらきを学ぶ。

### 【細胞の構造と機能】

到達目標

- 1) 細胞の観察法を説明できる。
- 2) 細胞の全体像を図示できる。
- 3) 核とリボソームの構造と機能を説明できる。
- 4) 小胞体、ゴルジ体、リソソームなどの細胞内膜系の構造と機能を説明できる。
- 5) ミトコンドリア、葉緑体の構造と機能を説明できる。
- 6) 細胞骨格の種類とその構造と機能を概説できる。
- 7) 細胞膜の構造と機能、細胞同士の接着と結合様式を説明できる。
- 8) 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。

### 【細胞内の代謝と細胞呼吸】

到達目標

- 1) 酵素の構造、機能と代謝調節（律速段階、アロステリック効果）を説明できる。
- 2) ATP の加水分解により自由エネルギーが放出されることを説明できる。
- 3) 解糖、TCA 回路、電子伝達系、酸化リン酸化による ATP の産生を説明できる。

### 【細胞周期】

到達目標

- 1) 細胞分裂の過程を図示し、説明できる。
- 2) 細胞周期の各過程、周期の調節を概説できる。

### 【減数分裂】

到達目標

- 1) 減数分裂を説明できる。
- 2) 遺伝的多様性を減数分裂の過程から説明できる。

### 【遺伝子と染色体】

到達目標

- 1) メンデルの法則を説明できる。
- 2) 遺伝子型と表現型の関係を説明できる。
- 3) 染色体を概説し、減数分裂における染色体の挙動を説明できる。
- 4) 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。

### 【DNAとタンパク質】

到達目標

- 1) DNA の複製過程と修復機構を説明できる。
- 2) セントラルドグマを説明できる。
- 3) 転写と翻訳の過程を説明できる。

### (3) 生物の進化と多様性

一般目標：

生物の進化と多様性を知り、比較生物学的な見地から動物の体のつくりとはたらきを学ぶ。

#### 【生物の進化】

到達目標

- 1) 進化の基本的な考え方を説明できる。
- 2) 生物種とその系統関係を概説できる。
- 3) アミノ酸配列や塩基配列の比較による分子系統樹を概説できる。

#### 【生物の多様性】

到達目標

- 1) 消化吸収系の系統発生を概説できる。
- 2) ガス交換と循環系の系統発生を概説できる。
- 3) 神経系の系統発生を概説できる。
- 4) 内分泌系の系統発生、各器官と分泌されるホルモンを概説できる。
- 5) 体温と浸透圧調節機構の系統発生を概説できる。
- 6) 生体防御機構を概説できる。
- 7) 生殖系の系統発生と個体発生を概説できる。
- 8) 精子形成、卵形成の過程を概説し、有性生殖と寿命の関係を概説できる。
- 9) 代表的な動物の発生過程を概説できる。

### (4) 生態と行動

一般目標：

地球上における生物個体間の関係と相互作用を理解する。

#### 【生物圏と生態系】

到達目標

- 1) 生物圏の生物要因と被生物要因を概説し、主な生物群系を例示できる。
- 2) 生態系における個体群の関係と、栄養素、エネルギーと化学物質の循環を説明できる。
- 3) ヒト個体群の成長の特殊性、生態系、多様性に対する危険性について概説できる。

#### 【動物の行動】

到達目標

- 1) 動物が示す行動は遺伝的要因と環境要因により規定されることを説明できる。
- 2) 学習によって行動を変容できることを、例をあげて説明できる。
- 3) 動物の認知行動について中枢神経系の機能と結びつけて概説できる。

## 4. その他

### (1) 様々な社会的ニーズへの対応

- 1) 医療安全  
(患者及び医療従事者の安全性確保(薬害、放射線等)、医療現場の環境改善 等)
- 2) チーム医療  
(医療分野における多職種連携(医学・歯学等の連携) 等)
- 3) その他  
(男女共同参画の促進 等)

※ これまでの委員会や大学・学会からの意見、各種要望等に係る様々な社会的ニーズのうち、医療全体を取り巻く情勢変化、過年度からの検討経過等を踏まえ、上記の医療横断的な事項について、今後実施予定のパブリック・コメントの結果等を含めて総合的に検討した上で、必要性や緊急性が高い内容については、モデル・コア・カリキュラム全体の量的抑制に留意しつつ、今回の改訂に際して、可能な範囲で対応する。

### (2) モデル・コア・カリキュラムの利便性向上等に係る対応

- 1) 全体構成の工夫  
(項目全体の順序、項目間の関係 等)
- 2) 関連領域の整理  
(人の死、感染症 等)
- 3) 表記の調整(量的過剰状態への対応を含む)  
(△印の取扱い、医師国家試験出題基準への準拠、人名の原語表記、誤記修正 等)

※ 「今回のモデル・コア・カリキュラム改訂に係る基本方針」の「1. モデル・コア・カリキュラムの基本理念」に基づく、教育現場におけるモデル・コア・カリキュラムの利便性向上に資するよう、上記事項について対応を検討し、今回の改訂に際して、可能な範囲で対応し、上記1)、2)、3)の未改訂部分については、今後の改訂課題とする。

(2) モデル・コア・カリキュラムの利便性向上等に係る対応【現時点での改訂内容】

2) 関連領域の整理

<「人の死」に係る記載の整理>

現行	改訂案
<p>A 基本事項</p> <p>2 医療における安全性確保</p> <p>(2) 医療上の事故等への対処と予防</p> <p>到達目標：</p> <p>1) ～3) (略)</p> <p>4) 病理解剖、司法解剖、行政解剖の役割と相違点について概説できる。</p> <p>5) (略)</p> <p>D 全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療</p> <p>7 人の死</p> <p>一般目標：(略)</p> <p>到達目標：</p> <p>1) (略)</p> <p>2) 死生学の基本的な考え方を概説できる</p> <p>3) 死に伴う家族のケアを説明できる。</p> <p>4) 尊厳死と安楽死の概念を説明できる。</p> <p>5) 植物状態と脳死の違いを説明できる。</p> <p>8 死と法</p> <p>一般目標：</p> <p>死後変化と異状死体の検案について理解する。</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 突然死と事故死を説明できる。</p>	<p>A 基本事項</p> <p>2 医療における安全性確保</p> <p>(2) 医療上の事故等への対処と予防</p> <p>到達目標：</p> <p>1) ～3) (略)</p> <p>(削除し、F(6)へ移動)</p> <p>4) (略)</p> <p>D 全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療</p> <p>7 人の死</p> <p>一般目標：(略)</p> <p>到達目標：</p> <p>1) (略)</p> <p>2) 植物状態と脳死の違いを説明できる。</p> <p>3) 脳死判定について説明できる。</p> <p>4) 死後変化を説明できる。</p> <p>5) 内因死と外因死の違いを説明できる。</p> <p>6) 外因死の種類を列挙し、内容を説明できる。</p> <p>7) 突然死の定義を説明でき、突然死を来しうる疾患を列挙できる。</p> <p>8) ターミナルケアについて説明できる。</p> <p>9) 尊厳死と安楽死の概念を説明できる。</p> <p>(削除)</p>



<p>2) 死後変化を説明できる。</p> <p>3) 自然死と異常死および死亡診断書と死体検案書の違いを説明できる。</p> <p>4) 各種の法医学上の損傷の特徴を説明できる。</p> <p>5) 血液型の法医学的意義を説明できる。</p> <p>6) 個人識別の方法を説明できる。</p> <p>F 医学・医療と社会</p> <p>(1) ~ (5) (略)</p> <p>(6) 診療情報 (略)</p> <p>(7) 臨床研究と医療 (略)</p>	<p>F 医学・医療と社会</p> <p>(1) ~ (5) (略)</p> <p>(6) 死と法 (D 8 より移動)</p> <p>一般目標： 異状死体の検案について理解する。 (死後変化は「D 7 人の死」へ全て移動)</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 異状死について説明できる。</p> <p>2) 異状死体の取り扱いと死体検案について説明できる。</p> <p>3) 死亡診断書と死体検案書を作成できる</p> <p>4) 個人識別の方法を説明できる。</p> <p>5) 病理解剖，司法解剖，行政解剖，承諾解剖について説明できる。 (A 2 (2) 4 より移動)</p> <p>(7) 診療情報 (略)</p> <p>(8) 臨床研究と医療 (略)</p>
---	---

### 3) 表記の調整

#### 【医師国家試験出題基準に準拠した場合の修正案】

修正箇所		コア・カリコード	修正前	修正案
本文	P3	A-2-(1)-5)	インシデント・リポート	インシデントリポート
本文	P3	A-2-(3)-4)	針刺し事故	針刺し事故<針刺切創>
本文	P3	A-2-(1)-5)	安全管理	医療安全管理
本文	P7	B-1-(3)-②-5)	反射(弓)	反射
本文	P7	B-1-(3)	ホメオスターシス	ホメオスタシス
本文	P9	B-2-(1)-2)	エコーウイルス	エコー<ECHO>ウイルス
本文	P9	B-2-(1)-11)	クリプトコッカス	クリプトコックス
本文	P9	B-2-(1)-6)	人畜共通寄生虫症	人畜(人獣)共通寄生虫症
本文	P9	B-2-(1)-11)	ムコール	ムーコル<ムコール>
本文	P9	B-2-(1)-9)	ヘリコバクター・ピロリ	<i>Helicobacter pylori</i>
本文	P10	B-2-(2)-2)	先天性免疫不全症	先天性免疫不全症候群
本文	P10	B-2-(2)-2)	後天性免疫不全症	後天性免疫不全症候群<AIDS>
本文	P13	C-1-(4)-②-4)	骨髄異形成症候群	骨髄異形成症候群<MDS>
本文	P14 P27	C-1-(4)-④-4) C-10-(4)-4)	播種性血管内凝固(症候群)<DIC>	播種性血管内凝固<DIC>
本文	P14	C-1-(4)-④-2)	特発性血小板減少性紫斑病	特発性血小板減少性紫斑病<ITP>
本文	P16	C-2-(4)-⑨-△4)	二分脊椎症	二分脊椎
本文	P17	C-3-(4)-①-2)	貨幣状皮膚炎	貨幣状湿疹
本文	P17	C-3-(4)-①	湿疹・皮膚炎群	湿疹・皮膚炎
本文	P17	C-3-(4)-②	じんま疹	蕁麻疹
本文	P17	C-3-(4)-⑤-2)	膿疱症	膿疱
本文	P17	C-3-(2)-3)	KOH 直接鏡顕法	苛性カリ<KOH>直接検鏡法
本文	P18	C-4-(2)-1)	徒手筋力検査	徒手筋力テスト
本文	P18	C-3-(4)-⑧-2)	皮膚表在性と深在性真菌症	皮膚真菌症<表在性、深在性>
本文	P18	C-4-(4)-9)	絞扼性神経障害	絞扼性末梢神経障害
本文	P19	C-5-(1)-5)	胎児循環	胎児・胎盤循環
本文	P20	C-5-(4)-③-1)	期外収縮	期外収縮<上室性、心室性>
本文	P20	C-5-(4)-③-1)	発作性頻拍	発作性上室性頻拍症
本文	P20	C-5-(4)-③-2)	洞不全症候群	洞不全症候群<sick sinus 症候群>
本文	P20	C-5-(4)-⑥-1)	心房中隔欠損	心房中隔欠損症
本文	P20	C-5-(4)-⑥-1)	心室中隔欠損	心室中隔欠損症

本文	P20	C-5-(4)-⑦-△4)	大動脈炎症候群	大動脈炎症候群<高安動脈炎>
本文	P20	C-5-(4)-⑧-1)	深部静脈血栓症	深部静脈血栓症 [DVT<deep vein thrombosis>]
本文	P21	C-6-(4)-①-2)	高二酸化炭素(血)症	高二酸化炭素<CO2>血症
本文	P21	C-6-(4)-①-2)	低酸素(血)症	低酸素炭素<CO2>血症
本文	P21	C-6-(4)-④-3)	肺血栓・塞栓症	肺血栓塞栓症
本文	P21	C-6-(4)-③-△8)	放射線肺臓炎	放射線肺炎
本文	P21	C-6-(4)-④-2)	急性呼吸促迫症候群 <ARDS>	急性呼吸促<窮>迫症候群 <ARDS>
本文	P18	C-3-(4)-⑧-1)	せつ	癩
本文	P18	C-3-(4)-⑧-1)	よう	癰
本文	P22	C-7-(1)-△14)	咀嚼	咀嚼
本文	P23	C-7-(4)-①-4)	胃食道逆流症	胃食道逆流症 [逆流性食道炎<GRED>]
本文	P23	C-7-(4)-①-△5)	逆流性食道炎	胃食道逆流症 [逆流性食道炎<GRED>]
本文	P24	C-8-(1)-6)	酸塩基平衡	酸・塩基平衡
本文	P25	C-8-(4)-②-1)	急性糸球体腎炎症候群	急性糸球体腎炎
本文	P25	C-8-(4)-②-2)	慢性糸球体腎炎症候群	慢性糸球体腎炎
本文	P25	C-8-(4)-②-△4)	急速進行性糸球体腎炎症候群	急速進行性糸球体腎炎
本文	P25	C-8-(3)-①-3)	高カルシウム血症	高 Ca 血症
本文	P25	C-8-(3)-①-3)	低カルシウム血症	低 Ca 血症
本文	P25	C-8-(3)-①)	電解質代謝異常	電解質異常
本文	P25	C-8-(4)-⑥-1)	糖尿病性腎症	糖尿病(性)腎症
本文	P25	C-8-(4)-⑦-1)	膀胱尿管逆流症	膀胱尿管逆流
本文	P25, 33, 35, 42	C-8-(3) ほか	タンパク尿	蛋白尿
本文	P26	C-9-(3)-②-1)	乳汁漏出	乳汁漏出症
本文	P26	C-9-(2)-①-1)	尿道造影	尿路造影
本文	P26	C-9-(2)-②-△6)	子宮卵管造影	子宮卵管造影<HSG>
本文	P27	C-10-(4)-1)	妊娠高血圧症	妊娠高血圧症候群
本文	P27	C-10-(4)-1)	子宮外妊娠	子宮外妊娠<異所性妊娠>
本文	P27	C-10-(4)-2)	分娩損傷	分娩外傷
本文	P29	C-12-(4)-①-△5)	成長ホルモン分泌不全性低身長	成長ホルモン分泌不全性低身長症

本文	P29	C-12-(4)-③-2)	副甲状腺機能の亢進症と低下症	副甲状腺<上皮小体>機能亢進症と副甲状腺<上皮小体>機能低下症
本文	P29	C-12-(4)-④-△5)	先天性副腎皮質過形成	先天性副腎(皮質)過形成症
本文	P29	C-12-(4)-①-△8)	ADH 不適切分泌症候群	ADH 不適合分泌症候群<SIADH>
本文	P30	C-12-(4)-⑦-1	血清タンパク質の異常	血清蛋白質異常
本文	P30	C-12-(4)-⑨-△1)	先天性代謝疾患	先天代謝異常
本文	P32	C-15-(3)-8)	そううつ病(双極性障害)	躁うつ病
本文	P31	C-13-(4)-△10)	化学外傷	化学損傷
本文	P31	C-14-(2)-△2)	味覚・嗅覚検査	味覚検査と嗅覚検査
本文	P31	C-13-(4)-△11)	色覚障害	色覚異常
本文	P31	C-13-(4)-△9)	視神経症	視神経炎・症
本文	P31	C-14-(3)-1)	嗄声	反回神経麻痺(嗄声)
本文	P31	C-14-(4)-6)	アレルギー性鼻炎	鼻アレルギー<アレルギー性鼻炎>
本文	P32	C-15-(3)-△13)	解離性障害(ヒステリー)	解離性<転換性>障害
本文	P32	C-15-(3)-△15)	人格障害	人格(パーソナリティ)障害
本文	P32	C-15-(1)-△5)	心理検査法	心理学的検査法
本文	P32	C-15-(1)-3)	精神保健福祉法	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
本文	P32	C-15-(3)-9)	パニック	パニック障害
本文	P33	D-1-(4)-①-△12)	ウシ海綿状脳症<BSE>	牛海綿状脳症<BSE、狂牛病>
本文	P33	D-1-(4)-①-5)	帯状疱疹ウイルス感染症	帯状疱疹
本文	P33	D-1-(1)-4)	日和見感染症	日和見感染症<opportunistic infection>
本文	P33	D-1-(4)-①-4)	流行性耳下腺炎	流行性耳下腺炎<ムンプス>
本文	P33	D-1-(4)-①-△13)	ヒトT細胞白血病ウイルス<HTLV>	ヒトT細胞白血病ウイルス<HTLV-I>
本文	P34	D-1-(4)-②-△7)	インフルエンザ(桿)菌	インフルエンザ(桿)菌症
本文	P34	D-1-(4)-④-△6)	クリプトコックス症	クリプトコックス症
本文	P34	D-1-(4)-②-△6)	劇症溶連菌感染症	劇症型A群β溶連菌感染症
本文	P34	D-1-(4)-④-△5)	ジアルジア症(ランブル鞭毛虫症)	ランブル鞭毛虫症
本文	P34	D-1-(4)-②-△7)	肺炎レンサ球菌感染症	肺炎球菌感染症

本文	P35	D-3-(3)-②	全身性エリテマトーデス	全身性エリテマトーデス<SLE>
本文	P36	D-3-(3)-⑤-△5)	川崎病	川崎病<小児急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群>
本文	P36	D-3-(3)-③	強皮症	全身性硬化症<強皮症>
本文	P36	D-3-(3)-③	多発性筋炎	多発(性)筋炎
本文	P36	D-3-(3)-④	慢性関節リウマチ	関節リウマチ
本文	P37	D-5-(1)-△11)	新生児けいれん性疾患	新生児けいれん
本文	P37	D-5-(3)-△8)	チック	チック障害
本文	P37	D-5-(2)-△4)	乳児突然死症候群	乳幼児突然死症候群<SIDS>
本文	P27	C-9-(4)-②-6)	子宮癌	子宮頸癌、 子宮体癌<子宮内膜癌>
本文	P39	E-1-(4)-2)	コーマ・スケール	GCS<Glasgow coma scale>、JCS
本文	P43	E-2-(2)-3)	血液学的検査	血液検査
本文	P43	E-2-(2)-6)	生化学的検査	生化学検査
本文	P43	E-2-(2)-7)	免疫学的検査	免疫学検査
本文	P43	E-2-(2)-2)	検査前確率	検査前確率<事前確率 >
本文	P43	E-2-(1)-10)	抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬)	抗菌薬
本文	P44	E-2-(3)-2)	バイタルサイン	バイタルサイン <体温、呼吸、脈拍、血圧>
本文	P44	E-2-(4)-△5)	脊椎麻酔	脊髄(脊椎)麻酔
本文	P45	E-2-(11)-△7)	車椅子	車いす
本文	P45	E-2-(11)-△7)	義肢	義肢<義手、義足>
本文	P48	E-3-(6)-2)	交差適合試験	交差試験<クロスマッチ>
本文	P50	F-(5)-5)	クリティカル・パス	クリニカルパス
本文	P50	F-(7)-△4)	ケース・コントロール研究	症例対照研究
本文	P50	F-(6)-1)	情報公開	情報開示
本文	P50	F-(7)-△4)	メタ研究	メタ研究<メタアナリシス>
本文	P54	G-2-(2)-3)	器質性精神障害	器質性精神病
本文	P54	G-2-(2)-3)	気分障害	気分(感情)障害
本文	P54	G-2-(2)-3)	症状性精神障害	症状性精神病
本文	P55	G-4	心肺停止	心肺(機能)停止

【人名を原語表記】

修正箇所		コア・カリコード	修正前	修正案
本文	P2	A-1-(1)-3)	ヒポクラテスの誓い	Hippocrates ( ヒポクラテス ) の誓い
本文	P9	B-2-(1)-1)	Epstein-Barr ウイルス (EBV)	Epstein - Barr virus<エプスタイン・バーウイルス,EBV>
本文	P9	B-2-(1)-5)～9)	グラム陽 / 陰性	Gram ( グラム ) 陽 / 陰性
本文	P11	B-3-(1)-2)	メンデル遺伝	Mendel ( メンデル ) 遺伝
本文	P13	C-1-(1)-3)	パイエル板	Peyer ( パイエル ) 板
本文	P15	C-2-(4)-②-2)	アルツハイマー病	Alzheimer ( アルツハイマー ) 病
本文	P15	C-2-(4)-②-3)	パーキンソン病	Parkinson ( パーキンソン ) 病
本文	P16	C-2-(4)-⑥-2)	ギラン・バレ症候群	Guillain - Barré ( ギラン・バレー ) 症候群
本文	P16	C-2-(4)-⑥-△ 3)	ベル麻痺	Bell ( ベル ) 麻痺
本文	P17	C-3-(2)-1)	ニコルスキー現象	<i>Nikolsky</i> (ニコルスキー) 現象
本文	P17	C-3-(2)-1)	ツァンク試験	Tzanck ( ツァンク ) 試験
本文	P17	C-3-(4)-⑥-1)	ジベルばら色粧糠疹	Gibert ( ジベル ) 薔薇色粧糠疹
本文	P18	C-3-(4)-⑧-△ 3)	ハンセン病	Hansen ( ハンセン ) 病
本文	P18	C-4-(4)-6)	ユーイング肉腫	Ewing ( ユーイング ) 肉腫
本文	P20	C-5-(4)-③-1)	WPW 症候群	Wolff - Parkinson - White ( ウォルフ・パーキンソン・ホワイト ) 症候群
本文	P20	C-5-(4)-⑥-1)	ファロー四徴	Fallot ( ファロー ) 四徴症
本文	P20	C-5-(4)-⑦-3)	バージャー病	Buerger ( バージャー ) 病
本文	P23	C-7-(4)-①-△ 6)	マロリー・ワイス症候群	Mallory - Weiss ( マロリー・ワイス ) 症候群
本文	P23	C-7-(4)-③-6)	クローン病	Crohn ( クローン ) 病
本文	P23	C-7-(4)-③-△ 12)	ヒルシュスプルング病	Hirschsprung ( ヒルシュスプルング ) 病
本文	P25	C-8-(4)-④-△ 2)	ファンコーニ症候群	Fanconi ( ファンコニー ) 症候群

本文	P25	C-8-(4)-⑥-△ 4)	グッドパスチャー症候群	Goodpasture ( グッドパスチャー ) 症候群
本文	P29	C-12-(4)-①-1)	クッシング病	Cushing ( クッシング ) 病
本文	P29	C-12-(4)-②-1)	バセドウ病	Basedow ( バセドウ ) 病
本文	P29	C-12-(4)-④-1)	クッシング症候群	Cushing ( クッシング ) 症候群
本文	P30	C-12-(4)-⑨-△ 4)	ウイルソン病	Wilson ( ウィルソン ) 病
本文	P33	D-1-(4)-①-△ 12)	クロイツフェルト・ヤコブ病	Creutzfeldt - Jakob ( クロイツフェルト・ヤコブ ) 病
本文	P35	D-3-(3)-①-3)	レイノー症状	Raynaud ( レイノー ) 症状
本文	P36	D-3-(3)-④-△ 5)	成人スチル病	成人 Still ( スチル ) 病
本文	P36	D-3-(3)-⑤ D-3-(3)-⑤-3)	シェーグレン症候群	Sjögren ( シェーグレン ) 症候群
本文	P36	D-3-(3)-⑤ D-3-(3)-⑤-4)	ベーチェット病	Behçet ( ベーチェット ) 病
本文	P36	D-3-(3)-⑤-△ 5)	川崎病	Kawasaki ( 川崎 ) 病
本文	P15	C-2-(4)-②-3)	パーキンソン病	Parkinson ( パーキンソン ) 病
本文	P53	G-1-(3)【検査手 技】4)	グラム染色	Gram 染色

【記載上の誤り】

修正箇所		コア・カリコード	修正前	修正案	備考
本文	P3	A-2-(2)-1)	医療過誤)	医療過誤	’)’をとる
本文	P22	C-7(一般目標)	病態生理、病因	病因、病態生理	順序を他の記載と合わせる
本文	P20	C-6-(1)-7)	肺の換気と(換気血流比)	肺の換気と血流(換気血流比)	’血流’を追加
本文	P26	C-8-(4)-⑧-2)	△印表記誤り(初版で△なしにも関わらず第2版で△が付いた)	13年度版に合わせる	’△’をとる
本文	P36	D-3-(3)-⑤-1)	混合性結合組織病(MCTD)	混合性結合組織病<MCTD>	’()’を’<>’に変更
本文	P9, P24	B-2-(1)-1) C-7-(4)-⑤-1)	B型肝炎 と B型肝炎ウイルス	B型肝炎 と B型肝炎ウイルス	全角に統一
本文	P9, P24	B-2-(1)-1) C-7-(4)-⑤-1)	C型肝炎 と C型肝炎ウイルス	C型肝炎 と C型肝炎ウイルス	全角に統一
本文	P34	D-1-(4)-④-3)	回虫	回虫症	’症’を付ける
本文	P34	D-1-(4)-④-3)	アニサキス	アニサキス症	’症’を付ける
本文	P34	D-1-(4)-④-3)	吸虫	吸虫症	’症’を付ける
索引			’鼻腔’が二重記載	まとめる	
索引			’湿疹’が二重記載	まとめる	
索引			’真菌’が二重記載	まとめる	
索引			’口腔’が二重記載	まとめる	
索引			’嚥下困難・障害’が二重記載	まとめる	
索引			’タンパク尿’が二重記載	まとめる	
索引			’乳房’が二重記載	まとめる	
索引			’咽頭痛’が’の’欄に収載	’い’欄に収載	
索引			’右心不全’が’み’欄に収載	’う’欄に収載	
索引			’化生’が’け’欄に収載	’か’欄に収載	
索引			’外固定’が’そ’欄に収載	’か’欄に収載	
索引			’かんとん’が’は’欄に収載	’か’欄に収載	



索引			'筋トーマス'が'す'欄に収載	'き'欄に収載	
索引			'急性糸球体腎炎症候群'が'きゆうせいい'欄に収載	'きゆうせいし'欄に収載	
索引			'急性心膜炎'が'きゆうせいこ'欄に収載	'きゆうせいし'欄に収載	
索引			'経腸栄養'が'き'欄に収載	'け'欄に収載	
索引			'現病歴'が'う'欄に収載	'け'欄に収載	
索引			'骨肉腫'が'ほ'欄に収載	'こ'欄に収載	
索引			'嗄声'が'か'欄に収載	'さ'欄に収載	
索引			'鰓弓'が'し'欄に収載	'さ'欄に収載	
索引			'鰓囊'が'し'欄に収載	'さ'欄に収載	
索引			'左心不全'が'ひ'欄に収載	'さ'欄に収載	
索引			'糸球体濾過量'が'い'欄に収載	'し'欄に収載	
索引			'尿崩症'が'によく'欄に収載	'によほ'欄に収載	
索引			'鼻出血'が'は'欄に収載	'ひ'欄に収載	
索引			'飛蚊症'が'ひか'欄に収載	'ひふ'欄に収載	

## ○「医師として求められる基本的な資質」について（全体版）

現行	改訂案
① 人の命と健康を守る医師の職責への十分な自覚のもとに、医師の義務や医療倫理を遵守し、絶えず患者本位の立場に立つ。	① 人の命と健康を守る医師の職責への十分な自覚のもとに、医師の義務や医療倫理を遵守し、絶えず患者本位の立場に立ち、患者を全人的に診る。
② 生命の尊厳についての深い認識のもとに、豊かな人間性を有する。	② 生命の尊厳についての深い認識のもとに、豊かな人間性を有する。
③ 医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践的能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的診療能力）を有する。	③ 大学および地域の医療機関等における体験学習や臨床実習等の多様な経験を通して、全身を総合的に診るための実践的能力（統合された知識、技能、態度に基づく総合的診療能力）を具有する。
④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームの一員としての行動や後輩等に対する指導を適切に行える。	④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームのメンバーを相互に尊重し、その一員としての適切な行動をとり、後輩等に対する指導を行える。
⑤ 患者及びその家族の秘密を守る。	⑤ 診療上知り得た患者及びその家族の情報を守秘し、医療の安全性を確保する。
⑥ 医師として、地域における医療・保健・福祉等の連携および医療の経済的側面等の医療を巡る動向に関心・理解を有する。	⑥ 地域医療の現場での保健・医療・福祉・介護等の現状と問題点を把握し、その連携強化等の改善・充実に貢献するとともに常に医療の経済的側面等を巡る動向を理解する。
⑦ 医学・医療の進歩における医学研究の必要性を理解し、研究に参加するとともに、絶えず医療の質の向上に生涯にわたり学習する意欲と態度を有する。	⑦ 医学・医療の進歩と改善のためには、研究マインドの涵養が不可欠であることを理解し、基礎と臨床の有機的連携等による研究を行うための意欲と基礎的素養を有する。

※ 現行⑦の後段部分については、社会的ニーズ等（生涯学習等）への対応を含めて、今後記載内容を検討予定。

○「E 診療の基本」と「G 臨床実習」について (改訂版)

**E 診療の基本**

**1 症候・病態からのアプローチ**

一般目標：

主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を発達、成長、加齢ならびに性別と関連づけて学ぶ。

**(1) ショック**

到達目標：

- 1) ショックの定義、原因と病態を説明できる。
- 2) ショック患者の診断の要点を列挙できる。
- 3) ショックの治療を概説できる。

**(2) 発熱**

到達目標：

- 1) 発熱の原因と病態生理を説明できる。
- 2) 発熱患者の診断と対症療法の要点を説明できる。

**(3) けいれん**

到達目標：

- 1) けいれんの種類と原因を列挙できる。
- 2) けいれん患者の診断の要点を概説できる。
- 3) けいれん発作時の初期治療を概説できる。

**(4) 意識障害・失神**

到達目標：

- 1) 意識障害・失神の原因を列挙し、その病態を説明できる。
- 2) 意識障害の程度評価(コーマ・スケール)を説明できる。
- 3) 意識障害・失神をきたした患者の診断の要点を説明できる。
- 4) 意識障害・失神をきたした患者の治療を概説できる。

**(5) チアノーゼ**

到達目標：

- 1) チアノーゼの原因と病態を説明できる。
- 2) チアノーゼを呈する患者の診断の要点を説明できる。

## **(6) 脱水**

到達目標：

- 1) 脱水の原因と病態を説明できる。
- 2) 脱水をきたした患者の診断と治療の要点を説明できる。

## **(7) 全身倦怠感**

到達目標：

- 1) 全身倦怠感をきたす原因を列挙できる。
- 2) 全身倦怠感を訴える患者の診断の要点を説明できる。

## **(8) 肥満・やせ**

到達目標：

- 1) 肥満・やせを定義し、それぞれの原因を列挙できる。
- 2) 肥満・やせを呈する患者の診断の要点を説明できる。

## **(9) 黄疸**

到達目標：

- 1) 黄疸の原因と病態を説明できる。
- 2) 黄疸患者の診断と治療の要点を説明できる。

## **(10) 発疹**

到達目標：

- 1) 発疹の種類と主な原因を列挙できる。
- 2) 発疹の所見を記述して分類できる。
- 3) 発疹患者の診断の要点を説明できる。

## **(11) 貧血**

到達目標：

- 1) 貧血の原因、分類と病態を説明できる。
- 2) 貧血患者の診断の要点を説明できる。

## **(12) 出血傾向**

到達目標：

- 1) 出血傾向の原因と病態を説明できる。
- 2) 出血傾向を呈する患者の診断の要点を説明できる。

### **(13) リンパ節腫脹**

到達目標：

- 1) リンパ節腫脹の原因を列挙できる。
- 2) リンパ節腫脹を呈する患者の診断の要点を説明できる。

### **(14) 浮腫**

到達目標：

- 1) 全身浮腫と局所性浮腫の原因と病態を説明できる。
- 2) 浮腫をきたした患者の診断と治療の要点を説明できる。

### **(15) 動悸**

到達目標：

- 1) 動悸の原因を列挙し、その病態を説明できる。
- 2) 動悸を訴える患者の診断の要点を説明できる。

### **(16) 胸水**

到達目標：

- 1) 胸水の原因と病態を説明できる。
- 2) 胸水を呈する患者の診断の要点を説明できる。

### **(17) 胸痛**

到達目標：

- 1) 胸痛の原因と病態を説明できる。
- 2) 胸痛患者の診断の要点を説明できる。
- 3) 胸痛患者に対する初期治療を概説できる。

### **(18) 呼吸困難**

到達目標：

- 1) 呼吸困難の原因と病態を説明できる。
- 2) 呼吸困難の程度に関する分類を説明できる。
- 3) 呼吸困難患者の診断の要点を説明できる。
- 4) 呼吸困難患者に対する初期治療を概説できる。

### **(19) 咳・痰**

到達目標：

- 1) 咳・痰の原因と病態を説明できる。
- 2) 咳・痰を訴える患者の診断の要点を説明できる。

## **(20) 血痰・喀血**

到達目標：

- 1) 血痰・喀血の原因を列挙できる。
- 2) 血痰・喀血を呈する患者の診断の要点を説明できる。

## **(21) めまい**

到達目標：

- 1) めまいの原因と病態を説明できる。
- 2) めまいを訴える患者の診断の要点を説明できる。

## **(22) 頭痛**

到達目標：

- 1) 頭痛の原因と病態を説明できる。
- 2) 頭痛を訴える患者の診断の要点を説明できる。

## **(23) 運動麻痺・筋力低下**

到達目標：

- 1) 運動麻痺・筋力低下の原因と病態を説明できる。
- 2) 運動麻痺・筋力低下を訴える患者の診断の要点を説明できる。

## **(24) 腹痛**

到達目標：

- 1) 腹痛の原因と病態を説明できる。
- 2) 腹痛患者の診断の要点を説明できる。
- 3) 急性腹症を概説できる。

## **(25) 悪心・嘔吐**

到達目標：

- 1) 悪心・嘔吐の原因と病態を説明できる。
- 2) 悪心・嘔吐を訴える患者の診断の要点を説明できる。

## **(26) 嚥下困難・障害**

到達目標：

- 1) 嚥下困難・障害の原因と病態を説明できる。
- 2) 嚥下困難・障害を訴える患者の診断の要点を説明できる。

## **(27) 食思(欲)不振**

到達目標：

- 1) 食思不振をきたす原因と病態を説明できる。
- 2) 食思不振を訴える患者の診断の要点を説明できる。

### **(28) 便秘・下痢**

到達目標：

- 1) 便秘・下痢の原因と病態を説明できる。
- 2) 便秘・下痢患者の診断の要点を説明できる。

### **(29) 吐血・下血**

到達目標：

- 1) 吐血・下血の原因と病態を説明できる。
- 2) 吐血・下血患者の診断の要点を列挙できる。
- 3) 吐血・下血患者の初期治療を概説できる。

### **(30) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘍**

到達目標：

- 1) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘍の原因と病態を説明できる。
- 2) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘍のある患者の診断の要点を説明できる。

### **(31) タンパク尿**

到達目標：

- 1) タンパク尿の原因と病態を説明できる。
- 2) タンパク尿を呈する患者の診断の要点を説明できる。

### **(32) 血尿**

到達目標：

- 1) 血尿の原因を列挙できる。
- 2) 血尿をきたした患者の診断の要点を説明できる。

### **(33) 尿量・排尿の異常**

到達目標：

- 1) 尿量・排尿の異常の原因と病態を説明できる。
- 2) 尿量・排尿の異常をきたした患者の診断の要点を説明できる。

### **(34) 月経異常**

到達目標：

- 1) 月経異常の原因と病態を説明できる。
- 2) 月経異常を呈する患者の診断の要点を説明できる。

### (35) 関節痛・関節腫脹

到達目標：

- 1) 関節痛・関節腫脹の原因と病態生理を説明できる。
- 2) 関節痛・関節腫脹のある患者の診断の要点を説明できる。

### (36) 腰背部痛

到達目標：

- 1) 腰背部痛の原因を列挙できる。
- 2) 腰背部痛を訴える患者の診断の要点を説明できる。

## 2 基本的診療知識

### (1) 薬物治療の基本原則

一般目標：

診療に必要な薬物治療の基本（薬理作用、副作用）を学ぶ。

到達目標：

- 1) 薬物の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。
- 2) 主な薬物アレルギーを列挙し、予防策と対処法を説明できる。
- 3) 中枢神経作用薬（向精神薬、抗うつ薬、パーキンソン治療薬、抗けいれん薬、全身麻酔薬）の薬理作用を説明できる。
- 4) 自律神経作用薬（アドレナリン（エピネフリン）作用薬、抗アドレナリン（エピネフリン）作用薬、コリン作用薬、抗コリン作用薬）の薬理作用を説明できる。
- 5) 循環器作用薬（強心薬、抗不整脈薬、降圧薬）の薬理作用を説明できる。
- 6) 呼吸器作用薬（気管支拡張薬）の薬理作用を説明できる。
- 7) 消化器作用薬（潰瘍治療薬、消化管運動作用薬）の薬理作用を説明できる。
- 8) 利尿薬の薬理作用を説明できる。
- 9) ステロイド薬および非ステロイド系抗炎症薬の薬理作用を説明できる。
- 10) 抗菌薬（抗生物質、合成抗菌薬）の薬理作用を説明できる。
- 11) 抗腫瘍薬の薬理作用を説明できる。
- △12) 主な薬物の副作用を概説できる。
- △13) 年齢による薬剤投与の注意点を説明できる。
- △14) 薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。
- △15) 処方箋の書き方、服薬の基本・コンプライアンスを説明できる。
- △16) 生物製剤の薬理作用と副作用を説明できる。
- △17) 和漢薬を概説できる。



## (2) 臨床検査

検査手技に関する学習項目についてはG3を参照

一般目標：

検査の方法、適応と解釈を学ぶ。

到達目標：

- 1) 臨床検査の基準値・カットオフ値の意味が説明できる。
- 2) 検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率・予測値、尤度比）を説明できる。
- 3) 血液学的検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
- 4) 尿検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- 5) 糞便検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- 6) 生化学的検査項目を列挙し目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- 7) 免疫学的検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- 8) 心電図検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- 9) 動脈血ガス分析の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- 10) 呼吸機能検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- 11) 脳脊髄液検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- △12) 検査の誤差や生理的変動を説明できる。
- △13) 正しい検体採取の方法が説明でき、不適切な採取を行ったときの検査値の異常を判断できる。
- △14) 小児・高齢者の検査値の特徴を説明できる。
- △15) 一般細菌の塗抹・培養の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。

## (3) 外科的治療と周術期管理

一般目標：

外科的治療と周術期管理の基本を学ぶ。

### 【外科的治療】

(G3を参照)

### 【周術期管理】

到達目標：

- 1) 手術の危険因子を列挙し、その対応の基本を説明できる。
- 2) 基本的バイタルサインの意義とモニターの方法を説明できる。
- 3) 主な術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。
- △4) 手術に関するインフォームドコンセントの注意点を列挙できる。
- △5) 周術期管理における輸液・輸血の基本を説明できる。
- △6) 創傷治癒機転とそれに影響を与える因子を説明できる。
- △7) 経鼻胃管の適応と管理上の注意点を列挙できる。
- △8) 集中治療室の役割を概説できる。

#### **(4) 麻酔**

##### **一般目標：**

全身麻酔・局所麻酔の基本を学ぶ。

##### **到達目標：**

- 1) 麻酔の概念、種類と麻酔時の生体反応を説明できる。
- 2) 麻酔薬と麻酔前投薬の種類と使用上の原則を説明できる。
- 3) 吸入麻酔と静脈麻酔の適応、禁忌、事故と合併症を説明できる。
- △4) 気管（内）挿管・抜管を概説できる。
- △5) 局所麻酔、末梢神経ブロック、神経叢ブロック、脊椎麻酔、硬膜外麻酔の適応、禁忌と合併症を説明できる。
- △6) 循環動態、体液・電解質、酸塩基平衡、血液ガス分析の意義と方法を説明し、データを解釈できる。
- △7) 悪性高熱症を概説できる。

#### **(5) 食事と輸液療法**

##### **一般目標：**

食事と輸液療法の基本を学ぶ。

##### **到達目標：**

- 1) 主な疾患の食事療法を概説できる。
- 2) 補液・経静脈栄養と経腸栄養の適応、方法と合併症を説明できる。
- △3) 輸液療法の原則と輸液剤の組成上の特徴を説明できる。
- △4) 乳幼児と小児の輸液療法を説明できる。
- △5) 微量元素の生理作用を説明できる。

#### **(6) 医用機器と人工臓器**

##### **一般目標：**

医用機器と人工臓器の基本を学ぶ。

##### **到達目標：**

- 1) 主な医用機器の種類と原理を概説できる。
- 2) 主な人工臓器の種類と原理を概説できる。

#### **(7) 放射線を用いる診断と治療**

##### **一般目標：**

放射線診断と治療の基本を学ぶ。

##### **到達目標：**

- 1) エックス線、CT、MRI と核医学検査の原理を説明できる。
- 2) エックス線（単純、造影）、CT、MRI と核医学検査の読影の原理を説明できる。
- 3) 放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。
- 4) 放射線診断・治療による副作用と障害を説明できる。
- 5) 放射線防護を説明できる。
- △6) 放射線造影法を活用した治療を概説できる。

## **(8) 内視鏡を用いる診断と治療**

### **一般目標：**

内視鏡の原理とそれによる診断と治療の基本を学ぶ。

### **到達目標：**

- 1) 内視鏡機器の種類と原理を説明できる。
- 2) 内視鏡検査法の種類を列挙し、概説できる。
- △3) 内視鏡を用いる治療を概説できる。

## **(9) 超音波を用いる診断と治療**

### **一般目標：**

超音波機器の原理とそれによる診断と治療の基本を学ぶ。

### **到達目標：**

- 1) 超音波機器の種類と原理を説明できる。
- 2) 超音波検査法の種類を列挙し、概説できる。
- △3) 超音波を用いる治療を概説できる。

## **(10) 輸血と移植**

### **一般目標：**

輸血と移植の基本を学ぶ。

### **到達目標：**

- 1) 輸血の適応と合併症を説明できる。
- 2) 血液交叉試験を説明できる。
- 3) 血液製剤の種類と適応を説明できる。
- 4) 同種輸血、自己輸血、成分輸血と交換輸血を説明できる。
- 5) 臓器移植の種類と適応を説明できる。
- △6) 脳死の判定基準を列挙できる。
- △7) 臓器移植と組織適合性の関係を説明できる。
- △8) 臓器移植後の拒絶反応の病態生理と発症時の対応を説明できる。
- △9) 免疫抑制薬の種類、適応と副作用を説明できる。

## **(11) リハビリテーション**

### **一般目標：**

リハビリテーションの基本を学ぶ。

### **到達目標：**

- 1) リハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- 2) リハビリテーションチームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。
- 3) 福祉・介護との連携におけるリハビリテーションの役割を説明できる。
- △4) 障害を機能障害、能力低下、社会的不利に分けて説明できる。
- △5) 日常生活動作〈ADL〉の評価ができる。

△6) 理学療法、作業療法と言語療法を概説できる。

△7) 主な歩行補助具、車椅子、義肢と装具を概説できる。

## **(12) 介護と在宅医療**

一般目標：

介護と在宅医療の基本を学ぶ。

到達目標：

- 1) 介護の定義と種類を説明できる。
- 2) 日常生活動作（排泄、摂食、入浴）の介護と環境整備の要点を概説できる。
- 3) 在宅医療（酸素療法、栄養療法、透析療法）を概説できる。

## **(13) 緩和医療**

一般目標：

緩和医療の基本を学ぶ。

到達目標：

- 1) 緩和医療を概説できる。
  - 2) 癌性疼痛コントロールの適応と問題点を説明できる。
- △3) 緩和医療における患者・家族の心理を説明できる。

## **3 基本的診療技能**

G1～4とE3(1)～(6)の学習目標は同一である。一般に、Gでは、病棟における臨床実習において、実際に患者に接しながら指導医の指導・監督のもとに習得すべき目標となる。一方、E3では、臨床実習開始前に、学生が卒業時の目標をめざして診察や実技等に関する基本知識を習得し、シミュレータ、模擬患者、学生同士の相互実習等により学ぶべき内容となり、病棟で習得する技能等については、E3の学習目標とはならない。

### **(1) 問題志向型システム**

学習項目についてはG1を参照

### **(2) 医療面接**

学習項目についてはG2を参照

### **(3) 診療記録**

学習項目についてはG1を参照

### **(4) 臨床判断**

学習項目についてはG1を参照

## **(5) 身体診察**

### **【全身状態とバイタルサイン】**

学習項目についてはG 2を参照

### **【頭頸部】**

学習項目についてはG 2を参照

### **【胸部】**

学習項目についてはG 2を参照

### **【腹部】**

学習項目についてはG 2を参照

### **【神経】**

学習項目についてはG 2を参照

### **【四肢と脊柱】**

学習項目についてはG 2を参照

### **【小児の診察】**

学習項目についてはG 4を参照

## **(6) 基本的臨床手技**

### **【一般手技】**

学習項目についてはG 3を参照

### **【外科手技】**

学習項目についてはG 3を参照

### **【検査手技】**

学習項目についてはG 3を参照

### **【救命処置】**

学習項目についてはG 4を参照

## G 臨床実習

- ・ G1～4とE3(1)～(6)の学習目標は同一である。一般に、Gでは、病棟における臨床実習において、実際に患者に接しながら指導医の指導・監督のもとに習得すべき目標となる。一方、E3では、臨床実習開始前に、学生が卒業時の目標をめざして診察や実技等に関する基本知識を習得し、シミュレータ、模擬患者、学生同士の相互実習等により学ぶべき内容となり、病棟で習得する技能等については、E3の学習目標とはならない。
- ・ 臨床実習を行うに当たっては、個々の臨床実習を独立して行うのではなく、臨床実習全体を体系的に遂行させる統轄責任者が必要である。

### 1 診療の基本

一般目標：

患者情報の収集、記録、診断、治療計画について学ぶ。

#### 【問題志向型システムと臨床診断推論】

到達目標：

- 1) 基本的診療知識にもとづき、症例に関する情報を収集・分析できる。
- 2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる。
- 3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。
- 4) 主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。

#### 【科学的根拠にもとづいた医療】

到達目標：

- 1) 感度・特異度を考慮して、必要十分な検査を挙げることができる
- 2) 科学的根拠にもとづいた治療法を述べることができる。

#### 【診療記録とプレゼンテーション】

到達目標：

- 1) 適切に患者の情報を収集し、POMRを作成できる。
- 2) 診療経過をSOAPで記載できる。
- 3) 症例を適切に要約する習慣を身につけ、状況に応じて提示できる。

## 2 診察法

(生殖器診察は【産婦人科実習】参照、小児診察は【小児科実習】参照)

### 一般目標：

患者との信頼関係に基づいた医療面接と診察法を学ぶ。

### 【基本事項】

- 1) 患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。
- 2) 患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。
- 3) 患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。
- 4) 感染を予防するため、診察前の手洗いや器具等の消毒ができる。
- 5) 挨拶、身だしなみ、言葉遣い等に気を配ることができる。
- 6) 患者の状態から診察が可能かを判断できる。患者の状態に応じた診察ができる。

### 【医療面接】

#### 到達目標：

- 1) 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者に接することができる。
- 2) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。
- 3) 病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を聞き取り、情報を取捨選択し整理できる。
- 4) 診察で得た所見、診断、必要な検査を説明、報告できる。

### 【全身状態とバイタルサイン】

#### 到達目標：

- 1) 身長・体重を測定し、BMIの算出、栄養状態を評価できる。
  - 2) 上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。
  - 3) 両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。
  - 4) 呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。
  - 5) 腋窩で体温の測定ができる。
  - 6) 大腿動脈の触診、下腿の血圧測定（触診法）、大腿の血圧測定（聴診法）を実施できる。
- ・意識レベルについては神経診察を参照。

### 【頭頸部】

#### 到達目標：

- 1) 頭部（顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋）の診察ができる。
- 2) 眼（視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜）の診察ができる。
- 3) 耳（耳介、聴力）の診察ができる。
- 4) 耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。
- 5) 音叉を用いて聴力試験を実施できる。
- 6) 口唇、口腔、咽頭の診察ができる。

- 7) 鼻腔、副鼻腔の診察ができる。
  - 8) 鼻鏡を用いて前鼻腔を観察できる。
  - 9) 甲状腺、頸部血管、気管を診察できる。
  - 10) 唾液腺、頭頸部リンパ節の診察ができる。
- ・眼底検査については神経診察を参照。

### 【胸部】

到達目標：

- 1) 胸部の視診、触診、打診ができる。
- 2) 呼吸音の聴診ができる。
- 3) 心音と心雑音の聴診ができる。
- 4) 背部の叩打痛を確認できる。
- 5) 乳房の診察をシミュレータで実施できる。

### 【腹部】

到達目標：

- 1) 腹部の視診・聴診ができる。
- 2) 区分に応じて腹部の打診・触診ができる。
- 3) 腹膜刺激徴候の有無を判断できる。
- 4) 腹水の有無を判断できる。
- 5) 直腸（前立腺を含む）指診をシミュレータで実施できる。

### 【神経】

到達目標：

- 1) 意識状態を判定できる。
- 2) 脳神経を診察できる（眼底検査を含む）。
- 3) 腱反射の診察ができる。
- 4) 小脳・運動機能を診察できる。
- 5) 感覚系の診察ができる。
- 6) 髄膜刺激所見を確認できる

### 【四肢と脊柱】

到達目標：

- 1) 四肢と脊柱を診察できる。
- 2) 関節（関節可動域を含む）を診察できる。
- 3) 筋骨格系の診察ができる。



## 【高齢者の診察】

### 到達目標：

- 1) 高齢者特有の身体・精神の変化をふまえて高齢者を診察できる。
- 2) 高齢者の総合機能評価（CGA）ができる。

## 3 基本的臨床手技

### 一般目標：

基本的臨床手技の目的、適応、禁忌、合併症と実施法を学ぶ。

## 【一般手技】

### 到達目標：

- 1) 体位交換、おむつ交換、移送ができる。
- 2) 皮膚消毒、包帯交換ができる。
- 3) 外用薬の貼付・塗布ができる。
- 4) 気道内吸引、ネブライザーを実施できる。
- 5) ギプス巻きができる。
- 6) 静脈採血を実施できる。
- 7) 末梢静脈の血管確保をシミュレータで実施できる。
- 8) 中心静脈カテーテル挿入を見学・介助してシミュレータで実施できる。
- 9) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学・介助してシミュレータで実施できる。
- 10) 腰椎穿刺を見学・介助してシミュレータで実施できる。
- 11) 胃管の挿入と抜去ができる。
- 12) 尿道カテーテルの挿入と抜去をシミュレータで実施できる。
- 13) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助ができる。
- 14) 注射（皮下、皮内、筋肉、静脈内）を、シミュレータで実施できる。

## 【外科手技】

### 到達目標：

- 1) 清潔操作を実施できる。
- 2) 手術や手技のための手洗いができる。
- 3) 手術室におけるガウンテクニックができる。
- 4) 基本的な縫合ができる。
- 5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
- 6) 手術に参加し、介助ができる。

## 【検査手技】

到達目標：

- 1) 尿検査（尿沈渣を含む）を実施できる。
- 2) 末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。
- 3) 微生物学検査（グラム染色を含む）を実施できる。
- 4) 妊娠反応検査を実施できる。
- 5) 血液型判定を実施できる。
- 6) 視力、視野、聴力、平衡検査を実施できる。
- 7) 12誘導心電図を記録できる。
- 8) 脳波検査を介助できる。
- 9) 心臓、腹部の超音波検査を介助できる。
- 10) X線撮影、CT、MRI、RI検査、内視鏡検査を見学・介助できる。

## 4 診療科臨床実習

臨床実習を行うに当たっては、個々の臨床実習を独立して行うのではなく、臨床実習全体を体系的に遂行させる統轄責任者が必要である。

### （1）内科系臨床実習

#### 【内科】

一般目標：

基本的内科疾患を受け持ち、症候・病態、診断、治療と予後を学ぶ。

到達目標：

- 1) 主要な内科疾患を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。
- 2) 他科へのコンサルテーションの必要性について説明できる。
- 3) 複数の疾患をかかえる患者を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。

#### 【精神科】

一般目標：

基本的な精神症状の評価の仕方、面接法、治療を学ぶ。

到達目標：

- 1) 精神科疾患の診察に立ち会い、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。
- 2) 精神症状をもつ患者の診療を行う上での、法と倫理の必須項目を列挙できる。
- 3) 精神症状・精神障害の初期症状と、どのような場合に専門医へのコンサルテーションが必要か説明できる。

## 【小児科】

### 一般目標：

基本的小児科疾患を受け持ち、症候・病態、診断、治療と予後を学ぶ。

### 到達目標：

- 1) 小児の診断・治療に必要な情報を保護者から聴き取ることができる。
- 2) 主要な小児疾患の全身の診察ができ、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。
- 3) 正常新生児の診察ができる。
- 4) 乳幼児健診に立ち会い、小児の成長・発達と異常の評価に参加できる。

## (2) 外科系臨床実習

### 【外科】

#### 一般目標：

基本的な外科疾患を受け持ち、外科的治療を学ぶ。

#### 到達目標：

- 1) 外科的処置の適応を判断し、リスク評価を説明できる。
- 2) 基本的な術前術後管理に立ち会う。

### 【産婦人科】

#### 一般目標：

基本的な産婦人科疾患を受け持ち、女性の健康問題、症候、診断、治療と予後を学ぶ。

#### 到達目標：

- 1) 基本的な婦人科診察をシミュレータで実施できる。
- 2) 主要な婦人科疾患の診察に立ち会い、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。
- 3) 妊婦の診察と出産に立ち会う。

## (3) 救急医療臨床実習

#### 一般目標：

診療チームの一員として救急医療に参加する。

#### 到達目標：

- 1) 救急病態の救命治療に参加できる。
- 2) 初期救急病態を鑑別し、初期治療に参加できる。
- 3) 外傷の処置に参加できる。
- 4) 一次救命処置（脳心肺蘇生）をシミュレータを用いて実施できる。

## 5 地域医療臨床実習

### 一般目標：

地域社会（へき地・離島を含む）で求められる保健・医療・福祉・介護等の実態を学ぶ。

### 到達目標：

- 1) 地域のプライマリ・ケアを体験する。
- 2) 病診連携・病病連携を体験する。
- 3) 地域の救急医療、在宅医療を体験する。
- 4) 多職種連携のチーム医療を体験する。
- 5) 地域における疾病予防・健康維持増進の活動を体験する。

### 学習形態等：

学外の地域病院（臨床研修病院を含む）、診療所、保健所、社会福祉施設等の協力を得て、「地域医療臨床実習」について、入学後早期からの「早期体験学習」、「衛生学・公衆衛生学実習」等も含めた段階的・体系的な位置付けとすることが望まれる。また、必要に応じて「臨床教授制度」等を利用する。

### 症 例：

地域病院あるいは診療所などの状況に応じた症例

## (参考1)

### ○ これまでの検討経過等について

#### ■過去の検討経過等

- 平成 13 年 3 月 「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」(文部科学省主催、高久史麿座長)からの報告「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について」の別冊として、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」が提示。
- 平成 19 年 3 月 「医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」(文部科学省主催、高久史麿座長)の最終報告において、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に係ること、医学と歯学のモデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的体制の構築等について提言。
- 平成 19 年 5 月 「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会」及び「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会」を文部科学省に設置。(連絡調整委員会は、改訂等の決定組織。専門研究委員会は、専門的な調査研究等を行い、改訂原案の作成等を行う組織。)
- 平成 19 年 12 月 連絡調整委員会及び専門研究委員会の検討を経て、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を一部改訂。(主な内容は、以下のとおり。)
- 地域保健・医療、腫瘍、医療安全に関する学習内容の充実
  - 「医師として求められる基本的な資質」や「地域医療臨床実習」に関する項目の新設
  - 学部教育における研究の視点に係る記載の充実
- 平成 21 年 2 月 「臨床研修制度のあり方等に関する検討会」(文部科学省・厚生労働省共催、高久史麿座長)の意見とりまとめにおいて、臨床研修制度の改善に加えて、医学教育のカリキュラム見直しの必要性が提言。
- 平成 21 年 5 月 「医学教育カリキュラム検討会」(文部科学省主催、荒川正昭座長)の意見とりまとめ「臨床研修制度の見直し等を踏まえた医学教育の改善について」において、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に向けて、今後検討すべき事項として、以下の内容が提言。
- 基本的診療能力の確実な習得
  - 地域の医療を担う意欲・使命感の向上
  - 基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養
- 平成 22 年 6 月 上記提言を踏まえ、連絡調整委員会及び専門研究委員会において「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂作業を開始。併せて「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」についても改訂作業を開始。

※ 今回の改訂に当たっては、作業を円滑かつ効率的に行うため、改正素案の作成等に係る作業を外部委託。具体的には、先導的の大学改革推進委託事業(文部科学省)を活用して、委託先の大学に複数の大学関係者等をメンバーとする調査研究チームを設置し、改訂素案を検討。

- 今回の改訂に向けた「連絡調整委員会」及び「専門研究委員会」の開催状況
  - 平成 22 年 6 月 16 日 連絡調整委員会(第 1 回)・専門研究委員会<医学・歯学>(第 1 回)
    - ・委員長の選任、開催趣旨、関係者からのヒアリング
  - 8 月 5 日 専門研究委員会<医学・歯学>(第 2 回)
    - ・調査研究チームでの検討の方向性、関係者からのヒアリング
  - 9 月 30 日 連絡調整委員会(第 2 回)・専門研究委員会<医学・歯学>(第 3 回)
    - ・今回の改訂の基本方針、調査研究チームからの経過報告①
  - 11 月 15 日 専門研究委員会<医学>(第 4 回)
    - ・調査研究チーム(医学)からの経過報告②
  - 11 月 16 日 専門研究委員会<歯学>(第 5 回)
    - ・調査研究チーム(歯学)からの経過報告②
  - 12 月 20 日 連絡調整委員会(第 3 回)・専門研究委員会<医学・歯学>(第 6 回)
    - ・調査研究チームからの改訂に係る「中間報告案」の提示
- ※ 今後は、調査研究チームからの「最終報告案」の提示を受けて、平成 23 年 3 月下旬を目処に今回の改訂内容を取りまとめ、大学や臨床研修病院等へ周知予定。

## ○ 調査研究チームにおける活動状況

- 医学教育に係る調査研究チーム(WG)の開催状況
  - 第 1 回WG：平成 22 年 8 月 2 日(月) 15:00～17:00
  - 第 2 回WG：平成 22 年 8 月 23 日(月) 15:00～17:00
  - 第 3 回WG：平成 22 年 9 月 3 日(金) 10:00～12:00
  - 第 4 回WG：平成 22 年 9 月 24 日(金) 10:00～12:00
  - 第 5 回WG：平成 22 年 10 月 18 日(月) 16:00～18:00
  - 第 6 回WG：平成 22 年 11 月 1 日(月) 10:00～12:30
  - 第 7 回WG：平成 22 年 12 月 17 日(金) 13:00～15:00
  - その他、随時、メーリングリストで議論
- 各大学等における意見等への配慮
  - ・平成 22 年 9 月 21 日付けで、全国 80 の医科大学(医学部)(防衛医科大学校を含む)及び日本医学会の分科会である全 108 の学会に対して、メールにて意見伺い。
  - ・合計 29 の大学、20 の学会より回答があり、今回の検討に際して、「現行のモデル・コア・カリキュラムの量的過剰状態」に留意し、可能な範囲で意見に配慮。
- 諸外国における先進的な取組事例との比較
  - ・文献を通じて諸外国におけるカリキュラムの内容や教育現場での工夫を検証
  - ・平成 22 年 12 月初旬にカナダ・マギール大学に訪問
- 今後の予定
  - ・パブリック・コメントの結果等を踏まえ、調査研究チームにおいて更なる検討を行い、平成 23 年 2 月下旬を目処に「最終報告案」を確定させる予定。
  - ・平成 23 年度においては、モデル・コア・カリキュラムで示された内容の実効性を一層確保し、各段階で求められる能力を適正に評価する仕組みの構築に向けて、引き続き、調査研究チームにおいて、臨床実習等に係る評価システムの在り方について検討予定。

## (参考2)

### 今回のモデル・コア・カリキュラム改訂に係る基本方針 ＜医学・歯学教育共通＞

H22. 11. 15

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会  
委員長(医学教育担当・歯学教育担当)

#### 1. モデル・コア・カリキュラムの基本理念

→ モデル・コア・カリキュラムの各大学への普及状況等を踏まえ、以下の点について、引き続き維持することが適当。

- 初等中等教育における学習指導要領のような性格ではなく、各大学が教育理念に応じて自主的にカリキュラムを編成する際の参考となるガイドラインとしての位置づけ
- 膨大な教育内容を精選し、全ての医・歯学生在が臨床実習開始前及び卒業時までまでに修得すべき必要最小限のコアとなる教育内容について、身に付けるべき具体的な知識・技能・態度を到達目標として提示
- モデル・コア・カリキュラムを活用した具体的な授業科目設定、教育方法や履修順序等は、各大学の裁量に任されており、各大学のカリキュラムにモデル・コア・カリキュラムの内容が盛り込まれることが必要

#### 2. 今回の改訂に係る検討内容

→ 検討会等(※)で示された必要性や緊急性の高い内容を中心としつつ、医学・歯学教育に係る様々な社会的ニーズ(医学・歯学等の連携を含む)等も念頭に置き、具体的な改訂内容を検討し、速やかに対応することが適当。(※「医学教育カリキュラム検討会－意見のとりまとめ(H21.5)」、「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議－第1次報告(H21.1)」)

- ＜医学教育＞ 基本的診療能力の確実な習得、地域の医療を担う意欲・使命感の向上、基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養 等
- ＜歯学教育＞ 歯科医師として必要な臨床能力の確保、優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施、未来の歯科医療を拓く研究者の養成 等

#### 3. 今回の改訂に際しての留意点

→ これまでの改訂に係る検討経過、医学・歯学教育に係る国内外の状況等を踏まえつつ、モデル・コア・カリキュラムを有効活用した、各大学の主体的で実効性ある教育の展開に向けて、以下の点に留意することが必要。

- 現行のモデル・コア・カリキュラムに盛り込まれている内容の量的過剰状態への対応
- 臨床実習前教育、臨床実習、臨床研修等、卒前・卒後の一貫した医師・歯科医師養成の視点
- 各大学等における取組実績や意見等への配慮、全体構成(表記の調整を含む)や周知等の工夫
- 諸外国における先進的な取組事例との比較、学問・医療技術の進歩等への対応

#### 4. 今回の改訂後の対応

- 社会的ニーズの変化や医学・歯学・医療の進歩等を勘案した対応など、今後とも継続して検討すべき事項については、今回の改訂以降も計画的に対応していくことが必要。
- モデル・コア・カリキュラムで示された内容の実効性を一層確保し、各段階で求められる能力を適正に評価する仕組みの構築に向けて、臨床実習等に係る評価システムの在り方についての検討が必要。

## (参考3)

### 医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂 に関する恒常的な組織の設置について

平成19年5月30日 設 置

平成22年6月9日一部改正

高 等 教 育 局 長

#### 1. 目 的

「医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の報告を踏まえ、医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム（以下「モデル・コア・カリキュラム」という。）の改訂に関する恒常的な組織を設置する。

#### 2. 役 割

- (1) 医師国家試験出題基準及び歯科医師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に対応した、モデル・コア・カリキュラムの改訂
- (2) 学生への教育効果の検証等、モデル・コア・カリキュラムの検証・評価
- (3) モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な調査研究
- (4) モデル・コア・カリキュラムの関係機関への周知徹底、各大学の取組状況の検証等、モデル・コア・カリキュラムの活用に必要な事項
- (5) その他モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な事項

#### 3. 設置組織の構成等

- (1) 専門的な調査研究等を行いモデル・コア・カリキュラムの改訂の原案の作成等を行う組織（モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会）と、モデル・コア・カリキュラムの改訂等を決定する組織（モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会）を設置し、文部科学省が主催する。
- (2) (1) の委員会の構成は別紙のとおりとする。
- (3) 必要に応じ、調査研究等を分担させるため必要な組織を置くことができるものとする。
- (4) 必要に応じ、関係者からの意見等を聴くことができるものとする。

#### 4. 委 員

- (1) 委員については、医学教育又は歯学教育のカリキュラム、医師又は歯科医師の国家試験等について優れた識見を有する者、その他関係者のうちから委嘱する。
- (2) 委員の任期は、委嘱した日の属する会計年度の翌会計年度末までとする。
- (3) 必要に応じ委員を追加することができる。
- (4) 委員は再任されることができる。

#### 5. その他

3の組織に関する庶務は、高等教育局医学教育課が処理する。



「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会」委員名簿

※敬称略、五十音順

(医療全般)

- 高久 史磨 日本医学会会長、自治医科大学長  
社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構理事長

(医学教育)

小川 秀興 社団法人日本私立医科大学協会会長、学校法人順天堂理事長

黒岩 義之 全国医学部長病院長会議会長、横浜市立大学医学部長

馬場 忠雄 国立大学医学部長会議常置委員会顧問、滋賀医科大学長

(歯学教育)

江藤 一洋 日本歯科医学会会長、東京医科歯科大学名誉教授  
社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長

中原 泉 社団法人日本私立歯科大学協会会長、日本歯科大学理事長・学長

(行政)

新木 一弘 文部科学省高等教育局医学教育課長

計7名

(○：委員長)

平成22年11月1日現在

「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会」委員名簿

※敬称略、五十音順

(医学教育)

- |         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 梶井 英治   | 自治医科大学地域医療学センター長               |
| 北村 聖    | 東京大学医学教育国際協力研究センター教授           |
| 黒岩 義之   | 全国医学部長病院長会議会長、横浜市立大学医学部長       |
| 名川 弘一   | 独立行政法人労働者健康福祉機構理事長、東京大学客員教授    |
| 奈良 信雄   | 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長・教授    |
| 伴 信太郎   | 日本医学教育学会会長、名古屋大学医学部附属病院総合診療科教授 |
| ○ 福田康一郎 | 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長       |
| 三上 裕司   | 日本医師会常任理事                      |
| 光山 正雄   | 京都大学大学院医学研究科教授                 |

(歯学教育)

- |         |                           |
|---------|---------------------------|
| 荒木 孝二   | 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター教授 |
| ○ 江藤 一洋 | 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長  |
| 嶋田 昌彦   | 東京医科歯科大学教授・歯学部附属病院長       |
| 関本 恒夫   | 日本歯科大学新潟生命歯学部教授・新潟病院長     |
| 西原 達次   | 九州歯科大学歯学部長                |
| 俣木 志朗   | 日本歯科医学教育学会理事長、東京医科歯科大学教授  |
| 宮村 一弘   | 日本歯科医師会副会長、愛知県歯科医師会会長     |

(共通)

- |       |                           |
|-------|---------------------------|
| 辻本 好子 | NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長 |
| 邊見 公雄 | 日本病院団体協議会議長、全国自治体病院協議会会長  |
| 前野 一雄 | 読売新聞東京本社編集委員              |

計19名

(ゲストスピーカー)

- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 井部 俊子 | 聖路加看護大学学長、社団法人日本看護協会副会長 |
| 花井 十伍 | 全国薬害被害者団体連絡協議会世話人代表     |
| 堀内 龍也 | 社団法人日本病院薬剤師会会長          |

(オブザーバー)

- |       |                |
|-------|----------------|
| 村田 善則 | 厚生労働省医政局医事課長   |
| 上條 英之 | 厚生労働省医政局歯科保健課長 |

(○：委員長)

平成22年10月1日現在

モデル・コア・カリキュラム改訂等に関する「調査研究チーム」委員名簿

(※委託先(大学)に設置)

※敬称略、五十音順

(医学教育) (※委託先(東京大学)に設置)

井上 玄	千葉大学大学院医学研究院助教	
大滝 純司	東京医科大学教授	
北村 聖	東京大学医学教育国際協力研究センター教授	
鯉淵 典之	群馬大学大学院医学系研究科教授	
後藤 英司	横浜市立大学大学院医学研究科教授	
小林 直人	愛媛大学大学院医学系研究科教授	
嶋森 好子	社団法人東京都看護協会会長	
田中雄二郎	東京医科歯科大学附属病院総合診療部部長・教授	
○ 名川 弘一	独立行政法人労働者健康福祉機構理事長、東京大学客員教授	
奈良 信雄	東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長・教授	
錦織 宏	東京大学医学教育国際協力研究センター講師	
平出 敦	近畿大学医学部附属病院救急診療部部長・教授	
古屋 彩夏	JR東京総合病院小児科医長	計13名
〈協力者〉		
田邊 政裕	千葉大学医学部総合医療教育研修センター教授	
石田 達樹	社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構事業部長	

(歯学教育) (※再委託先(東京医科歯科大学)に設置)

○ 荒木 孝二	東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター教授	
大原 里子	東京医科歯科大学歯学部講師	
河田 英司	東京歯科大学教授	
嶋田 昌彦	東京医科歯科大学歯学部附属病院長・教授	
中嶋 正博	大阪歯科大学准教授	
俣木 志朗	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授	
桃井 保子	鶴見大学歯学部教授	
矢谷 博文	大阪大学大学院歯学研究科教授	計8名

(○:リーダー)

平成22年10月1日現在

歯学教育モデル・コア・カリキュラムの  
改訂に向けて（中間とりまとめ案）

平成 23 年 1 月

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

## 目 次

1. 歯科医師として必要な臨床能力の確保	
(1) 「歯科医師として求められる基本的な資質」について	2
(2) シミュレーターやスキルスラボ、模型実習、相互実習等の活用について	3
(3) 臨床実習の充実について	4
2. 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施	
(1) 「歯科医師として求められる基本的な資質」について	13
(2) 高齢化への対応について	14
(3) 疾病構造の変化への対応について	15
3. 未来の歯科医療を拓く研究者の養成	
(1) 「歯科医師として求められる基本的な資質」について	29
(2) 研究マインドの涵養について	29
4. その他	
(1) 様々な社会的ニーズへの対応	33
(2) モデル・コア・カリキュラムの利便性向上等に係る対応	34
別紙：「歯科医師として求められる基本的な資質」について（全体版）	44
参考1：これまでの検討経過等について	45
参考2：今回のモデル・コア・カリキュラム改訂に係る基本方針	47
参考3：委員名簿等について	48

## 1. 歯科医師として必要な臨床能力の確保

### (改訂趣旨)

歯学教育における臨床実習については、実施時間数の減少、診療参加型の減少等、臨床能力の低下を招く変化が生じており、取組に係る大学間格差も大きくなる中、診療参加型の推進を始めとする臨床実習の充実が求められている。

また、診療参加型臨床実習の前提となる診療技能の向上について、診療実習開始前のシミュレーターやスキルスラボ、模型実習、相互実習等の充実が求められている。

このような中、歯科医師として必要な臨床能力の確保に資するよう、必要な改訂を行う。

### (改訂方針)

歯科医師として必要な診療能力の確保を目指して、各大学における主体的で実効性ある教育が展開されるよう、「歯科医師として求められる基本的な資質」の記載内容を修正するとともに、臨床研修との一貫性にも留意し、臨床実習終了時（卒業時）までに到達すべき知識・技能・態度に関する目標を明確にする。

具体的には、現行の歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて、臨床実習については、冒頭の「はじめに」に一般目標、到達目標が包括的に記載され、また、「はじめに」の別表として、臨床実習の内容が本体の最後に記載されており、モデル・コア・カリキュラム全体の中での臨床実習の位置付けがやや不明確になっている。

このため、モデル・コア・カリキュラム本体中に臨床実習の項目を新たに設け、別表に記載の主な内容ごとに一般目標、到達目標を明記するとともに、別表の内容についても改善を図り、臨床実習を通じて習得すべき臨床能力の明確化を図る。併せて、診療実習開始前のシミュレーターやスキルスラボ、模型実習、相互実習等の活用に係る記載を充実する。

### (具体的な改訂内容)

#### (1) 「歯科医師として求められる基本的な資質」について

- 現行の「歯科医師として求められる基本的な資質」の③、④、⑤、⑥について、上記「改訂趣旨」を踏まえ、診療情報の守秘や医療の安全性確保の観点にも留意し、全体的視点から重要性を強調するため、以下のとおり改訂する。

現行	改訂案
歯科医師として求められる基本的な資質 ③ 歯科医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践的能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的診療能力）を有する。	歯科医師として求められる基本的な資質 ③ 歯科医師として、患者の口腔のみならず、全身的、精神的、社会的状況に対応するための実践的能力（統合された知識、技能、態度に基づく総合的診療能力）を具有する。

<p>④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームの一員としての行動や後輩等に対する指導を適切に行える。</p> <p>⑤ 患者及びその家族の秘密を守る。</p> <p>⑥ 歯科医師として、地域における医療・保健・福祉などの連携および医療の経済的側面などの医療を巡る動向に関心・理解を有する。</p>	<p>④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームのメンバーを相互に尊重し、その一員としての適切な行動をとり、後輩等に対する指導を行える。</p> <p>⑤ 診療上知り得た患者及びその家族の情報を守秘し、医療の安全性を確保する。</p> <p>⑥ 歯科医師として、地域における保健・医療・福祉・介護等の現状と問題点を把握し、その連携強化等の改善・充実に貢献するとともに常に医療の経済的側面等を巡る動向を理解する。</p>
---	---

## (2) シミュレーターやスキルスラボ、模型実習、相互実習等の活用について

- 上記「改訂方針」を踏まえ、関連記載の充実を図るため、以下のとおり改訂する。

現行	改訂案
<p>はじめに</p> <p>3 歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおける臨床実習の位置付け（臨床実習内容ガイドライン）</p> <p>(4) シミュレーション教育</p> <p>シミュレーション教育は基本的に臨床実習の開始前に体験すべき模型実習であり、これをもって患者実習の代替とすることはできない。しかし、シミュレーション教育の評価を、臨床実習を行うためのバリエーション試験とすること、あるいは臨床実習の期間中にも一定の臨床レベル以上に到達させるためには、適宜シミュレーションの技法を併用して教育を行うことが極めて効果的である。なお臨床予備教育の期間中に模擬患者による訓練を行うことは非常に有効と考えられる。</p>	<p>はじめに</p> <p>3 歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおける臨床実習の位置付け（臨床実習内容ガイドライン）</p> <p>(4) シミュレーション教育</p> <p>診療参加型臨床実習の前提となる、基本的診療能力の確保には、診療実習開始前のシミュレーターやスキルスラボ、模型実習、相互実習等の活用が有効であると考えられる。しかしながら、シミュレーション教育は基本的に臨床実習の開始前に体験すべき模型実習であり、これをもって患者実習の代替とすることはできない。しかし、シミュレーション教育の評価を、臨床実習を行うためのバリエーション試験とすること、あるいは臨床実習の期間中にも一定の臨床レベル以上に到達させるためには、適宜シミュレーションの技法を併用して教育を行うことが極めて効果的である。なお、臨床予備教育の期間中に模擬患者による訓練を行うことは非常に有効と考えられる。</p>

### (3) 臨床実習の充実について

- 新たに「臨床実習」の項目を設け、以下のとおり、臨床実習内容ごとに一般目標、到達目標を明記するとともに、臨床実習内容（別表）についても改善する。
- なお、今般の改訂に伴う関連領域（「A 医の原則」と「B 歯科医師としての基本的な態度」）の統合（39ページ参照）に伴い、「臨床実習」の項目は新たにFとする。

#### ※「臨床実習」の改訂案について

（現行の臨床実習に係る一般目標、到達目標については、12ページ参照）

#### <診療の基本>

改訂案
F 臨床実習
F-1 診療の基本
一般目標： 良好な患者-歯科医師関係を築くとともに、患者の情報を聴取し、診断をして治療計画を立てるための知識、技能および態度を修得する。
F-1-1) 医療面接
到達目標： ①適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で患者に接することができる。 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 ③患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる ④患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。 ⑤患者の不安、不満や表情、行動の変化に適切に対応できる。 ⑥診療録に得られた情報をPOMR形式で記載できる。 ⑦患者のプライバシーに配慮できる。 ⑧患者に診断結果と治療方針を説明できる。

#### <診察の基本>

改訂案
F-2 診察の基本
一般目標： 口腔・顎顔面領域の基本的な診察技能についての知識、技能および態度を修得する。
F-2-1) 口腔内状態の診察
到達目標： ①口腔内の状態を診察できる。 ②診察した口腔内状態を診療録に記載できる。
F-2-2) バイタルサイン
到達目標： ①触診法および聴診法で血圧を測定できる。



②橈骨動脈で脈拍を測定できる。

③体温の測定ができる。

#### F-2-3) 頭頸部の診察

到達目標：

①顔面の色調変化の診察ができる。

②顔面の対称性の診察ができる。

③下顎の開閉口路の診察ができる。

④顎関節部の診察ができる。

⑤頭頸部の筋肉の診察ができる。

⑥顎下リンパ節の診察ができる

### <画像検査>

改訂案

#### F-3 画像検査

一般目標：

診断に必要な画像検査の選択ができ、放射線の人体に対する影響と放射線防護について理解し、実践できる。

到達目標：

①放射線検査の必要性について説明できる。

②口内法エックス線撮影（デンタル撮影法）が実施できる。

### <医療安全・感染予防> ※臨床実習の各項目に共通である。

改訂案

#### F-4 医療安全・感染予防

一般目標：

歯科診療を実施するために必要な医療安全・感染予防に対する知識、技能および態度を修得する。

到達目標：

①医療安全対策を実践できる。

②標準予防策（standard precautions）を実践できる。

③清潔に配慮した操作ができる。

④針刺し事故に対する対応ができる。

### <地域医療>

改訂案

#### F-5 地域医療

一般目標：

歯科診療を適切に行うために、地域医療、病診連携についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標：

- ①病診連携、病病連携を体験し、理解する。
- ②多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士など）のチーム医療を理解し、体験する。
- ③地域医療を体験する。

### <口腔外科系実習>

改訂案

F-6 口腔外科系実習

一般目標：

口腔外科の基本的な手技についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標：

- ①清潔操作を実施できる。
- ②抜歯（小手術を含む）の器材の準備ができる。
- ③外来手術のための手洗いと滅菌手袋の装着ができる。
- ④術野の消毒を實踐できる。
- ⑤浸潤麻酔を安全に実施できる。
- ⑥単純抜歯を実施できる。
- ⑦基本的な縫合操作、抜糸を実施できる。

### <保存系実習>

改訂案

F-7 保存系実習

F-7-1) 修復実習

一般目標：

う蝕による硬組織疾患の治療のため、コンポジットレジン修復についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標：

- ①形成部位に応じて適切なう蝕除去用のバーの選択ができる。
- ②適切なハンドピース操作ができる。
- ③コンポジットレジン充填のための適切なレジン窩洞形成ができる。
- ④光重合型コンポジットレジン填塞が適切にできる。
- ⑤歯髄保護に配慮できる。
- ⑥浸潤麻酔や伝達麻酔により無痛的な操作ができる。

F-7-2) 歯内療法実習

一般目標：

根尖性歯周組織疾患の治療のために、感染根管治療についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標：

- ①根尖性歯周組織疾患の診察、検査、診断が正しくできる。
- ②適切なアクセスキャビティプレパレーションができる。
- ③電氣的根管長測定が正しくできる。
- ④根管拡大、根管洗浄が適切にできる。
- ⑤根管貼薬が正しくできる。
- ⑥根管充填が適切にできる。

F-7-3) 歯周病実習

一般目標：

歯周疾患の治療のために、歯周基本治療についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標：

- ①歯周組織疾患の診察、検査、診断が正しくできる。
- ②診断に基づいて適切な治療計画が立案できる。
- ③正しくプラークコントロールが行える。
- ④適切なスクレーピング・ルートプレーニングが行える。
- ⑤歯周治療時の生活上の注意事項を患者に伝えることができる。

<補綴系実習>

改訂案

F-8 補綴系実習

F-8-1) 印象採得

一般目標：

研究用模型あるいは作業用模型を作製するために、各種印象材による印象採得の知識、技能および態度を修得する。

到達目標：

- ①印象採得に必要な器材を準備できる。
- ②歯肉圧排を適切に行うことができる。
- ③印象材の手練和を適切に行うことができる。
- ④適切な印象採得ができる。
- ⑤採得した印象の良否を判定できる。

F-8-2) 支台歯形成

一般目標：

クラウンブリッジによる補綴歯科治療を行うために、支台歯形成についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標：

- ①形成部位に応じて適切な支台歯形成用のバーの選択ができる。
- ②適切なハンドピース操作ができる。
- ③装着予定の歯冠補綴装置に応じて適切な支台歯形成ができる。
- ④歯髄保護に配慮できる。
- ⑤浸潤麻酔や伝達麻酔により無痛的な操作ができる。

F-8-3) テンポラリークラウン (ブリッジ) 作製

一般目標:

クラウンブリッジによる補綴歯科治療を行うために、テンポラリークラウン (ブリッジ) 作製についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標:

- ①適切な既製樹脂冠の選択と試適ができる。
- ②即時重合レジン of 操作が適切にできる。
- ③支台歯への適合の良いテンポラリークラウン (ブリッジ) を作製できる。
- ④完成したテンポラリークラウン (ブリッジ) を支台歯に適切に仮着できる。
- ⑤テンポラリークラウン (ブリッジ) 使用時の生活上の注意事項を患者に伝えることができる。

F-8-4) 欠損補綴治療の説明

一般目標:

歯の欠損による咀嚼障害の機能回復のために、補綴歯科治療の説明に必要な知識、技能および態度を修得する。

到達目標:

- ①説明の開始にあたって、環境を整えることができる。
- ②様々な媒体を用いて説明できる。
- ③丁寧な言葉づかいで患者の理解度を確認しながら説明できる。
- ④補綴歯科治療の必要性を説明できる。
- ⑤各種補綴装置の構造について説明できる。
- ⑥各種の欠損補綴治療法について、それぞれの長所と短所を説明できる。

<小児歯科実習>

改訂案

F-9 小児歯科実習

F-9-1) フッ化物塗布

一般目標

安全なう蝕予防を行うために、フッ化物塗布に必要な基本的知識、技能および態度を修得する。

到達目標

- ①歯面清掃、歯面乾燥ができる。
- ②簡易防湿ができる。
- ③指定された歯にフッ化物が塗布できる。
- ④清潔に配慮した操作ができる。
- ⑤患児の不快感に配慮した操作、声かけができる。

F-9-2) 予防填塞

一般目標

幼若永久歯小窩裂溝部のう蝕予防のために、予防填塞に必要な基本的知識、技能および態度を修得する。

到達目標

- ①歯面、小窩裂溝部の清掃、乾燥ができる。
- ②適切な歯面処理操作ができる。
- ③予防填塞材を適切に填塞できる。
- ④患児の痛みや不安感に配慮した操作ができる。
- ⑤患児の不安感軽減のための声かけができる。

F-9-3) 保護者へのブラッシング指導

一般目標

小児のプラークコントロールを行うために、保護者へのブラッシング指導に必要な基本的知識、技能および態度を修得する。

到達目標

- ①わかりやすい言葉使いと聴き取りやすい話し方ができる。
- ②保護者の理解度を確認しながら指導できる。
- ③仕上げ磨きの方法を指導できる。
- ④保護者に練習させながら指導できる。

<矯正歯科実習>

改訂案

F-10 矯正歯科実習

F-10-1) 矯正装置の説明

一般目標

矯正治療に際し、使用する矯正装置について患者の保護者に分かりやすく説明するため必要な基本的知識、技能および態度を修得する。

到達目標

- ①矯正治療の必要性を説明できる。
- ②矯正装置について説明できる。
- ③様々な媒体を用いて説明できる。
- ④保護者の理解度を確認しながら説明できる。
- ⑤わかりやすい言葉使いと聴き取りやすい話し方ができる。

<臨床実習の内容>

水準 1	水準 2	水準 3	水準 4
指導者の指導・監視のもとに実施が許容される歯科医療行為	状況によって指導者の指導・監視のもとに実施が許容される歯科医療行為	原則として指導者の歯科医療行為の介助にとどめるもの	原則として指導者の歯科医療行為の見学にとどめるもの
1. 診察・診断・治療計画			
<p>[基本的診察]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療面接</li> <li>口腔、顎、顔面の診察</li> <li>触診</li> <li>打診</li> <li>動揺度検査</li> <li>温度診</li> <li>咬合状態の診査察</li> </ul> <p>・血圧・脈拍・呼吸・体温の測定</p> <p>・口腔・顎・顔面の写真撮影</p> <p>・エックス線検査 口内法</p> <p>・診査用模型の作製</p> <p>・電気診</p> <p>・透照診</p> <p>・インビーズダンス測定検査</p> <p>・根管内細菌培養検査</p> <p>・根管長測定検査</p> <p>・歯周ポケット測定</p> <p>・ブラーク指数測定</p> <p>・歯石指数測定</p> <p>・出血指数測定</p> <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>診断 (簡単なもの)</li> <li>診療計画 (簡単なもの)</li> </ul>	<p>[基本的診察]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聴診 (顎関節)</li> <li>化学診</li> <li>塗抹検査</li> <li>切削による検査</li> <li>唾液分泌能検査</li> <li>咀嚼能率検査</li> <li>う蝕活動性検査</li> </ul> <p>・エックス線検査 パノラマエックス線撮影法</p> <p>・歯周ポケット滲出液の検査</p> <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採血、穿刺</li> </ul>	<p>[基本的診察]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>血液検査</li> <li>免疫学的検査</li> <li>一般細菌検査</li> <li>細胞診検査</li> <li>生化学検査</li> <li>顎口腔機能検査</li> <li>心電図検査</li> <li>呼吸機能検査</li> <li>口臭検査</li> <li>心理学的検査</li> </ul> <p>・エックス線検査 口外法</p> <p>・根管内視鏡検査</p> <p>・実体顕微鏡による検査</p> <p>・歯周ポケット内細菌検査</p> <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>診断 (複雑なもの)</li> <li>診療計画 (複雑なもの)</li> </ul>	<p>[基本的診察]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病理組織学的検査</li> <li>止血機能検査</li> <li>金属アレルギー検査</li> <li>MRI 検査</li> <li>超音波検査</li> <li>末梢神経機能検査</li> <li>核医学検査 (シンチグラム等)</li> <li>嚥下機能検査</li> </ul> <p>・エックス線検査 頭部規格撮影法、造影撮影法、断層撮影法、CT撮影法</p>
2. 治療・術式			
<p>[一般的事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者への病状の説明 (簡単なもの)</li> <li>インフォームドコンセント (簡単なもの)</li> <li>診療録の作成</li> <li>処方箋の作成</li> </ul> <p>・局所麻酔 表面麻酔、浸潤麻酔</p> <p>[歯・歯周疾患の治療]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>窩洞形成 (単純、複雑)</li> <li>レジン充填</li> <li>ガラスイオノマー充填</li> <li>メタルインレー修復 (単純)</li> </ul> <p>・ラバーダム防湿</p> <p>・仮封</p> <p>・象牙質知覚過敏処置</p> <p>・覆髄法 直接覆髄法、間接覆髄法</p> <p>・抜髄法 (簡単なもの)</p> <p>・感染根管治療 (簡単なもの)</p> <p>・根管充填法 (簡単なもの)</p> <p>・歯周基本治療 ブラークコントロール指導 スクレーピング ルートプレーニング 習癖に対する習慣矯正 固定 (簡単な暫間固定)</p> <p>・手術後処置 (抜糸、洗浄)</p> <p>・メンテナンス</p>	<p>[一般的事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検査指示書の作成</li> <li>歯科技工指示書の作成</li> <li>医療情報提供書の作成</li> </ul> <p>・局所麻酔 伝達麻酔</p> <p>[歯・歯周疾患の治療]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アマルガム充填</li> <li>メタルインレー修復 (複雑)</li> </ul> <p>・IPC</p> <p>・イオン導入</p> <p>・歯髄鎮痛消炎療法</p> <p>・断髄法</p> <p>・抜髄法 (複雑なもの)</p> <p>・感染根管治療 (複雑なもの)</p> <p>・根管充填法 (複雑なもの)</p> <p>・アペキシフィケーション</p> <p>・歯周基本治療 咬合調整 (少数歯)</p> <p>・歯周外科手術 マウススクリーンの作製 ナイトガードの作製</p> <p>・固定 (複雑な暫間固定)</p> <p>・歯周外科手術 歯肉切除術、歯肉整形術 歯周ポケット搔爬術</p>	<p>[一般的事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者への病状の説明 (複雑なもの)</li> <li>インフォームドコンセント (複雑なもの)</li> <li>診断書の作成</li> </ul> <p>[歯・歯周疾患の治療]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レーザー、エア・アブレイシブおよび化学機械的な方法によるう蝕除去</li> <li>セラミックインレー修復</li> <li>レジニンレー修復</li> </ul> <p>・外科的歯内療法 外科的排膿路の確保 ヘミセクション</p> <p>・外傷歯の処置</p> <p>・歯の漂白、変色歯の処置</p> <p>・歯内一歯周病変の処置</p> <p>・歯周基本治療 咬合調整 (多数歯)</p> <p>・歯周外科手術 新付着術、フラップ手術 歯肉歯槽粘膜形成術 遊離歯肉移植術 歯根分離術、歯根切除術 トンネル形成術</p> <p>・局所薬物配送システムの応用</p>	<p>[一般的事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者または家族への説明</li> <li>死亡診断書の作成</li> </ul> <p>[歯・歯周疾患の治療]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CAD/CAM による修復物作製</li> </ul> <p>・外科的歯内療法 根尖搔爬、歯根尖切除、 逆根管充填、歯根切除、 再植、歯内骨内インプラント</p> <p>・固定 (永久固定)</p> <p>・歯周外科手術 歯槽骨切除術、骨移植術 フラップ手術 (複雑なもの)</p> <p>・歯周組織誘導再生法 (GTR)</p>

<p>[歯の欠損・咀嚼障害]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯冠修復処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>支台歯形成・修復処置（簡単なもの）</li> </ul> </li> <li>・固定性欠損補綴処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>平行関係に問題の少ない橋義歯の支台歯形成と補綴処置</li> </ul> </li> <li>・可撤性欠損補綴処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>部分床義歯による簡単な欠損補綴症例</li> <li>全部床義歯による簡単な欠損補綴症例</li> </ul> </li> </ul>	<p>[歯の欠損・咀嚼障害]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯冠形態修正</li> <li>・簡単な補綴物破損の修理・調整</li> <li>・スプリント作製</li> </ul>	<p>[歯の欠損・咀嚼障害]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な補綴物破損の修理・調整</li> <li>・咬合調整</li> <li>・固定性欠損補綴処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>困難な冠橋義歯の支台歯形成と補綴操作</li> </ul> </li> <li>・可撤性欠損補綴処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>困難な欠損補綴症例</li> </ul> </li> <li>・顎口腔機能の診断と治療計画の立案</li> </ul>	<p>[歯の欠損・咀嚼障害]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顎関節症の治療</li> <li>・インプラント義歯の作製</li> <li>・固定性欠損補綴処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>可撤性支台装置による複雑な欠損補綴処置</li> </ul> </li> <li>・可撤性顎欠損補綴処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>顎顔面補綴治療症例</li> </ul> </li> </ul>
<p>[口腔・顎・顔面領域の疾患]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抜歯 <ul style="list-style-type: none"> <li>永久歯（簡単なもの）</li> </ul> </li> <li>・口腔内消炎手術 <ul style="list-style-type: none"> <li>小膿瘍切開</li> </ul> </li> </ul>	<p>[口腔・顎・顔面領域の疾患]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抜歯 <ul style="list-style-type: none"> <li>乳歯（簡単なもの）</li> </ul> </li> <li>・口腔内消炎手術 <ul style="list-style-type: none"> <li>歯肉弁切除</li> </ul> </li> <li>・歯肉息肉除去手術</li> <li>・頬口唇舌小帯整形手術</li> <li>・歯槽骨整形手術</li> <li>・口腔内縫合処置</li> </ul>	<p>[口腔・顎・顔面領域の疾患]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抜歯 <ul style="list-style-type: none"> <li>永久歯・乳歯（困難なもの）</li> </ul> </li> <li>・口腔内消炎手術 <ul style="list-style-type: none"> <li>顎骨骨膜炎</li> </ul> </li> <li>・口腔外消炎手術</li> <li>・抜歯窩再搔爬術</li> <li>・腐骨除去手術</li> <li>・歯根嚢胞摘出術</li> <li>・骨折の非観血的整復術</li> <li>・顎関節脱臼の非観血的整復術</li> </ul>	<p>[口腔・顎・顔面領域の疾患]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抜歯 <ul style="list-style-type: none"> <li>埋伏歯</li> </ul> </li> <li>・口腔内消炎手術 <ul style="list-style-type: none"> <li>骨髄炎</li> </ul> </li> <li>・歯の移植と再植</li> <li>・顎骨腫瘍摘出術</li> <li>・顎堤形成術</li> <li>・骨折の観血的整復術</li> <li>・インプラント</li> </ul>
<p>[口腔保健]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔保健指導</li> <li>・う蝕の予防 <ul style="list-style-type: none"> <li>フッ化物塗布</li> </ul> </li> <li>・歯周病の予防 <ul style="list-style-type: none"> <li>口腔清掃</li> </ul> </li> </ul>	<p>[口腔保健]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・う蝕の予防 <ul style="list-style-type: none"> <li>予防填塞</li> <li>生活指導（摂食指導等）</li> </ul> </li> <li>・歯周病の予防</li> <li>・口腔の健康の維持管理に関する指導</li> </ul>	<p>[口腔保健]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団に対する歯科健診 <ul style="list-style-type: none"> <li>フッ化物洗口法</li> </ul> </li> </ul>	<p>[口腔保健]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団に対する歯科保健指導</li> <li>・保護者または家族に対する生活指導</li> </ul>
<p>[全身管理]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサインの把握</li> <li>・ショックの救急処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>気道確保、人工呼吸</li> </ul> </li> <li>・胸骨圧迫</li> <li>・誤嚥に対する処置</li> </ul>	<p>[全身管理]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過換気症候群に対する処置</li> </ul>	<p>[全身管理]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者の処置と手術</li> <li>・入院患者の管理</li> <li>・全身疾患を有する患者の歯科治療</li> <li>・感染事故に対する処置</li> <li>・精神鎮静法 <ul style="list-style-type: none"> <li>吸入鎮静法、静脈内鎮静法</li> </ul> </li> </ul>	<p>[全身管理]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全身感染症を有する患者の歯科治療</li> <li>・全身麻酔</li> </ul>
<p>[成長発達・不正咬合]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模型および顎態分析</li> <li>・成長発育期の口腔・顎顔面の診査</li> <li>・診断、治療方針の立案、保健指導</li> <li>・定期健診時の診察と検査</li> </ul>	<p>[成長発達・不正咬合]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・矯正治療計画の立案</li> <li>・矯正装置の作製</li> </ul>	<p>[成長発達・不正咬合]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・咬合誘導</li> <li>・小児の重症う蝕の治療</li> <li>・保険装置の作製</li> <li>・抑制矯正治療</li> <li>・矯正装置の操作</li> </ul>	<p>[成長発達・不正咬合]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括的矯正治療</li> </ul>
<p>[心因性疾患]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人関係能力・患者対応能力の訓練 <ul style="list-style-type: none"> <li>医療面接</li> <li>チームマネージメントの理解</li> </ul> </li> </ul>	<p>[心因性疾患]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受診者の心理的背景の理解と把握</li> <li>・患者の社会的・環境的背景の理解と把握</li> </ul>	<p>[心因性疾患]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心因性疾患を有する患者への対応</li> </ul>	<p>[心因性疾患]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心因性疾患を有する患者の管理</li> </ul>
<p>[高齢者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内状態の診察</li> <li>・ホームケア指導</li> <li>・口腔保健指導</li> </ul>	<p>[高齢者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔疾患予防処置</li> </ul>	<p>[高齢者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の歯科治療</li> </ul>	<p>[高齢者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護者に対する歯科治療</li> </ul>
<p>[障害者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内状態の診察</li> <li>・ホームケア指導</li> <li>・口腔保健指導</li> </ul>	<p>[障害者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔疾患予防処置</li> </ul>	<p>[障害者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の歯科治療</li> </ul>	

## ※ 現行のモデル・コア・カリキュラムにおける「臨床実習」に係る一般目標、到達目標

### <一般目標>

臨床実習の一般目標は、歯科疾患を抱える患者を全人的・全身的に捉える態度を養い、卒業後臨床研修を行うために必要な基本的歯科診療能力を修得するとともに、口腔保健増進の重要性を深く認識することに主眼を置くこととする。

- ① 歯科医療と口腔保健増進の意義と重要性を理解する。
- ② 患者とその家族、医師、歯科医師並びにコ・デンタルスタッフ（歯科衛生士、歯科技工士、看護婦等）とのコミュニケーションの基本を身につける。
- ③ 一般歯科診療の基本的原理を理解し、基本的臨床能力を修得する。
- ④ 歯科の主要疾患と主要症候について、診療の進め方の基本を理解する。
- ⑤ 高度の専門的な診療を要する歯科疾患について、その診療の進め方、専門診療機関・施設への相談・紹介の適応と時期等についての基本を身につける。
- ⑥ 患者の生命にかかわったり、重篤な後遺症をきたす恐れのある歯科疾患について、症状の早期発見と初期対応の基本を学ぶ。
- ⑦ 自己の診療能力の限界を知り、常に万全を期すために他の専門の歯科医師（医師）等に相談する態度・習慣を身につける。
- ⑧ 歯科診療に関する問題を発見して自ら解決する態度を培う。
- ⑨ 卒業後臨床研修を遅滞なく開始できるだけの基本的知識と技能を身につける。

### <到達目標>

- ① 患者を全人的・全身的に捉え、患者中心の立場から適切な診断と診療計画を立案できる。
- ② 患者の社会的・心理的背景を考慮しつつ、正確かつ必要十分な医療面接ができる。
- ③ 的確な診察・検査で得られた所見を整理して診療記録に正しく記載できる。
- ④ 歯科診療に係わる基本的な診察・検査を行うことができる。
- ⑤ 診療記録に記載されている検査所見を理解し、その意味を説明できる。
- ⑥ 臨床経過等の記録から、その意味を理解し、説明できる。
- ⑦ 画像検査、機能系検査、血液検査、生化学検査、微生物学検査等に関する基礎的事項とその限界について説明し、所見を解釈し、診断を行うことができる。
- ⑧ 指導医の直接の指導・監督のもとに、歯科疾患の基本的な予防処置、口腔保健指導及び健康相談を行うことができる。
- ⑨ 指導医の直接の指導・監督の下、主要歯科疾患の基本的診療を行うことができる。
- ⑩ 指導医の直接の指導・監督の下、蘇生法を含め、診療時における救急処置を行うことができる。
- ⑪ 歯科診療における術前・術中・術後の管理及び小児・成人・高齢者の全身管理の基本を述べる事ができる。



## 2. 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施

### (改訂趣旨)

国民の期待に応える優れた歯科医師の養成に向けて、高齢化の更なる進行、疾病構造の変化など、歯学教育を取り巻く環境変化を見据えた特色ある体系的な教育の実施に資するよう、必要な改訂を行う。

### (改訂方針)

歯学教育を取り巻く環境が大きく変化する中、安全で良質な歯科医療を提供するためには、口腔と全身の関わりや高齢者、全身疾患を有する者等への対応、予防歯学、社会歯学など、医学・医療との連携を含めた幅広い歯学教育が必要である。

このような教育の実施に資するよう、「歯科医師として求められる基本的な資質」の記載内容を修正するとともに、関連項目に係る記載内容の改善・充実を図る。

### (具体的な改訂内容)

#### (1) 「歯科医師として求められる基本的な資質」について

- 現行の「歯科医師として求められる基本的な資質」の①、③、④、⑥について、上記「改訂趣旨」を踏まえ、以下のとおり改訂する。

現行	改訂案
歯科医師として求められる基本的な資質	歯科医師として求められる基本的な資質
① 人の口腔健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科医師の職責への十分な自覚のもとに、歯科医師の義務や医療倫理を遵守し、絶えず患者本位の立場に立つ。	① 人の口腔健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科医師の職責への十分な自覚のもとに、歯科医師の義務や医療倫理を遵守し、絶えず患者本位の立場に立ち、患者を全人的に診る。
③ 歯科医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践的能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的診療能力）を有する。	③ 歯科医師として、患者の口腔のみならず、全身的、精神的、社会的状況に対応するための実践的能力（統合された知識、技能、態度に基づく総合的診療能力）を具有する。
④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームの一員としての行動や後輩等に対する指導を適切に行える。	④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームのメンバーを相互に尊重し、その一員としての適切な行動をとり、後輩等に対する指導を行える。

<p>⑥ 歯科医師として、地域における医療・保健・福祉などの連携および医療の経済的側面などの医療を巡る動向に関心・理解を有する。</p>	<p>⑥ 歯科医師として、地域における保健・医療・福祉・介護等の現状と問題点を把握し、その連携強化等の改善・充実に貢献するとともに常に医療の経済的側面等を巡る動向を理解する。</p>
--	---

**(2) 高齢化への対応について**

- 今後増加が予想される全身疾患を有する者など、リスクの高い患者に対して、一層安全な歯科医療を提供することができるよう、歯学教育における医学教育の内容の充実を図るべく、「F 臨床歯学教育」において医学の項目を新設し、関連内容について記載の改善・充実を図る。
- なお、今般の改訂に伴う関連領域（「A 医の原則」と「B 歯科医師としての基本的な態度」）の統合（39ページ参照）に伴い、現行Fを新たにEとする。

現行	改訂案
<p>F 臨床歯学教育  F-4 歯科医療の展開  F-4-3) 高齢者の歯科治療  一般目標：(略)  到達目標：  *①～*③ (略)  (新設)  (新設)  *④ (略)  ⑤ (略)  *⑥ 要介護高齢者の歯科治療を説明できる。  (新設)  (新設)  *⑦ (略)</p>	<p>E 臨床歯学教育  E-4 歯科医療の展開  E-4-3) 高齢者の歯科治療  一般目標：(略)  到達目標：  *①～*③ (略)  *④ 高齢者における口腔ケア処置について説明できる。  *⑤ 口腔機能向上による介護予防について説明できる。  *⑥ (略)  ⑦ (略)  *⑧ 要介護高齢者（在宅要介護者も含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。  *⑨ 歯科訪問診療について説明できる。  *⑩ 摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。  *⑪ (略)</p>
<p>(新設)</p>	<p>E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識  一般目標：  歯科医師として必要な全身疾患(内科的疾患)を理解する。</p>

	<p>到達目標：</p> <p>*①代表的な医科疾患(内科的疾患)を説明できる。</p> <p>*②主要な医科疾患の症候が説明できる。</p> <p>*③主要な身体診察が説明できる。</p> <p>*④妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。</p> <p>*⑤小児の代表的な疾患を説明できる。</p>
--	--

**(3) 疾病構造の変化への対応について**

- 上記「改訂方針」を踏まえ、予防と健康管理（C-3）、歯科生体材料と歯科材料・器械（E-1、E-2）に係る記載内容の改善・充実を図る。
- 医学・医療との連携を含め、歯科疾患が全身に与える影響や、全身疾患が歯科疾患に与える影響に関連して、関連項目（F）の記載内容の改善・充実を図る。
- なお、今般の改訂に伴う関連領域（「A 医の原則」と「B 歯科医師としての基本的な態度」）の統合（39ページ参照）に伴い、現行Cを新たにBに、現行Eを新たにDに、現行Fを新たにEとする。

**<予防と健康管理>**

現行	改訂案
<p>C 社会と歯学</p> <p>C-3 予防と健康管理</p> <p>C-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理</p> <p>一般目標：(略)</p> <p>到達目標：</p> <p>*①～*④ (略)</p> <p>(新設)</p>	<p>B 社会と歯学</p> <p>B-3 予防と健康管理</p> <p>B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理</p> <p>一般目標：(略)</p> <p>到達目標：</p> <p>*①～*④ (略)</p> <p>*⑤口腔ケアの意義と効果を説明できる。</p>

**<歯科生体材料と歯科材料・器械>**

現行	改訂案
<p>E 歯科生体材料と歯科材料</p> <p>E-1 素材と所要性質</p> <p>一般目標：</p> <p>歯科材料に使用される素材の特性と用途に応じた所要性質を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <p>*①～*③ (略)</p>	<p>D 歯科生体材料と歯科材料・器械</p> <p>D-1 素材と器械・器具の所要性質</p> <p>一般目標：</p> <p>歯科材料に使用される素材と器械・器具の特性と用途に応じた所要性質を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <p>*①～*③ (略)</p>

<p>*④接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。</p> <p>E-2 成形法と成形用材料 一般目標：(略) 到達目標：</p> <p>*①印象材の種類と性質を説明できる。 【硬化の仕組みと使用方法を含む。】</p> <p>*②歯科用石膏の種類と特性を説明できる。 【硬化の仕組みと使用方法を含む。】</p> <p>*③ワックスの種類と特性を説明できる。</p> <p>*④レジンの重合、金属の鋳造・熱処理およびポーセレン焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 【歯科用レジン・金属・陶材の種類、用途および特性を含む。】</p> <p>*⑤切削・研磨用材料と使用機器の特徴を説明できる。</p>	<p>*④歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。</p> <p>D-2 成形法と成形用材料 一般目標：(略) 到達目標：</p> <p>*①修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。</p> <p>*②歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。</p> <p>*③印象材の種類と性質を説明できる。 【硬化の仕組みと使用方法を含む。】</p> <p>*④レジンの重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 【歯科用レジン・金属・セラミックスの種類、用途および特性を含む。】</p> <p>*⑤接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。</p>
--	--

※「臨床歯学教育」について

<1. 診療の基本>

【基本的診療技能】

現行	改訂案
<p>F 臨床歯学教育 F-1 診療の基本 F-1-1) 基本的診療技能 一般目標：(略) 到達目標：</p> <p>*① (略)</p> <p>*②歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。 【歯科治療時の対応を含む。】</p> <p>③ (略)</p> <p>④診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。</p>	<p>E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 一般目標：(略) 到達目標：</p> <p>*① (略)</p> <p>*②口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。 【歯科治療時の対応を含む。】</p> <p>③ (略)</p> <p>④診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。</p>

<p>⑤～*⑧ (略)</p> <p>*⑨問診、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。</p> <p>⑩～*⑪ (略)</p> <p>⑫的確な治療方針を立案し説明できる。</p> <p>*⑬～⑱ (略)</p>	<p><b>【患者監視装置(モニタ)を含む。】</b></p> <p>⑤～*⑧ (略)</p> <p>*⑨病歴聴取、視診、触診および打診等によって患者の現症を的確に捉えることができる。</p> <p>⑩～*⑪ (略)</p> <p>⑫基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。</p> <p>*⑬～⑱ (略)</p>
--	---

### 【画像検査】

現行	改訂案
<p>F-1-2) 画像検査</p> <p>到達目標：</p> <p>*⑨超音波装置、エックス線CT および磁気共鳴撮像装置を用いた検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	<p>E-1-2) 画像検査</p> <p>到達目標：</p> <p>*⑨造影検査法、超音波装置検査法、コンピュータ断層撮影法 (CT)、 および磁気共鳴画像撮影法 (MRI) および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>

### 【歯科麻酔の基本】

現行	改訂案
<p>F-1-3) 歯科麻酔の基本</p> <p>一般目標：一般的な歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <p>F-1-3) —(1)全身管理</p> <p>*②血圧を測定できる。</p> <p>*③脈拍の状態を把握できる。</p> <p>*④呼吸の状態を把握できる。</p> <p>*⑤歯科治療中の全身状態に影響を及ぼす疾患を説明できる。</p> <p><b>【歯科治療時の対応を含む。】</b></p> <p>*⑥歯科治療時に留意すべき服用薬物を説明できる。</p> <p><b>【歯科治療時の対応を含む。】</b></p>	<p>E-1-3) 歯科麻酔の基本</p> <p>一般目標：歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <p>E-1-3-(1)全身管理</p> <p>*②血圧を測定し、状況を把握できる。</p> <p>*③脈拍数を測定し、状況を把握できる。</p> <p>*④呼吸数を測定し、状況を把握できる。</p> <p>*⑤体温を測定し、状況を把握できる。</p> <p>*⑥歯科治療時に注意を要する全身疾患 (小児も含む) を説明できる。</p> <p><b>【歯科治療時の対応を含む。】</b></p> <p>*⑦患者の服用薬物と歯科治療の関連について説明できる。</p> <p><b>【歯科治療時の対応を含む。】</b></p>

<p>*⑦小児、妊婦および高齢者への薬物適用上の注意を説明できる。</p> <p>*⑧全身疾患を有する患者への薬物適用上の注意を説明できる。</p> <p>F-1-3-(2)精神鎮静法</p> <p>*①精神鎮静法の目的を説明できる。</p> <p>*②吸入鎮静法の適応と禁忌を説明できる。</p> <p>*③静脈内鎮静法の適応と禁忌を説明できる。</p> <p>*④精神鎮静法の種類を説明できる。</p> <p>F-1-3-(3)局所麻酔法</p> <p>*④血管収縮薬の種類と特徴を説明できる。</p> <p>F-1-3-(4)全身麻酔法</p> <p>*①全身麻酔の目的を説明できる。</p> <p>*②全身麻酔の適応と禁忌を説明できる。</p> <p>*③全身麻酔法の種類と特徴を説明できる。</p> <p>【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用を含む。】</p>	<p>*⑧小児、妊婦、授乳婦および高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p> <p>*⑨患者の全身状態評価を説明できる。</p> <p>E-1-3-(2)精神鎮静法</p> <p>*①精神鎮静法の特徴と目的および種類を説明できる。</p> <p>*②吸入鎮静法の適応と禁忌および使用薬物を説明できる。</p> <p>*③静脈内鎮静法の適応と禁忌および使用薬物を説明できる。</p> <p>*④精神鎮静法の周術期の管理を説明できる。</p> <p>E-1-3-(3)局所麻酔法</p> <p>*④血管収縮薬の使用目的と種類、特徴および臨床使用上の注意を説明できる。</p> <p>E-1-3-(4)全身麻酔法</p> <p>*①全身麻酔の目的と種類ならびに特徴を説明できる。</p> <p>【前投薬、筋弛緩薬および主な全身麻酔薬の基本的薬理作用および使用機器・器具を含む。】</p> <p>*②全身麻酔の適応と禁忌および合併症を説明できる。</p> <p>*③全身麻酔時の周術期の管理を説明できる。</p> <p>(削除)</p>
--	---

**【小手術の基本手技】**

現行	改訂案
<p>F-1-4) 小手術の基本手技</p> <p>一般目標： 小手術を適切に実施するために必要な基本的知識と技能を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>*③抜歯に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。</p>	<p>E-1-4) 小手術の基本手技</p> <p>一般目標： 小手術を適切に実施するために必要な基本的知識を理解する。</p> <p>到達目標：</p> <p>*③抜歯（小手術）に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。</p>

<p>【小手術を含む。】</p> <p>*⑥手指と術野の消毒について説明できる。</p> <p>【器具の滅菌と消毒を含む。】</p> <p>⑦簡単な抜歯ができる。</p> <p>⑧粘膜の切開、剥離ができる。</p> <p>⑨単純縫合、抜糸ができる。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>⑩埋伏智歯の抜歯法を説明できる。</p>	<p>(削除)</p> <p>*⑥手指と術野の消毒について説明できる。</p> <p>(削除)</p> <p>(削除) F-6)⑥に移動</p> <p>(削除)</p> <p>(削除) F-6)⑦に移動</p> <p>*⑦清潔と不潔の区別を説明できる。</p> <p>*⑧器具の滅菌、消毒について説明できる。</p> <p>⑨埋伏歯 (智歯を含む) の抜歯法を説明できる。</p>
--	--

### 【救急処置】

現行	改訂案
<p>F-1-5) 救急処置</p> <p>一般目標： 救急処置の基本を身につける。</p> <p>到達目標： (新設)</p> <p>*①意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。</p> <p>*②気道閉塞および気道確保法を説明できる</p> <p>*③呼気吹き込みによる人工呼吸を説明できる。</p> <p>*④非開胸心マッサージを説明できる。</p> <p>⑤呼気吹き込みによる人工呼吸が実施できる。</p> <p>⑥非開胸心マッサージが実施できる。</p> <p>*⑦救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。</p>	<p>E-1-5) 救急処置</p> <p>一般目標： 救急処置の基本を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>*①歯科治療時の全身偶発症を説明できる。</p> <p>*②意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。</p> <p>*③気道閉塞および気道確保法を説明できる (誤嚥・誤飲時の症状と対応も含む)。</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>*④呼気吹き込みによる人工呼吸が実施できる。</p> <p>*⑤胸骨圧迫と自動的体外式除細動器 (AED) の操作が実施できる。</p> <p>*⑥救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。</p>

### 【口腔保健】

現行	改訂案
<p>F-1-6) 口腔保健</p> <p>到達目標：</p> <p>F-1-6-(1) 予防処置 (略)</p>	<p>E-1-6) 口腔保健</p> <p>到達目標：</p> <p>E-1-6-(1) 予防処置 (略)</p>

F-1-6) - (2) 歯科保健指導 (新設)	E-1-6-(2) 歯科保健指導 ⑥禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔がん等の予防を実施できる。
-----------------------------	---

<2. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患>

【口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常】

現行	改訂案
<p>F-2 口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>F-2-3) 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常</p> <p>到達目標：</p> <p>*③口腔・頭蓋・顎顔面領域に症状をきたす主な先天異常を説明できる。</p> <p>【診断と治療方針を含む】</p> <p>*④口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。</p> <p>【診断と治療方針を含む。】</p> <p>*⑤口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。</p> <p>【歯の喪失に伴う変化を含む。】</p> <p>*⑥舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。</p>	<p>E-2 口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-3) 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常</p> <p>到達目標：</p> <p>(削除)</p> <p>*③口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。</p> <p>【歯の喪失に伴う変化を含む。】</p> <p>*④口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。</p> <p>(削除)</p> <p>*⑤舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。</p>

【口腔・顎顔面領域の疾患】

現行	改訂案
<p>F-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>【治療法については基本的な治療方針に限る。】</p> <p>到達目標：</p> <p>(新設)</p>	<p>E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>(削除)</p> <p>到達目標：</p> <p>E-2-4)-(1) 先天異常および後天異常</p> <p>*①口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。</p> <p>*②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。</p> <p>*③顎変形症を概説できる。</p>



F-2-4) -(1)外傷

- \*④歯の外傷の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。
- \*⑤歯槽骨骨折、上顎骨骨折および下顎骨骨折の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。

F-2-4) -(2)炎症とアレルギー

- \*①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。
- \*②～\*⑧ (略)
- \*⑨水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。
- ⑩～⑪ (略)
- (新設)
- (新設)
- (新設)

F-2-4) -(3)嚢胞、腫瘍および類似疾患

- \*⑧エナメル上皮腫の特徴、症状および治療法を概説できる。
- \*⑨前癌病変（白板症、紅板症）の特徴、症状および治療法を概説できる。
- \*⑩前癌状態の種類と特徴を列挙できる
- \*⑪口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を概説できる。
- \*⑫腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。
- \*⑬エプーリスの特徴、症状および治療法を概説できる。

F-2-4) -(4)顎関節疾患

- \*②顎関節疾患（外傷、脱臼、顎関節症、顎関節強直症）を概説できる。

F-2-4) -(5)唾液腺疾患

E-2-4) -(2)外傷

- \*④歯の外傷の症状、診断法および治療法を説明できる。
- \*⑤歯槽骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折および下顎骨骨折の症状、診断法および治療法を説明できる。

E-2-4) -(3)炎症とアレルギー

- (削除)
- \*①～\*⑦ (略)
- (削除)

⑧～⑨ (略)

E-2-4) -(4)口腔粘膜疾患

- \*①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。
- \*②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。

E-2-4) -(5)嚢胞腫瘍および類似疾患

- \*⑧腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。
- \*⑨エプーリスの特徴、症状および治療法を説明できる。
- \*⑩前癌病変（白板症、紅板症）の特徴、症状および治療法を説明できる。
- \*⑪前癌状態の種類と特徴を列挙できる。

- \*⑫口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。

- \*⑬口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。

E-2-4) -(6)顎関節疾患

- \*②顎関節疾患（外傷、脱臼、炎症、顎関節症、顎関節強直症）の症状、診断法および治療法を概説できる。

E-2-4) -(7)唾液腺疾患

<p>*①唾石症の特徴、症状および治療法を説明できる。 (新設)</p> <p>*②唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。</p> <p>*③流行性耳下腺炎の原因ウイルス、症状および治療を説明できる。</p> <p>*④Sjögren 症候群の特徴、症状および治療法を説明できる。</p> <p>*⑤小唾液腺疾患を概説できる。</p>	<p>*①唾石症の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。</p> <p>*②唾液腺炎の種類と特徴、症状、診断法および治療法を概説できる。</p> <p>*③唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。</p> <p>*④流行性耳下腺炎の特徴、症状、診断法および治療を説明できる。</p> <p>*⑤Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。 (削除)</p>
<p>F-2-4) - (6) 神経性疾患</p> <p>*①三叉神経痛の特徴、症状および治療法を説明できる。 (新設)</p> <p>*②顔面神経麻痺の特徴、症状および治療法を説明できる。 (新設)</p>	<p>E-2-4) - (8) 神経性疾患</p> <p>*①三叉神経痛の原因、症状および治療法を説明できる。</p> <p>*②口腔・顔面痛について概説できる。</p> <p>*③顔面神経麻痺の原因、症状および治療法を説明できる。</p> <p>*④三叉神経麻痺の原因、症状および治療法を説明できる。</p>
<p>F-2-4) - (7) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患</p> <p>*⑪口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。</p> <p>*⑫顎変形症を概説できる。</p>	<p>E-2-4) - (9) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 (削除)</p> <p>(削除)</p>
<p>F-2-4) - (8) 口腔・顎顔面領域の機能障害</p>	<p>E-2-4) - (10) 口腔・顎顔面領域の機能障害</p>

< 3. 歯と歯周組織の常態と疾患 >

【歯と歯周組織の疾患の診断と治療】

現行	改訂案
<p>F-3 歯と歯周組織の常態と疾患</p> <p>F-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療</p> <p>到達目標:</p> <p>F-3-3) -(1) う蝕の診断と治療 (新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>F-3-3) -(2) 歯髄・根尖歯周組織疾患の診断と治療</p> <p>*①歯髄・根尖歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。 【検査法を含む。】</p> <p>(新設)</p> <p>*⑥歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。</p> <p>*⑦歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。</p> <p>⑧歯髄・根尖歯周組織疾患の簡単な症例を処置できる。</p> <p>F-3-3) -(3) 歯周疾患の診断と治療</p> <p>*①歯周疾患の症状を説明できる。</p> <p>F-3-3) -(4) 象牙質知覚過敏症の診断と治療</p>	<p>E-3 歯と歯周組織の常態と疾患</p> <p>E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療</p> <p>到達目標:</p> <p>E-3-3) -(1) う蝕の診断と治療</p> <p>*③tooth wear(酸蝕症、咬耗、摩耗等)の原因、症状、診断および処置を説明できる。</p> <p>*④MI(Minimal Intervention)に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。</p> <p>*⑤生活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。</p> <p>E-3-3) -(2) 歯髄・根尖歯周組織疾患の診断と治療</p> <p>*①歯髄・根尖歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。 【検査法を含む。症状の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】</p> <p>*⑥歯内外科手術の種類と適応症を説明できる。</p> <p>*⑦失活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。</p> <p>*⑧歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。</p> <p>⑨歯髄・根尖歯周組織疾患の簡単な症例を処置できる。</p> <p>E-3-3) -(3) 歯周疾患の診断と治療</p> <p>*①歯周疾患の症状を説明できる。【症状の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】</p> <p>E-3-3) -(4) 象牙質知覚過敏症の診断と治療</p>

【歯質欠損と歯の欠損の診断と治療】

現行	改訂案
<p>F-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療</p> <p>到達目標：</p> <p>F-3-4) -(1) 歯冠修復</p> <p>*①歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義を説明できる。</p> <p>*②修復材料と修復法の種類と特徴およびその適応を説明できる。</p> <p>*⑤歯髄保護の種類を述べ、その重要性を説明できる。</p> <p>*⑨研究模型と作業模型の製作方法を説明できる。</p> <p>*⑩平均値咬合器および調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。</p> <p>【使用方法を含む。】</p> <p>*⑪修復後の術後管理の目的と方法を説明できる。</p> <p>*⑫歯の硬組織疾患の診査と検査および診断ができる。</p> <p>⑬簡単な歯冠修復処置を行うことができる。</p> <p>⑭修復後の適切なメンテナンスができる。</p> <p>⑮歯髄保護の術式を適切に実施できる。</p>	<p>E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療</p> <p>到達目標：</p> <p>E-3-4) -(1) う蝕および硬組織疾患の治療</p> <p>*①う蝕および硬組織疾患に対する歯冠修復の臨床的意義を説明できる。</p> <p>*②修復材料と修復法の適応を説明できる</p> <p>*⑤歯髄保護の種類と方法を述べ、その重要性を説明できる。</p> <p>(E-3-4) -(2) ⑦へ移動)</p> <p>(E-3-4) -(2) ⑧へ移動)</p> <p>*⑨修復後の術後管理の目的と方法を説明できる。</p> <p>*⑩う蝕および硬組織疾患の診察、検査および診断ができる。</p> <p>⑪う蝕および硬組織疾患の簡単な修復処置を行うことができる。</p> <p>⑫修復後の適切なメンテナンスができる。</p> <p>⑬歯髄保護の術式を適切に実施できる。</p>
<p>F-3-4) -(2) 固定性義歯 (橋義歯)</p> <p>*①橋義歯の意義と具備条件を説明できる。</p> <p>*②橋義歯の種類と特徴を説明できる。</p> <p>*③支台装置とポンティックの選択、特徴および製作法を説明できる。</p> <p>*④橋義歯における支台歯形成の方法を説明できる。</p>	<p>E-3-4) -(2) クラウンブリッジによる治療</p> <p>*①クラウンブリッジの意義と具備条件を説明できる。</p> <p>*②クラウンおよびブリッジの種類、特徴および製作法を説明できる。</p> <p>【ポンティックの選択を含む。】</p> <p>*③支台築造の意義、種類および特徴を説明できる。</p> <p>*④支台歯形成の意義と方法を説明できる。</p>

<p>*⑤リテーナーの意義を説明できる。</p> <p>*⑥橋義歯の製作に必要な材料の特性と各基本的操作を説明できる。 (F-3-4) - (1)⑨より移動 (F-3-4) - (1)⑩より移動</p> <p>*⑦橋義歯製作のための咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。</p> <p>*⑧橋義歯の維持管理の目的と方法を説明できる。</p> <p>*⑨フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明し、調節性咬合器の基本的操作ができる。</p> <p>*⑩歯の欠損に伴う歯・口腔・顎顔面領域の変化に対して必要な診察、検査ならびに診断ができる。</p> <p>*⑪橋義歯の設計を適切にできる。</p> <p>⑫支台装置の製作過程における基本的手技ができる。</p> <p>*⑬橋義歯の装着後における定期健診の重要性を説明し、指導できる。</p>	<p>*⑤暫間補綴装置の意義とその製作法を説明できる。</p> <p>*⑥クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。</p> <p>*⑦研究用模型と作業用模型の製作方法を説明できる。</p> <p>*⑧平均値咬合器および調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。 【使用方法を含む。】</p> <p>*⑨クラウンブリッジ製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。</p> <p>*⑩クラウンブリッジの維持管理の目的と方法を説明できる。</p> <p>*⑪フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明し、調節性咬合器の基本的操作ができる。</p> <p>*⑫歯の欠損に伴う歯・口腔・顎顔面領域の変化に対して必要な診察、検査ならびに診断ができる。</p> <p>*⑬クラウンブリッジの設計を適切にできる。</p> <p>*⑭クラウンブリッジの製作過程における基本的手技ができる。</p> <p>*⑮クラウンブリッジ装着後における定期健診の重要性を説明し、指導できる。</p>
<p>F-3-4) - (3)可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯)</p> <p>*②即時義歯の目的と意義を説明できる。</p> <p>*③治療用義歯の目的と意義を説明できる。</p> <p>*④可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。</p> <p>*⑤可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。</p> <p>*⑥可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。</p>	<p>E-3-4) - (3)可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯)</p> <p>*②可撤性義歯の種類と目的と意義を説明できる。</p> <p>*③可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。</p> <p>*④可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。</p> <p>*⑤可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。</p>

<p>*⑦可撤性義歯の構成要素を説明できる。</p> <p>*⑧咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。</p> <p>*⑨下顎運動の記録法を説明できる。</p> <p>*⑬可撤性義歯の調整、ライニング、リベースおよび修理を説明でき、適切に行うことができる。</p> <p>F-3-4) - (4)デンタルインプラント</p> <p>①デンタルインプラントの種類と特性を説明できる。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>	<p>*⑥可撤性義歯の構成要素を説明できる。</p> <p>*⑦印象採得の種類と方法を説明できる。</p> <p>*⑧咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。</p> <p>*⑨下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。</p> <p>*⑬可撤性義歯の調整、ライン、リベースおよび修理を説明でき、適切に行うことができる。</p> <p>E-3-4) - (4)インプラント義歯</p> <p>*①インプラント義歯の種類、目的および意義を説明できる。</p> <p>*②インプラント義歯の基本構造を説明できる。</p> <p>③インプラント義歯に必要な診察と検査を説明できる。</p> <p>④インプラント義歯の適応症と合併症を説明できる。</p>
---	---

#### < 4. 歯科医療の展開 >

##### 【不正咬合】

現行	改訂案
<p>F-4 歯科医療の展開</p> <p>F-4-1) 不正咬合</p> <p>到達目標：</p> <p>*⑥矯正装置の種類と用途を説明できる。</p> <p>*⑧矯正治療によって起こる生体の反応を説明できる。</p> <p>*⑨矯正治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その処置と予防法を説明できる。</p>	<p>E-4 歯科医療の展開</p> <p>E-4-1) 不正咬合</p> <p>到達目標：</p> <p>*⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p> <p>*⑧矯正治療によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。</p> <p>*⑨矯正治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。</p>

【小児の歯科治療】

現行	改訂案
<p>F-4-2) 小児の歯科治療</p> <p>一般目標：(略)</p> <p>到達目標：</p> <p>*②乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴を説明できる。 (新設)</p> <p>*③乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意事項を説明できる。 【小児のラバーダム防湿法を含む。】</p> <p>*④乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎の診察、検査と診断を説明できる。</p> <p>*⑤乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎の処置法の種類と適応症、予後および手順と留意点を説明できる。</p> <p>*⑥小児の歯の外傷の診察、検査と診断および処置法と予後を説明できる。</p> <p>*⑦咬合誘導の概念を説明できる。</p> <p>*⑧保隙処置の目的と種類、適応症および留意点を説明できる。 (新設)</p> <p>⑨小児の歯科疾患の簡単な症例を処置できる。 (新設)</p>	<p>E-4-2) 小児の歯科治療</p> <p>一般目標：(略)</p> <p>到達目標：</p> <p>*②乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴、う蝕予防を説明できる。</p> <p>*③乳歯と幼若永久歯のう蝕のう蝕の診察、検査と診断を説明できる。</p> <p>*④乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意事項を説明できる。 【小児のラバーダム防湿法を含む。】</p> <p>*⑤乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖歯周組織疾患の診察、検査と診断を説明できる。</p> <p>*⑥乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖歯周組織疾患の処置法の種類と適応症、予後および手順と留意点を説明できる。</p> <p>*⑦小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査と診断および処置法と予後を説明できる。</p> <p>*⑧咬合誘導の概念を説明できる。</p> <p>*⑨保隙処置の目的と種類、適応症および留意点を説明できる。</p> <p>*⑩小児患者の対応について説明できる。</p> <p>⑪小児の歯科疾患の簡単な症例を処置できる。</p> <p>⑫小児の虐待の徴候と対応について説明できる。</p>

### 【障害者の歯科治療】

現行	改訂案
<p>F-4-4) 障害者の歯科治療</p> <p>到達目標：</p> <p>*②障害者の行動調整(行動管理)と歯科治療を説明できる。</p> <p>③障害者に対して歯科保健指導ができる。</p> <p>(新設)</p> <p>④障害者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。</p>	<p>E-4-4) 障害者の歯科治療</p> <p>到達目標：</p> <p>*②障害者の行動調整(行動管理)と歯科治療に必要な注意点を説明できる。</p> <p>③障害者およびその介護者に対して歯科保健指導ができる。</p> <p>④障害者における口腔ケア処置について説明できる。</p> <p>⑤障害者に対する基本的な対応と歯科治療の介助ができる。</p>

### 【心因性疾患】

現行	改訂案
<p>F-4-5) 心因性疾患</p> <p>到達目標：</p> <p>*②心身症を説明できる。</p> <p>⑤舌痛症を概説できる。</p> <p>(新設)</p>	<p>E-4-5) 心因性疾患</p> <p>到達目標：</p> <p>*②歯科心身症を説明できる。</p> <p>*⑤舌痛症を概説できる。</p> <p>⑦心身医学的治療を説明できる</p>



### 3. 未来の歯科医療を拓く研究者の養成

#### (改訂趣旨)

未来の歯科医療を拓く歯科医学の発展には、学生一人ひとりが、広く生命科学、医学、歯科医学の基礎を基盤として、常に自らの診断・治療技術等を検証し磨き続ける意欲や態度を育むことが必要である。このため、未来の歯科医療を拓く研究者の養成に向けて、学生一人ひとりの研究マインドの涵養に資するよう、必要な改訂を行う

#### (改訂方針)

研究マインドは、研究者のみならず、良き臨床歯科医であるためにも必須の要素であることから、学部教育のあらゆる段階を通じて研究マインドの涵養が図られるよう、「歯科医師として求められる基本的資質」の記載内容を修正するとともに、「研究マインドの涵養」に係る項目を新設し、関連項目について必要な改訂を行う。

#### (具体的な改訂内容)

##### (1) 「歯科医師として求められる基本的な資質」について

- 現行の「歯科医師として求められる基本的な資質」の⑦について、上記「改訂趣旨」を踏まえ、全体的視点から重要性を強調するため、以下のとおり改訂する。

現行	改訂案
歯科医師として求められる基本的な資質  ⑦ 歯科医学・医療の進歩における歯科医学研究の必要性を理解し、研究に参加するとともに、絶えず医療の質の向上に努め生涯にわたり学習する意欲と態度を有する。	歯科医師として求められる基本的な資質  ⑦ 歯科医学・医療の進歩向上のため、研究マインドを涵養し、絶えず歯科医療の質の向上に努め、生涯にわたり学習する意欲と態度を有する。

##### (2) 研究マインドの涵養について

- 上記「改訂方針」に基づき、現行の「B 歯科医師としての基本的な態度」に「研究マインドの涵養」に関する項目を新設し、以下のとおり改訂する。
- なお、今般の改訂に伴う関連領域（「A 医の原則」と「B 歯科医師としての基本的な態度」）の統合（39ページ参照）に伴い、現行Bを新たに「A 基本事項」とし、生涯学習に係る内容を整理する。

現行	改訂案
<p>B 歯科医師としての基本的態度</p> <p>B-1 生涯学習</p> <p>一般目標： 歯科医師として生涯にわたり学習するための態度と技能を身につける。</p> <p>B-1-1) 問題発見・解決能力</p> <p>一般目標： 自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決するための能力を培う。</p> <p>到達目標：</p> <p>①情報を自ら収集、分析して問題点を探し出すことができる。</p> <p>②問題点を論理的に整理し、解決方法を自ら見出すことができる。</p> <p>③必要に応じて他の学習者や教員と協力して、最適な解決方法を見出すことができる。</p> <p>B-1-2) 学習の在り方</p> <p>一般目標： 歯科医学・医療に関連する情報を重要性和必要性にしたがって客観的・批判的に統合整理する基本的能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>①講義、国内外の教科書・論文、検索情報などの内容について、重要事項や問題点を抽出して文書または口頭でわかりやすく説明できる。</p> <p>②得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えをわかりやすく表現できる。</p> <p>③実験、実習の成果を文章または図表に表わすことができ、また、文書と口頭で発表できる。</p> <p>④後輩たちへの適切な指導が実践できる。</p> <p>⑤各自の興味に応じて選択制カリキュラム（医学研究・歯科医学研究等）に参加する。</p> <p>⑥歯科治療に関する科学的根拠を説明できる。</p>	<p>A 基本事項</p> <p>A-6 生涯学習</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p>

<p>B-1-3) 生涯学習への準備</p> <p>一般目標：        学問や科学技術の進歩と社会の変化に対応した生涯学習者としての能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</p> <p>到達目標：        ①生涯学習の重要性を説明できる。        ②生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>	<p>A-6-1) 生涯学習への準備</p> <p>一般目標：        学問や科学技術の進歩と社会の変化に対応した生涯学習者としての能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</p> <p>到達目標：        (削除)        (削除)</p> <p>①自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる        ②歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。        ③医療の改善のために不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることの重要性を説明できる。</p> <p>(削除)        (削除)        (削除)</p>
<p>B-1-4) 医療の評価・検証と科学研究</p> <p>一般目標：        医療の改善のために不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることを学ぶ。</p> <p>到達目標：        *①科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の必要性を説明できる。        *②患者による医療の評価の重要性を説明できる。        *③研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われるべきことを説明できる。</p> <p>④医療改善のための科学研究(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に参加する。</p> <p>(新設)        (新設)        (新設)</p>	<p>(削除)        (削除)        (削除)</p> <p>(削除)        (削除)        (削除)</p> <p>(削除)</p> <p>A-6-2) 研究マインドの涵養</p> <p>一般目標：        生命科学や医療技術の成果を生涯を通じて学び、病因や病態を解明するなどの研究マインドを涵養する。</p>

(新設)	<p>到達目標：</p> <p>①研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進に行われるべきことを説明できる</p> <p>②生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。</p> <p>③患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の進化につなげることができる。</p> <p>④検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することができる。</p>
(新設)	
(新設)	
(新設)	
(新規)	

## 4. その他

### (1) 様々な社会的ニーズへの対応

#### (対応趣旨)

様々な社会的ニーズのうち、緊急性が高く、歯科の関与により社会への貢献が大きいと考えられる項目を優先して対応する。

#### (対応方針)

上記「対応趣旨」を踏まえ、歯科による個人識別による大規模災害などにおける被害者の迅速な特定、犯罪被害者の特定による犯罪防止、歯科疾患の状況や外傷等による児童虐待の発見や通報による児童虐待防止等について明記する。

#### (具体的な対応内容)

- 上記「対応方針」に基づき、歯科所見による個人識別に関する学習項目を現行の「C-2-2) 保健・医療・福祉制度」に新設するとともに、児童虐待に関する学習項目を「F-4-2 小児歯科」に新設し、以下のとおり改訂する。
- なお、今般の改訂に伴う関連領域(「A 医の原則」と「B 歯科医師としての基本的な態度」)の統合(39ページ参照)に伴い、現行Cを新たにB、Fを新たにEとする。

現行	改訂案
C 社会と歯学 C-2-1) 歯科医師法・関係法規(略) C-2-2) 保健・医療・福祉制度(略) (新設)	B 社会と歯学 B-2-1) 歯科医師法・関係法規(略) B-2-2) 保健・医療・福祉制度(略) B-2-3) 歯科による個人識別 一般目標： 歯科による個人識別の重要性を理解する。 到達目標： ①個人識別について説明できる。 ②歯科による個人識別について説明できる。
C-2-3) 環境と健康(略)	B-2-4) 環境と健康(略)
F 臨床歯学教育 F-4-2) 小児の歯科治療 到達目標： (新設)	E 臨床歯学教育 E-4-2) 小児の歯科治療 到達目標： ⑫小児の虐待の徴候と対応について説明できる。

なお、これまでの委員会や大学・学会からの意見、各種要望等に係る様々な社会的ニーズのうち、医療全体を取り巻く情勢変化、過年度からの検討経過等を踏まえ、下記の医療横断的な事項について、今後実施予定のパブリック・コメントの結果等を含めて総合的に検討した上で、必要性や緊急性が高い内容については、モデル・コア・カリキュラム全体の量的抑制に留意しつつ、今回の改訂に際して、可能な範囲で対応する。

1) 医療安全

(患者及び医療従事者の安全性確保(薬害等) 等)

2) チーム医療

(医療分野における多職種連携(医学・歯学等の連携) 等)

3) その他

(男女共同参画の促進 等)

## (2) モデル・コア・カリキュラムの利便性向上等に係る対応

1) 全体構成の工夫

(項目全体の順序、項目間の関係 等)

2) 関連領域の整理

(領域の統合整理 等)

3) 表記の調整(量的過剰状態への対応を含む)

(誤記修正 等)

※ 「今回のモデル・コア・カリキュラム改訂に係る基本方針」の「1. モデル・コア・カリキュラムの基本理念」に基づく、教育現場におけるモデル・コア・カリキュラムの利便性向上に資するよう、上記事項について対応を検討し、今回の改訂に際して、可能な範囲で対応し、上記1)、2)、3)の未改訂部分については、今後の改訂課題とする。

(2) モデル・コア・カリキュラムの利便性向上等に係る対応【現時点での改訂内容】

1) 全体構成の工夫

○「準備教育モデル・コア・カリキュラム」との関係の明確化

専門教育の早期化に伴い、準備教育の期間が減少し、カリキュラムが過密になる恐れがあるため、「準備教育モデル・コア・カリキュラム」における専門教育に関連が深い「生命現象の科学」の項目について、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の「生命科学」領域において、内容を整理した上で明確化する。

現行	改訂案
<p>D 生命科学 【出題内容は歯科臨床に関係することが望ましい。】</p> <p>D-1 生命の分子的基盤 D-1-1) 生命を構成する基本物質 到達目標： *⑤酵素の働きと主な代謝異常を説明できる。</p> <p>D-1-2) 遺伝子と遺伝 一般目標：(略) 到達目標： *①～*④(略) (新設)</p> <p>D-1-3) 細胞の構造と機能 到達目標： *②細胞骨格を説明できる。【機能を含む。】 *③細胞の分泌と吸収機構を説明できる。 *④細胞周期と細胞分裂を説明できる。 *⑤細胞死の基本的機序を説明できる</p> <p>D-1-4) 細胞のコミュニケーション 到達目標： *①細胞の接着装置を説明できる。 *②細胞間と細胞・マトリックス間の接着分子を説明できる。</p>	<p>C 生命科学 (削除)</p> <p>C-1 生命の分子的基盤 C-1-1) 生命を構成する基本物質 到達目標： *⑤酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。</p> <p>C-1-2) 遺伝子と遺伝 一般目標：(略) 到達目標： *①～*④(略) *⑤遺伝性疾患の発生の機序を説明できる。</p> <p>C-1-3) 細胞の構造と機能 到達目標： (削除) *②細胞の分泌と吸収機構を説明できる。 *③細胞周期と細胞分裂を説明できる。 *④細胞死(壊死とアポトーシス)の基本的機序を説明できる</p> <p>C-1-4) 細胞のコミュニケーション 到達目標： *①細胞の接着装置、細胞間と細胞・マトリックス間の接着分子を説明できる。 (削除)</p>

\*③受容体を介するホルモン、成長因子、サイトカインによる細胞間の情報伝達機構を概説できる。

\*④細胞内シグナル伝達機構を概説できる。

\*⑤主な細胞外マトリックス分子の構造と働きを説明できる。

#### D-2 人体の構造と機能

D-2-3) 身体を構成する組織、器官  
到達目標:

D-2-3) -(1)組織(上皮組織、支持組織、筋組織)

(新設)

\*①~\*⑤ (略)

\*⑥軟骨内骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。

\*⑦~\*⑧ (略)

D-2-3) -(6)消化器系

\*①消化管(食道、胃、小腸、大腸)の基本構造と機能を説明できる。

【平滑筋の特徴と消化管ホルモンの働きを含む。】

D-2-3) -(9)泌尿器系

\*②体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。

【酸-塩基平衡を含む。】

(新設)

\*③水代謝と主な電解質の出納を説明できる。

(新設)

D-2-3) -(10)生殖器系

\*①男性生殖器、女性生殖器の構造と機能を説明できる。

(新設)

D-2-3) -(11)血液、造血器、リンパ網内系

\*②受容体を介するホルモン、成長因子、サイトカインによる細胞間、細胞内の情報伝達機構を概説できる。

(削除)

\*③主な細胞外マトリックス分子の構造と機能を説明できる。

#### C-2 人体の構造と機能

C-2-3) 身体を構成する組織、器官  
到達目標:

C-2-3) -(1)組織(上皮組織、結合組織、筋組織)

【神経組織の構造と機能は

C-2-3) -(5)神経系の項を参照】

\*①~\*⑤ (略)

\*⑥内軟骨性骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。

\*⑦~\*⑧ (略)

C-2-3) -(6)消化器系

\*①消化管(咽頭、食道、胃、小腸、大腸)の基本構造と機能を説明できる。

【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】

C-2-3) -(9)泌尿器系

\*②体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。

(削除)

【ネフロン働き(濾過、再吸収、分泌)を含む。】

\*③水代謝と主な電解質の出納を説明できる。

【酸-塩基平衡を含む。】

C-2-3) -(10)生殖器系

\*①男性生殖器、女性生殖器の構造と機能を説明できる。

【ホルモンによる調節を含む。】

C-2-3) -(11)血液、造血器、リンパ性器官



D-3 感染と免疫

D-3-1) 感染

一般目標：

微生物の種類と特性および寄生、感染を理解するとともに、防御の手段としての滅菌、消毒および化学療法を理解する。

到達目標：

- \*①細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と生理学的性状を説明できる。
- \*②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染成立の機序とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。
- \*③清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。
- \*④化学療法の目的、原理および作用機序を説明できる。

(新設)

(新設)

D-3-2) 免疫

一般目標：

寄生、感染と生体の防御機構を理解する。

到達目標：

- \*③免疫担当細胞の種類と働きを説明できる。【免疫臓器と抗体を含む。】
- \*④免疫寛容を説明できる。

C-3 感染と免疫

C-3-1) 感染

一般目標：

微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態を理解する。

到達目標：

- \*①細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。
- \*②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。

(削除)

- \*③化学療法の目的、原理および作用機序を説明できる。
- \*④新興・再興感染症について説明できる。
- \*⑤院内感染について、原因、予防法について説明できる

C-3-2) 免疫

一般目標：

免疫系を分子レベルで理解し、生体防御機構としての免疫反応、主な免疫不全・自己免疫疾患、アレルギー反応を理解する。

到達目標：

- \*③免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。(削除)
- \*④自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。

<p>D-4 病因と病態</p> <p>D-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 到達目標： *③壊死とアポトーシスについて説明できる。</p> <p>D-4-2) 修復と再生 (略)</p> <p>D-4-3) 循環障害 到達目標： *①~*② (略) *③血栓症の形態学、成因と条件および転帰を説明できる。 *④塞栓症について塞栓の運ばれる経路、塞栓、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態および転帰を説明できる。 *⑥ (略) *⑦ショックの原因と成因を説明できる。</p> <p>D-4-4) 炎症 一般目標： 炎症の概念、発症機構および病理組織学的分類を理解する。 到達目標： *②炎症細胞の種類と働きを説明できる。 *③炎症の分類、病理組織学的変化および経時的変化を説明できる。 *④炎症の原因別分類と病因特異的組織変化を説明できる。</p> <p>D-4-5) 腫瘍 一般目標： 腫瘍の病理・病態および発生原因を理解する。 到達目標： *①腫瘍の定義を説明できる。</p>	<p>C-4 病因と病態</p> <p>C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 到達目標： *③アポトーシスと疾患の関連性について説明できる。</p> <p>C-4-2) 修復と再生 (略)</p> <p>C-4-3) 循環障害 到達目標： *①~*② (略) *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 *④塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。 *⑥(略) *⑦ショックの成因と種類を説明できる。</p> <p>C-4-4) 炎症 一般目標： 炎症の概念、発症機構および病理組織学的特徴を理解する。 到達目標： *②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 *③滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的変化を説明できる。 *④肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的変化を説明できる。</p> <p>C-4-5) 腫瘍 一般目標： 腫瘍の病因と病態を理解する。 到達目標： *①腫瘍の定義を説明できる。</p>
--	--

<p>*②腫瘍の組織発生を説明できる。 【発生原因を含む。】</p> <p>*③異形成、退形成および分化を説明できる。</p> <p>*④腫瘍の異型性と多形性を説明できる。</p> <p>*⑤～*⑥ (略)</p> <p>D-5 生体と薬物 D-5-3) 薬物の適用と体内動態 一般目標： 種々の方法で適用された薬物の生体内運命を理解する。</p>	<p>*②腫瘍の病因を理解する。</p> <p>*③異形成を説明できる。</p> <p>*④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。</p> <p>*⑤～*⑥ (略)</p> <p>C-5 生体と薬物 C-5-3) 薬物の適用と体内動態 一般目標： 適用された薬物の生体内運命を理解する。</p>
--	---

## 2) 関連領域の整理

### ○「A 医の原則」と「B 歯科医師としての基本的な態度」の統合・整理

現行	改訂案
<p>A 医の原則 A-1～A-4 (略) A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保 一般目標： 医療上の事故等（ヒヤリハット、アクシデント、医療過誤等を含む）は日常的に起こる可能性があることを認識し、事故を防止し、患者の安全確保を最優先することにより信頼される医療を提供しなければならないことを理解する。 到達目標：*①～⑤ (略) *⑥医療機関における安全管理体制（事故報告書、ヒヤリハット報告、リスク管理者、事故防止委員会、事故調査委員会等）を概説できる。 ⑦ (略)</p>	<p>A 基本事項 A-1～A-4 (略) A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保 一般目標： 医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）は日常的に起こる可能性があることを認識し、事故を防止し、患者の安全確保を最優先することにより、信頼される医療を提供しなければならないことを理解する。 到達目標：*①～⑤ (略) *⑥医療機関における安全管理体制（事故報告書、インシデント・レポート、リスク管理者、事故防止委員会、事故調査委員会等）を概説できる。 ⑦ (略)</p>

<p>A-5-2) 医療上の事故等への対処と予防 一般目標： 実際に医療上の事故等（ヒヤリハット、アクシデント、医療過誤等を含む）が発生した場合の対処の仕方を身につける。 到達目標： *①（略） *②医療上の事故等（ヒヤリハット、アクシデント、医療過誤等を含む）の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。 *③医療上の事故等（ヒヤリハット、アクシデント、医療過誤等を含む）が発生した時の緊急処置や記録、報告について説明できる。 *④～*⑤（略）</p>	<p>A-5-2) 医療上の事故等への対処と予防 一般目標： 実際に医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）が発生した場合の対処の仕方を身につける。 到達目標： *①（略） *②医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。 *③医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤等を含む）が発生した時の緊急処置や記録、報告について説明できる。 *④～*⑤（略）</p>
<p>B 歯科医師としての基本的な態度 B-1 生涯学習 一般目標： 歯科医師として生涯にわたり学習するための態度と技能を身につける。 B-1-1) 問題発見・解決能力 一般目標： 自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決するための能力を培う。 到達目標： ①情報を自ら収集、分析して問題点を探し出すことができる。 ②問題点を論理的に整理し、解決方法を自ら見出すことができる。 ③必要に応じて他の学習者や教員と協力して、最適な解決方法を見出すことができる。</p>	<p>(削除) A-6 生涯学習 (削除) (削除) (削除) (削除) (削除) (削除) (削除) (削除)</p>

<p>B-1-2) 学習の在り方</p> <p>一般目標：          歯科医学・医療に関連する情報を重要性和必要性にしたがって客観的・批判的に統合整理する基本的能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>①講義、国内外の教科書・論文、検索情報などの内容について、重要事項や問題点を抽出して文書または口頭でわかりやすく説明できる。</p> <p>②得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えをわかりやすく表現できる。</p> <p>③実験、実習の成果を文章または図表に表わすことができ、また、文書と口頭で発表できる。</p> <p>④後輩たちへの適切な指導が実践できる。</p> <p>⑤各自の興味に応じて選択制カリキュラム（医学研究・歯科医学研究等）に参加する。</p> <p>⑥歯科治療に関する科学的根拠を説明できる。</p>	<p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p>
<p>B-1-3) 生涯学習への準備</p> <p>一般目標：          学問や科学技術の進歩と社会の変化に対応した生涯学習者としての能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>①生涯学習の重要性を説明できる。</p> <p>②生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。</p> <p>(新設)【再掲】</p> <p>(新設)【再掲】</p>	<p>A-6-1) 生涯学習への準備</p> <p>一般目標：          学問や科学技術の進歩と社会の変化に対応した生涯学習者としての能力（知識、技能、態度・行動）を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>①自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる</p> <p>②歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。</p>

<p>(新設)【再掲】</p> <p>B-1-4) 医療の評価・検証と科学研究 一般目標： 医療の改善のために不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることを学ぶ。</p> <p>到達目標： *①科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の必要性を説明できる。 *②患者による医療の評価の重要性を説明できる。 *③研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われるべきことを説明できる。 ④医療改善のための科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加する。</p>	<p>③医療の改善のために不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることの重要性を説明できる。</p> <p>(削除) (削除) (削除) (削除) (削除) (削除) (削除)</p>
<p>(新設)【再掲】 (新設)【再掲】 (新設)【再掲】</p> <p>(新設)【再掲】 (新設)【再掲】</p> <p>(新設)【再掲】</p> <p>(新設)【再掲】</p>	<p>A-6-2) 研究マインドの涵養 一般目標： 生命科学や医療技術の成果を生涯を通じて学び、病因や病態を解明するなどの研究マインドを涵養する。</p> <p>到達目標： ①研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進に行われるべきことを説明できる。 ②生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。 ③患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。</p>

<p>(新設) 【再掲】</p> <p>B-2 対人関係能力  B-2-1) コミュニケーション  一般目標：(略)  到達目標：  *①コミュニケーションの目的と技法を説明できる。  【患者本人、保護者および介護者への説明を含む。】  *② (略)  (新設)</p> <p>B-2-2) 医療面接 (略)  B-2-3) チーム歯科医療  一般目標：  歯科医療におけるチームワークの重要性を理解し、他の医療従事者との連携を学ぶ。  到達目標：(略)</p>	<p>④検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することができる。</p> <p>A-7 対人関係能力  A-7-1) コミュニケーション  一般目標：(略)  到達目標：  *①コミュニケーションの目的と技法（言語的と非言語的）を説明できる。  【患者本人、保護者および介護への説明を含む。】  *② (略)  *③コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>A-7-2) 医療面接(略)  A-7-3) チーム医療  一般目標：  チーム医療の重要性を理解し、他の医療従事者との連携を学ぶ。  到達目標：(略)</p>
---	--

### 3) 表記の調整（量的過剰状態への対応を含む）

#### ○ 記載内容の見直し（再掲）

生涯学習に関する項目（現行B-1）の記載内容を見直し、項目数を減少。

<29 頁以降参照>

## ○「歯科として求められる基本的な資質」について（全体版）

現行	改訂案
① 人の口腔健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科医師の職責への十分な自覚のもとに、歯科医師の義務や医療倫理を遵守し、絶えず患者本位の立場に立つ。	① 人の口腔健康を守ることで、人の心と体を守ることに寄与する歯科医師の職責への十分な自覚のもとに、歯科医師の義務や医療倫理を遵守し、絶えず患者本位の立場に立ち、患者を全人的に診る。
② 生命の尊厳についての深い認識のもとに、豊かな人間性を有する。	② 生命の尊厳についての深い認識のもとに、豊かな人間性を有する。
③ 歯科医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践的能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的診療能力）を有する。	③ 歯科医師として、患者の口腔のみならず、全身的、精神的、社会的状況に対応するための実践的能力（統合された知識、技能、態度に基づく総合的診療能力）を具有する。
④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームの一員としての行動や後輩等に対する指導を適切に行える。	④ 人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームのメンバーを相互に尊重し、その一員としての適切な行動をとり、後輩等に対する指導を行える。
⑤ 患者及びその家族の秘密を守る。	⑤ 診療上知り得た患者及びその家族の情報を守秘し、医療の安全性を確保する。
⑥ 歯科医師として、地域における医療・保健・福祉などの連携および医療の経済的側面などの医療を巡る動向に関心・理解を有する。	⑥ 歯科医師として、地域における保健・医療・福祉・介護等の現状と問題点を把握し、その連携強化等の改善・充実に貢献するとともに常に医療の経済的側面等を巡る動向を理解する。
⑦ 歯科医学・医療の進歩における歯科医学研究の必要性を理解し、研究に参加するとともに、絶えず医療の質の向上に努め生涯にわたり学習する意欲と態度を有する。	⑦ 歯科医学・医療の進歩向上のため、研究マインドの涵養し、絶えず歯科医療の質の向上に努め、生涯にわたり学習する意欲と態度を有する。